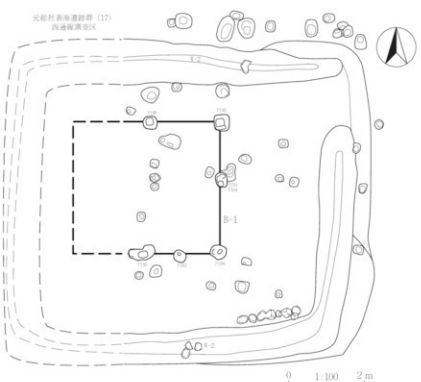
元総社蒼海遺跡群（29）

前橋市都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２０１０．３

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元総社蒼海遺跡群（29）



3区　B－1号掘立柱建物跡
（S＝1/100）

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

1　2区全景（南西から）

2　3区全景（南から）

3　1区W－2号溝跡全景（北から）

4　3区B－1号掘立柱建物跡全景（東から）

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感ぜられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（29）は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定地域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴住居跡や中世蒼海城の堀跡を検出しました。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成22年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長　戸塚良明

例　言

1　本報告書は前橋市都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（29）発掘調査報告書である。
2　調査主体は前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3　発掘調査の要項は下記のとおりである。

調査場所	群馬県前橋市元総社町1926番ほか
遺跡コード	21Ａ130－29
発掘調査期間	平成21年９月24日～平成21年12月14日
整理・報告書作成期間	平成21年12月１日～平成22年３月12日
発掘・整理担当者	山田誠司（技研測量設計株式会社）

4　本書の編集は山田が行なった。執筆分担はⅠを神宮　聡（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）、Ⅱを佐野良平（技研測量設計株式会社）、他を山田が担当した。
5　人骨の鑑定については、宮崎重雄氏のご助言を賜った。記して感謝の意を表します。
6　発掘調査及び整理作業に関わった方々は次のとおりである。

桃園正志（調査員）　飯塚常子　石川輝子　今井美智子　内嶋勝義　遠藤逸子　大川悦子　岡野　茂　女屋みどり　木村広美　小暮孝一　小嶋八重子　佐藤和彦　佐藤文江　佐藤百合子　四宮明俊　須藤香織　高橋一巳　高山　愛　瀧澤佳子　武井綾子　竹澤賢司　田部井美砂子　鳥山浪江　長田友香　西潟　登　平野ミツ子　福島縁子　星野光雄　堀越晴子　本多和子　間庭啓治　三原一重　矢内可郎　矢内ヒロ子　山下雅江　湯浅澄子　横沢百合子　吉田文江（以上、作業員・整理補助員）

7　発掘調査及び整理作業全般において、宇佐美義春・前田和昭・佐野良平・中村岳彦・大川明子（技研測量設計株式会社）から多大な助力を得た。
8　発掘調査で出土した遺物及び図面等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。
9　以下の諸氏・諸機関に御指導・御協力を賜りました。記して謝意を表します（順不同・敬称略）。

有山径世　瀬田哲夫　日沖剛史　水谷貴之　山下工業株式会社

凡　例

1　挿図中に使用した北は、座標北である。
2　挿図に国土地理院発行１/200,000『宇都宮』『長野』、１/25,000『前橋』、前橋市発行１/25,000都市計画図を使用した。
3　遺構及び遺構施設の略称は次のとおりである。

Ｈ…竪穴住居跡　Ｗ…溝跡　Ｂ…掘立柱建物跡　Ｔ…竪穴状遺構　Ｉ…井戸跡　Ｄ…土坑　Ｐ…ピット
ＤＢ…土壙墓　　例外として地下式坑および火葬跡は略称を用いていない。

4　土層・遺物の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に拠る。
5　遺構・遺物の図面の縮尺は原則として以下のとおりである。その他は各図のスケールを参照されたい。

遺構　住居跡・土坑・ピット・溝跡・掘立柱建物跡・竪穴状遺構・井戸跡…1/60、1/100
　　住居カマド…1/30　土壙墓・火葬跡…1/20
遺物　土器・石製品…1/3、1/4、1/6　鉄製品…1/2　古銭…1/2

6　遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下のとおりである。

床硬化範囲　灰・焼土・粘土　須恵器（還元焔焼成）　石器磨面

7　表中の計測値において、（　）は現存値、［　］は復元値を表す。
8　遺物写真は、土器を1/4、石製品を1/6に近づけるように撮影した。それ以外のものは（　）内に示している。
9　主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。As－B（浅間Ｂ軽石：1108年）、Hr－FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：６世紀中葉）、Hr－FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：６世紀初頃）、As－C（浅間Ｃ軽石：４世紀前半）
10　調査・整理時において調査区名は７・９・12区の名称を用いているが、本報告内では順に１・２・３区とした。

目　次

口絵1
口絵2
序
例言・凡例

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 1
Ⅲ　調査の方針と経過 …… 5
Ⅳ　基本層序 …… 5
Ⅴ　遺構と遺物 …… 9
Ⅵ　まとめ …… 31

挿図目次

Fig. 1　遺跡の位置
Fig. 2　周辺遺跡図 …… 2
Fig. 3　基本層序 …… 5
Fig. 4　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図 …… 6
Fig. 5　1区・2区全体図 …… 7
FIg. 6　3区全体図 …… 8
Fig. 7　蒼海城跡縄張図および1区位置図 …… 31
Fig. 8　1区W－1号溝跡 …… 33
Fig. 9　1区W－2号溝跡 …… 34
Fig.10　1区W－3号溝跡、地下式坑、P－11号ピット …… 35
Fig.11　1区Ｉ－1号井戸跡、D－1～3号土坑、P－1～10・12～14号ピット …… 36
Fig.12　2区H－1号住居跡、D－20号土坑 …… 37
FIg.13　2区H－2・4・17・18号住居跡、D－17号土坑 …… 38
Fig.14　2区H－17・18号住居跡カマド …… 39
Fig.15　2区H－3・12・23号住居跡 …… 40
Fig.16　2区H－3・12・23号住居跡カマド …… 41
FIg.17　2区H－5・8号住居跡 …… 42
Fig.18　2区H－6号住居跡、T－2号竪穴状遺構 …… 43
FIg.19　2区H－7号住居跡、DB－2号土壙墓 …… 44
Fig.20　2区H－9号住居跡 …… 45
Fig.21　2区H－10号住居跡、D－3号土坑 …… 46
Fig.22　2区H－11・16・21号住居跡、W－5号溝跡 …… 47
FIg.23　2区H－13・14・15号住居跡、W－4号溝跡 …… 48
FIg.24　2区H－19・20号住居跡、D－7号土坑、P－1号ピット …… 49
FIg.25　2区H－22号住居跡 …… 50
FIg.26　2区W－1・2号溝跡、Ｉ－1号井戸跡、D－9・11・21・22号土坑・P－6号ピット …… 51
FIg.27　2区W－3・6号溝跡、D－15号土坑、P－29～31号ピット …… 52
FIg.28　2区T－1号竪穴状遺構、D－1・2・4・5・6・8・10・14・23号土坑、DB－3号土壙墓 …… 53
FIg.29　2区ピット …… 54
FIg.30　2区D－12号土坑、DB－1・4号土壙墓 …… 55
Fig.31　2区DB－5～8号土壙墓 …… 56
Fig.32　2区DB－9～11号土壙墓 …… 57
Fig.33　2区D－16号土坑、DB－12～14号土壙墓 …… 58
Fig.34　2区1・2号火葬跡 …… 59
Fig.35　3区H－1・2号住居跡 …… 60
FIg.36　3区H－3号住居跡 …… 61
Fig.37　3区B－1号掘立柱建物跡、W－2号溝跡 …… 62
Fig.38　3区T－1号竪穴状遺構、D－7～10号土坑、Ｉ－1・2号井戸跡 …… 63
Fig.39　3区W－1・3号溝跡 …… 64
Fig.40　3区D－1～6・11～14号土坑 …… 65
Fig.41　3区調査区南側ピット群 …… 66
Fig.42　3区調査区中央ピット群 …… 67
Fig.43　3区ピット（1） …… 68
Fig.44　3区ピット（2） …… 69
Fig.45　3区ピット（3） …… 70
FIg.46　1区W－1・2号溝跡、地下式坑出土遺物 …… 71
Fig.47　1区地下式坑出土遺物 …… 72
Fig.48　1区地下式坑・遺構外、2区H－1・2号住居跡出土遺物 …… 73
Fig.49　2区H－3～10号住居跡出土遺物 …… 74
FIg.50　2区H－11・12・14～18号住居跡出土遺物 …… 75
Fig.51　2区H－19～23号住居跡出土遺物 …… 76
FIg.52　2区T－1・2号竪穴状遺構、W－1～6号溝跡、D－14・17・20号土坑、DB－1～4・6～9号土壙墓出土遺物 …… 77
Fig.53　2区DB－10・11・13号土壙墓、1号火葬跡、遺構外、3区H－1・2号住居跡出土遺物 …… 78
FIg.54　3区H－3号住居跡、T－1号竪穴状遺構、W－2号溝跡出土遺物 …… 79
Fig.55　3区W－2号溝跡、Ｉ－1号井戸跡、D－4・13号土坑、P－10・17・55・185・186号ピット、遺構外出土遺物 …… 80

表目次

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群(29)周辺遺跡概要一覧表 …… 3
Tab. 2　土坑計測表 …… 21
Tab. 3　ピット計測表 …… 21
Tab. 4　1区出土遺物観察表 …… 24
Tab. 5　2区出土遺物観察表 …… 24
Tab. 6　3区出土遺物観察表 …… 29

写真図版目次

PL. 1　1区W1・2号溝跡全景
PL. 2　1区地下式坑全景
PL. 3　2区調査区全景、2区H－1号住居跡
PL. 4　2区H－2～7・17・18号住居跡
PL. 5　2区H－8～13・21号住居跡
PL. 6　2区H－14～16・19・20・22号住居跡
PL. 7　2区H－23号住居跡、T－1号竪穴状遺構、W－1・3・6号溝跡、DB－2・4号土壙墓
PL. 8　2区DB－7～9号土壙墓、1・2号火葬跡
PL. 9　3区調査区全景、B－1号掘立柱建物跡
PL.10　3区H－1～3号住居跡、T－1号竪穴状遺構、W－1号溝跡、Ｉ－1号井戸跡、ピット群
PL.11　出土遺物（1区）
PL.12　出土遺物（1区）
PL.13　出土遺物（2区）
PL.14　出土遺物（2区）
PL.15　出土遺物（2区）
PL.16　出土遺物（3区）

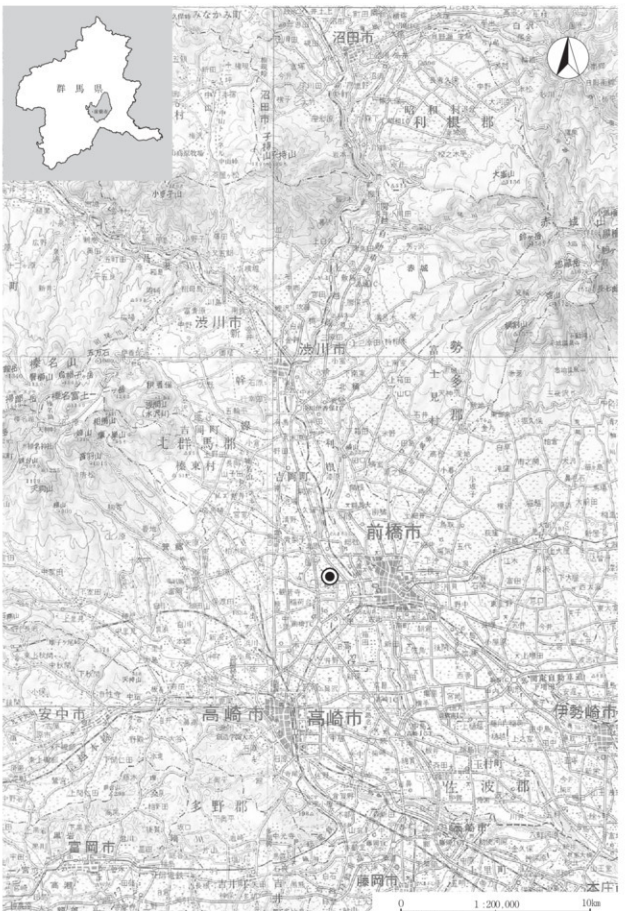


Fig. 1　遺跡の位置

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、10年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成21年８月11日付けで前橋市長 高木政夫（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 戸塚良明（以下「調査団」という。）に発掘調査実施について協議を行った。しかし、調査団では既に直営による発掘調査を実施しており、調査団直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託したいとの回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成21年９月17日付けで前橋市と調査団との間で発掘調査業務契約を締結し、その後、９月18日付けで調査団と民間調査組織である技研測量設計株式会社 代表取締役社長 嶋田大和との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査を開始した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（29）」（遺跡コード：21A130－29）の「元総社蒼海」は区画整理事業名を採用し、数字の「（29）」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置

本調査地は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約３kmの地点、前橋市元総社地内に所在し、西約0.7kmには関越自動車道が南北に、南には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東約0.5kmには市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。本調査地の立地する地形は、前橋台地上、榛名山麓を源にする牛池川、染谷川が開析・形成した細長い微高地との比高３～５mを測る。遺跡が立地する台地上は主として桑畑などの畠地として利用されているが、本遺跡地の所在する位置は南東に開く緩やかな谷地形を呈しており、水田として利用されていた。

2　歴史的環境

本遺跡が立地する元総社地域には上野国府推定地や上野国分寺を中心に連綿と遺跡が広がる地域である。周辺では関越自動車道建設や区画整理事業等に伴う発掘調査が行われており、多くの遺物・遺構が確認されている。本遺跡周辺地域における時代ごとの遺跡の概要は以下の通りである。

縄文時代の遺跡は八幡川右岸の微高地上に産業道路東［17］・産業道路西［18］・総社閑泉明神北Ⅲ遺跡［63］、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域［24］・元総社小見Ⅲ遺跡［60］・元総社蒼海遺跡群（24）［66］などが挙げられ、竪穴住居跡が確認されている。

弥生時代に遺跡としては日高遺跡［20］・［21］、上野国分僧寺・尼寺中間地域［24］、正観寺遺跡［23］等があるが、その分布は散漫である。

古墳時代になると本遺跡周辺の区域は県内でも中心的な地域であったことが窺われる。それを示すものとして総社古墳群が挙げられ、古墳時代後期・終末期に至り、王山古墳［９］、総社二子山古墳［14］、愛宕山古墳［12］、宝塔山古墳［15］、蛇穴山古墳［10］等の首長墓が多数築造された。

奈良・平安時代に至ると、本遺跡周辺は上野国府、国分寺［４］、国分尼寺［５］、山王廃寺［６］の建設に示されるように古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡の南東の区域におよそ900m四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡［16］、

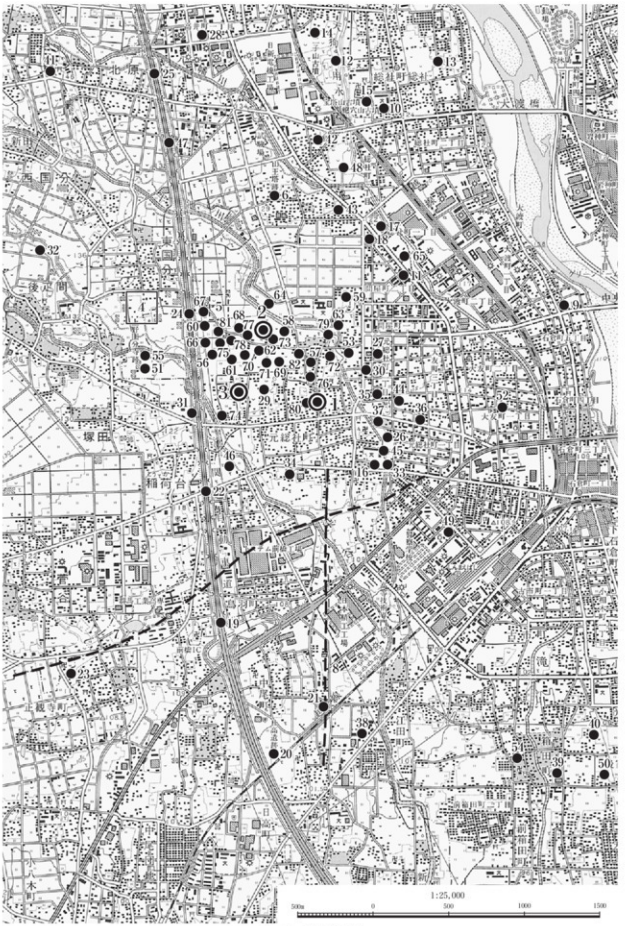


Fig. 2　周辺遺跡図

元総社寺田遺跡［44］、元総社宅地遺跡［57］などがある。また元総社明神遺跡［26］では南北方向の溝跡、閑泉樋遺跡［27］では東西方向の大溝が確認され、国府域の東外郭線が想定された。

国分寺は昭和55年以降の調査により、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。国分尼寺は昭和44・45年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成12年の前橋市埋蔵文化財発掘調査団の確認調査により、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。関連遺跡として中尾遺跡［19］、鳥羽遺跡［22］、上野国分僧寺・尼寺中間地域［24］などが挙げられる。

山王廃寺は昭和３年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和49～56年にかけて７次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」箆書平瓦の出土により山王廃寺が「山ノ上碑」「上野交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。また平成９～11年の調査でも土坑から大量の塑像が出土、平成18・19年の調査では北・東・西面の回廊を検出している。

また本遺跡の南約1.5kmにはＮ－64°－Ｅ方向に東山道（国府ルート）が、日高遺跡［21］では幅約4.5mの推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。これらは当時の交通網を物語る重要な遺構である。

室町時代になると上野国守護の上杉氏から上野国守護代に任命された長尾氏が永享元年（1429）に蒼海城を築き、これを本拠地とした。蒼海城は県内でも最古級の城郭に位置づけられ、縄張りは国府の掘割と関連が深いと考えられている。本遺跡周辺には屋敷に堀を巡らした城館跡が数多く認められる。元総社蒼海遺跡群（21）・(23)［80・82］では蒼海城の堀跡が確認されており、元総社蒼海遺跡群（25）［72］では南宋～元時代の青磁梅瓶が出土している。

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群（29）　１区	2009	本遺跡
2	元総社蒼海遺跡群（29）　２区	2009	本遺跡
3	元総社蒼海遺跡群（29）　３区	2009	本遺跡
4	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
5	上野国分尼寺跡	（1999）	奈良：西南隅・東南隅築垣
6	山王廃寺跡	（1974）	奈良：塔心礎・根巻石・金堂基壇・講堂版築・回廊礎石
7	東山道（推定）	－	
8	日高道（推定）	－	
9	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（６ｃ中）
10	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（８ｃ初）
11	稲荷山古墳	1988	古墳：円墳（６ｃ後半）
12	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（7ｃ初）
13	浦見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（５ｃ後半）
14	総社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（６ｃ末～７ｃ初）
15	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（７ｃ末）
16	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周溝跡
17	産業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
18	産業道路西遺跡		縄文：住居跡
19	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
20	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農具、平安：条里制水田跡
21	日高遺跡（高崎市）	（1978）	弥生：水田跡
22	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
23	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979～81	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
24	上野国分僧寺・尼寺中間地域（事業団）	1980～83	縄文：住居跡・配石遺構、弥生：住居跡・方形周溝墓、古墳：住居跡、 奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
25	北原遺跡（群馬町）	1982	縄文：土坑・集石遺構、古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
26	元総社明神遺跡Ⅰ～ⅩⅢ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：住居跡・溝跡
27	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡
28	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983、1988	奈良・平安：住居跡・溝跡
29	草作遺跡	1984	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：井戸跡
30	閑泉樋南遺跡	1985	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡
31	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
32	後疋岡遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985～87	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構
33	寺田遺跡	1986	平安：溝跡
34	大神遺跡・Ⅱ遺跡	1986、88	奈良・平安：住居跡
35	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986、95	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡・石敷遺構
36	堀越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
37	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
38	勝呂遺跡	1987	平安：水田跡
39	村前遺跡	1987	平安：溝状遺構・水田跡
40	五反田遺跡	1987	平安：水田跡
41	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
42	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
43	昌楽寺側向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
39	塚越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
44	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
45	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡
45	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	1989、95	古墳：住居跡、平安：住居跡
45	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
46	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
47	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：土壙墓
48	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
49	元総社稲葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
50	五反田Ⅱ遺跡	1995	平安：水田跡
51	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
52	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
53	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
54	箱田川西遺跡	1999	古墳：溝状遺構、平安：水田跡
55	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
56	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝・道路状遺構
57	元総社宅地遺跡Ⅰ～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡
57	元総社小見内Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡・溝跡
51	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：畠跡、近世：溝跡
58	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
59	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
59	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・道路状遺構
60	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構
61	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
61	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壙墓
62	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
63	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
64	元総社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中近世：掘立柱建物跡、水田跡・火葬墓
65	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳:住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
61	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
60	元総社小見Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
66	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：畠跡、中世：畠跡
67	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
64	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡・溝跡
64	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：竪穴状遺構
68	元総社小見Ⅵ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
68	元総社小見Ⅶ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
69	元総社小見Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
60	元総社小見内Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
70	元総社小見内Ⅹ遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘度採掘坑、中世：溝跡・土壙墓
66	元総社蒼海遺跡群（２）、（６）	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・井戸跡・鍛冶工房跡、中世：溝跡
60	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
71	元総社蒼海遺跡群（１）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
70	元総社蒼海遺跡群（４）	2005	縄文：住居、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
72	元総社蒼海遺跡群（５）	2005	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：周溝上遺構・土壙墓
70	元総社蒼海遺跡群（７）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
69	元総社蒼海遺跡群（８）	2006	奈良・平安：住居跡
56	元総社蒼海遺跡群（９）・（10）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡
73	元総社蒼海遺跡群（11）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
74	元総社蒼海遺跡群（12）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：井戸跡
75	元総社蒼海遺跡群（13）	2008	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡中・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
73	元総社蒼海遺跡群（14）	2008	古墳：住居跡・水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・竪穴状遺構・井戸跡
76	元総社蒼海遺跡群（15）	2008	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡
77	元総社蒼海遺跡群（16）	2008	奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：溝跡
78	元総社蒼海遺跡群（18）	2008	平安：住居跡
79	元総社蒼海遺跡群（19）	2008	古墳：小区画水田跡、中世：井戸跡
80	元総社蒼海遺跡群（21）	2009	中世：蒼海城の堀跡・盛土状遺構
81	元総社蒼海遺跡群（22）	2009	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
80・82	元総社蒼海遺跡群（23）	2009	古墳：住居跡、平安：土坑、中世：蒼海城の堀跡
66	元総社蒼海遺跡群（24）	2009	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・竪穴状遺構、中世：方形竪穴・井戸
72	元総社蒼海遺跡群（25）	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：南宋～元時代の青磁梅瓶２個体
－	元総社蒼海遺跡群（26）～（28）・（30）・（31）	2009	発掘調査中

参考文献

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000　『元総社小見遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001　『元総社小見内Ⅲ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002　『元総社小見遺Ⅳ跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002　『元総社小見Ⅲ遺跡・元総社草作Ⅴ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003　『元総社小見内Ⅵ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003　『元総社小見内Ⅷ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2005　『元総社小見内Ⅸ遺跡・総社閑泉明神北Ⅴ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2006　『元総社蒼海遺跡群（４）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2006　『元総社蒼海遺跡群（５）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2008　『元総社蒼海遺跡群（13）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2008　『元総社蒼海遺跡群（14）・（19）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2008　『元総社蒼海遺跡群（15）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2008　『元総社蒼海遺跡群（16）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2008　『元総社蒼海遺跡群（18）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2009　『元総社蒼海遺跡群（22）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2009　『元総社蒼海遺跡群（23）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2009　『元総社蒼海遺跡群（24）』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2009　『元総社蒼海遺跡群（25）』

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、調査面積は１区約545㎡、２区約765㎡、３区約440㎡、総調査面積は約1750㎡である。グリッド座標については国家座標（日本測地系）X＝＋44000.000、Y＝－72200.000を基点とする４ｍピッチのものを使用した。

公共座標については以下のとおりである。

測点	日本測地系（第Ⅸ系）		世界測地系（第Ⅸ系）	
１区　X206・Y211	X＝＋43156.000	Y＝－71376.000	X＝＋43510.912	Y＝－71667.765
２区　X121・Y109	X＝＋43560.000	Y＝－71716.000	X＝＋43914.905	Y＝－72007.756
３区　X083・Y187	X＝＋43248.000	Y＝－71864.000	X＝＋43606.912	Y＝－72159.758

調査方法については、表土掘削・遺構確認・遺構掘り下げ・遺構精査・測量および写真撮影の手順で実施した。図面作成はトータルステーションによる測量を主とし、写真記録は35㎜モノクロ・リバーサル、デジタルカメラの３種類を使用した。また、２区全景撮影に関してはラジコンヘリコプターでの空中撮影を実施した。

2　調査経過

本遺跡の発掘調査は平成21年９月25日より現地調査を開始した。重機による表土掘削は９月25日から10月５日にかけて実施した。各調査区での大まかな遺構確認を行ない、遺構軒数の多い２区を先行して遺構の掘り下げを開始する事とした。２区での調査にある程度の見通しが立った10月27日より１区での遺構掘り下げを開始した。１区では蒼海城跡に伴う大規模な堀跡を検出し、一部湧水により調査に困難を伴ったが、11月６日に全景撮影を実施し、11月13日に埋め戻しを完了する。その後、２区での調査を再開し、11月28日に空中撮影および全景撮影を行ない、12月２日に埋め戻しを完了した。また２区での調査と併行して11月24日から３区での遺構掘り下げを行ない、12月６日に全景撮影、12月14日に埋め戻しを完了し、現地での調査を終了した。

Ⅳ　基本層序

各調査区の基本層序はFig3のとおりである。１区はⅡ層上面、２区・３区はⅢ層上面が、それぞれの遺構確認面となる。

１区基本層序
Ⅰ．表土層。
Ⅱ．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。一部、鉄分の沈着が見られる。締まり強く、粘性弱い。
Ⅲ．にぶい黄橙色（10YR6/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い。
Ⅳ．黄褐色（10YR5/6）砂質土。締まり極めて強く、粘性弱い。礫混の硬い層。
Ⅴ．褐色（10YR4/4）砂質土。鉄分の沈着が見られる。締まり強く、粘性弱い。

２区基本層序
Ⅰ．表土層。
Ⅱ．黒褐色（10YR3/1）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。黄分的に2ｃｍ程の石を含む。
Ⅲ．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり強く、粘性弱い。
Ⅳ．にぶい黄褐色（10YR5/3）砂質土。締まり極めて強く、粘性弱い。ローム粒子を多く含むローム層掘層。
Ⅴ．褐色（10YR4/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い。
Ⅵ．明黄褐色（10YR6/6）砂質土。締まり強く、粘性弱い。

３区基本層序
Ⅰ．盛土層。
Ⅱ．耕作土層。Ⅱ'　層は床土層である。
Ⅲ．黒灰色（10YR2/1）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。ローム小粒子を少量含む。
Ⅳ．にぶい黄褐色（10YR5/3）砂質土。締まり強く、粘性弱い。ローム粒子を多く含む。
Ⅴ．褐色（10YR4/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い。

Fig.３　基本層序

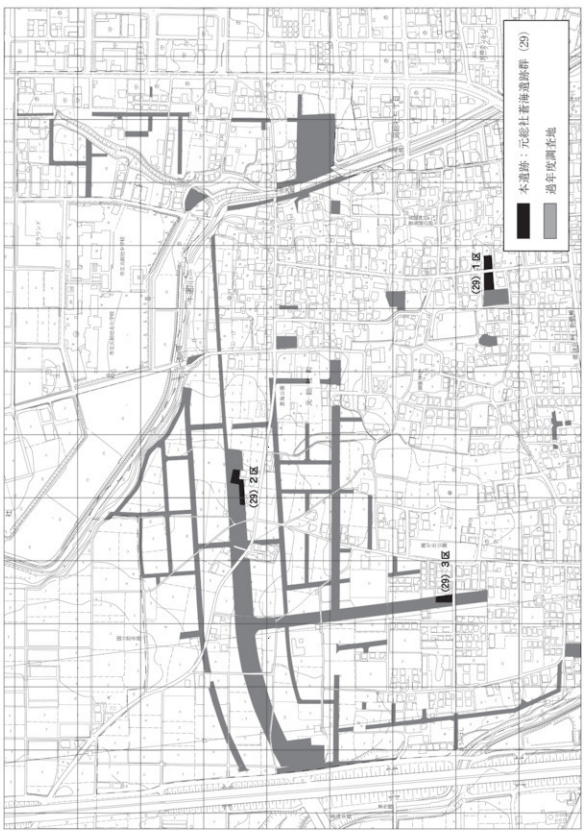


Fig.4　元能社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

Fig.5　1区・2区全体図

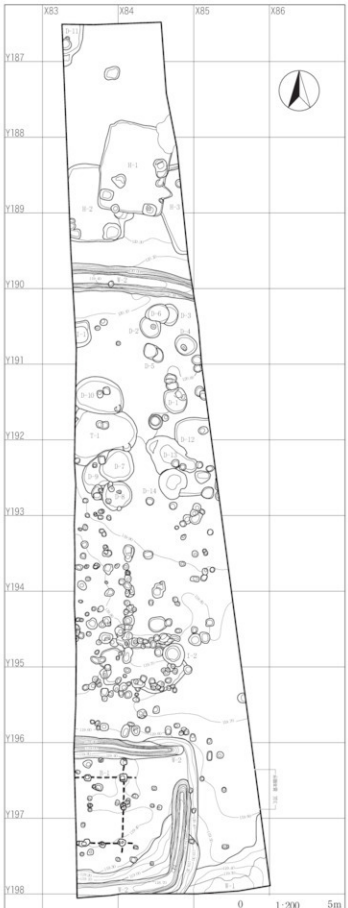

X83
X84
X85
X86
Y187
Y188
Y189
Y190
Y191
Y192
Y193
Y194
Y195
Y196
Y197
Y198
0
1:200
5m

Fig. 6　3区全体図

Ⅴ　遺構と遺物

1区

（1）溝跡

W－1号溝跡（Fig.8、PL.1・11）

位置　X215～220、Y212・213グリッド　**主軸方向**　N－81°－E　**長さ**　（18.89）m　**最大幅**　上端（5.09）m、下端（1.54）m。　**深さ**　（1.81）m　**形状等**　断面U字状。堀の落ち込む角度は極めて強く、一部にオーバーハングする箇所も見られるが、南半の落ち込みは調査区外に当たるため、現状では不明である。底部は比較的平坦である。なお底部より40cm前後の高さまで砂層と小礫層による水成堆積土層を確認しており、通水・帯水の可能性も考えられる。　**重複**　地下式坑と重複しており、新旧関係は本遺構→地下式坑の順である。　**出土遺物**　カワラケ、土師質土器坏、宝篋印塔など。　**備考**　蒼海城に関連する堀の一部と考えられ、本丸東側を東西方向に走る。なお、1区は山崎氏の縄張り図（1978）に extrapolate した出雲屋敷の範囲にあたり、後述するW－2号溝跡は南北方向の堀と一致するものと思われるが、本遺構と思われる堀は表されていない。なお、出土遺物である宝篋印塔の基礎側面に「応永」年号を含む銘文を確認できるが、埋没土中からの出土であり、本遺構の埋没過程において外部より流れ込んだものと思われる。

W－2号溝跡（Fig.9、PL.1・11）

位置　X211～213、Y211～214グリッド　**主軸方向**　N－12°－W　**長さ**　11.9m　**最大幅**　上端9.81m、下端3.96m。　**深さ**　4.04m　**形状等**　湧水が激しく、安全を考慮し壁際のみでの確認であるため断定はできないが底部は平坦になり、断面は台形状を呈するものと思われる。落ち込む角度はW－1号溝跡に比べると、緩やかである。　**出土遺物**　土師器坏、内耳鍋、火鉢など。　**備考**　W－1号溝跡と同じく蒼海城に伴う堀の一部と考えられ、本丸東側を南北方向に走る。なお、W－1号溝跡と交わると想定されるが、調査区間の現有道路下にあたり、現状では両者の先後関係などを含めた確認は不可能である。

W－3号溝跡（Fig.10）

位置　X207、Y212～214グリッド　**主軸方向**　N－5°－W　**長さ**　9.74m　**最大幅**　上端0.65m、下端0.51m。　**深さ**　0.21m　**形状等**　断面U字状。　**備考**　出土遺物がなく、詳細は不明である。

（2）井戸

I－1号井戸跡（Fig.11）

位置　X219、Y211グリッド　**形状等**　円形。上幅（1.00）×（0.98）m、深さ（1.39）m。　**出土遺物**　土師器坏、カワラケ、内耳鍋。　**時期**　出土遺物より、中世以降と考えられる。

（3）地下式坑

地下式坑（Fig.10、PL.2・11）

位置　X215・216、Y212・213グリッド　**主軸方向**　N－74°－E　**規模**　地下室長軸（1.86）m、地下室短軸（1.78）m、深さ（1.83）m。深さについては竪坑上端より地下室底面までの計測値である。　**形状等**　地下室は平面形態がやや縦長の長方形で、単室である。竪坑の平面形態は円形で、無段で地下室と連結する。なお、地下室に付属施設は伴わない。　**重複**　W－1と重複しており、新旧関係はW－1→本遺構である。　**出土遺物**　石臼類、石鉢、五輪塔など。　**時期**　切り合い関係より、17世紀代と思われる。　**備考**　所謂、地下式坑で北側に竪坑を

穿つ。覆土が僅かに間入するが、地下室から竪坑上部に至るまで、石臼類・五輪塔を中心とする大型の石製品および拳大～人頭大の礫を多量に検出し、これらの石類をもって閉塞していたようである。本遺構が造られた時期については、W－１号溝跡の覆土中に本遺構のプランを確認できたことなどから、少なくともW－１号溝跡がある程度の埋没をしてから以降と考えられる。

（４）土坑・ピット

土坑・ピットについては、Tab.2・３の計測表を参照のこと。

２区

（１）竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.12、PL.3・13）

位置　X131・132、Y112・113グリッド　**主軸方向**　N－58°－E　**規模**　東西3.54m、南北4.49m、壁現高70.2cm。　**面積**　[8.79]㎡　**床面**　ほぼ平坦で部分的に硬化が見られる。　**竈**　東壁に位置する。全長141.3cm、最大幅50.7cm、構築材に粘土を用いる。袖石および、原位置は保っていないが天井石の残存を確認した。また、竈中央に支脚と、それに被せた坏を検出している。　**重複**　Ｈ－22と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－22である。　**出土遺物**　土師器坏・甕、石製紡錘車など。　**時期**　出土遺物から７世紀中頃と考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig.13、PL.4・13）

位置　X130・131、Y110グリッド　**主軸方向**　N－73°－E　**規模**　東西（2.53）m、南北（3.75）m、壁現高50.1cm。　**面積**　（5.38）㎡　**床面**　ほぼ平坦で部分的に硬化が見られる。　**重複**　Ｈ－17・18と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－17→Ｈ－18である。　**出土遺物**　須恵器坏・甕、土師器坏・甕。　**時期**　出土遺物から７世紀中頃～後半と考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Fig.15・16、PL.4・13）

位置　X128・129、Y112・113グリッド　**主軸方向**　N－75°－E　**規模**　東西3.85m、南北（3.33）m、壁現高54.7cm。　**面積**　（8.81）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、部分的に硬化面が見られる。　**竈**　東壁に位置する。全長71.5cm、最大幅61.3cm、構築材に粘土を用いる。煙道先端はＨ－23により、削平されている。　**重複**　Ｈ－12・23、ＤＢ－９・13と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－12→Ｈ－23→ＤＢ－９・13である。　**出土遺物**　須恵器坏・蓋・甕、土師器坏・甕、鉄製品（鉄鏃）など。　**時期**　出土遺物および切り合い関係から、７世紀後半～８世紀前半と考えられる。

Ｈ－４号住居跡（Fig.13、PL.4・13）

位置　X132、Y109グリッド　**主軸方向**　N－78°－E　**規模**　東西（2.08）m、南北（0.92）m、壁現高53.9cm。　**面積**　（0.32）㎡　**床面**　ほぼ平坦で部分的に硬化が見られる。　**重複**　Ｈ－17と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－17である。　**出土遺物**　覆土中より須恵器坏・甕、土師器坏・甕。　**時期**　切り合い関係からＨ－17に先行し、覆土中からの出土遺物からは７世紀後半～８世紀前半と考えられる。

Ｈ－５号住居跡（Fig.17、PL.4・13）

位置　X133、Y110グリッド　**主軸方向**　N－92°－E　**規模**　東西（0.93）m、南北（1.35）m、壁現高28.1cm。　**面積**　（0.57）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、全体的に硬化は弱い。　**重複**　Ｈ－８と重複し、新旧関係は

本遺構→Ｈ－８である。　**出土遺物**　須恵器坏・甕、土師器坏・甕。　**時期**　出土遺物が微量・覆土出土であり、詳細は不明だが切り合い関係から等を含めると、７世紀後半に所属すると考えられる。

Ｈ－６号住居跡（Fig.18、PL.4・13）

位置　X127・128、Y114グリッド　**主軸方向**　Ｎ－81°－Ｅ　**規模**　東西［4.08］m、南北（2.64）m、壁現高51.1cm。　**面積**　（7.18）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、竈前面を中心に硬化面が見られるが、全体的には硬化は弱い。　**竈**　東壁に位置する。全長84.0cm、最大幅41.7cm、構築材に粘土を用いる。竈中央に支脚を検出した。焚口前面に掘り込みが見られる。　**重複**　Ｔ－２と重複し、新旧関係は本遺構→Ｔ－２である。　**出土遺物**　土師器坏・甕など。　**時期**　出土遺物から７世紀後半～８世紀前半と考えられる。

Ｈ－７号住居跡（Fig.19、PL.4・14）

位置　X124・125、Y113・114グリッド　**主軸方向**　Ｎ－78°－Ｅ　**規模**　東西3.22m、南北4.44m、壁現高31.1cm。　**面積**　12.09㎡　**床面**　ほぼ平坦で、部分的に硬化面が見られるが、全体的には硬化はやや弱い。　**竈**　東壁に位置する。全長91.8cm、最大幅61.3cm、構築材に粘土を用いる。竈中央やや左袖よりに支脚を検出した。　**重複**　ＤＢ－２、2号火葬跡と重複し、新旧関係は本遺構→ＤＢ－２・2号火葬跡である。　**出土遺物**　土師器坏、須恵器坏・盤など。　**時期**　出土遺物から８世紀前半と考えられる。

Ｈ－８号住居跡（Fig.17、PL.5・14）

位置　X133・134、Y110グリッド　**主軸方向**　Ｎ－91°－Ｅ　**規模**　東西3.97m、南北（2.59）m、壁現高48.6cm。　**面積**　（6.46）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、住居のほぼ全面にローム由来の小ブロックを含む暗褐色粘質土を中心とする貼床を施す。全面的にやや強く硬化する。　**竈**　東壁に位置する。全長133.2cm、最大幅0.35cm、構築材に粘土を用いる。　**重複**　Ｈ－５と重複し、新旧関係はＨ－５→本遺構である。　**出土遺物**　須恵器坏・高坏・甕、土師器坏・甕、平瓦・丸瓦など。　**時期**　出土遺物から８世紀中頃と考えられる。

Ｈ－９号住居跡（Fig.20、PL.5・14）

位置　X134・135、Y112・113グリッド　**主軸方向**　Ｎ－75°－Ｅ　**規模**　東西4.84m、南北（2.66）m、壁現高58.3cm。　**面積**　（6.40）㎡　**床面**　ほぼ平坦で全面的に硬化が強い。　**竈**　東壁に位置する。全長120.6cm、最大幅56.4cmで、右袖は調査区外にあたり詳細は不明だが、左袖は地山を削り出して構築していることを確認した。燃焼部は皿状に掘り込み、緩やかに傾斜した後に一段をもって煙道へ至る。　**出土遺物**　須恵器坏・甕、土師器坏・甕、平瓦・丸瓦などが出土しているが、いずれも小破片で、図示し得たのは土師器坏２点である。　**時期**　出土遺物から８世紀後半と考えられる。

Ｈ－10号住居跡（Fig.21、PL.5・14）

位置　X129・130、Y113・114グリッド　**主軸方向**　Ｎ－77°－Ｅ　**規模**　東西3.58m、南北（3.70）m、壁現高68.3cm。　**面積**　（9.21）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、部分的に硬化が見られるが、全面的に硬化は弱い。　**竈**　東壁に位置する。全長（49.2）cm、最大幅（66.6）cm、構築材に粘土を用いる。燃焼部中央から煙道にかけてＨ－19に切られている。　**重複**　Ｈ－19と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－19である。　**出土遺物**　須恵器甕、土師器坏・甕など。　**時期**　出土遺物から８世紀後半～９世紀前半と考えられる。

Ｈ－11号住居跡（Fig.22、PL.5・14）

位置　X133・134、Y111・112グリッド　**主軸方向**　N－90°－E　**規模**　東西3.67m、南北（4.09）m、壁現高36.6cm。　**面積**　（11.48）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、周溝付近を除き、全面的に硬化が見られる。　**竈**　東壁に位置する。全長73.5cm、最大幅（51.7）cm、構築材に粘土を用いる。現位置は保っていないものの、左袖部前に袖石を検出した。右袖部については H－21により削平される。　**重複**　H－16・21、W－5と重複し、新旧関係は本遺構→H－16・21→W－5である。　**出土遺物**　須恵器坏・甕、土師器坏・甕、鉄製品（鉄滓か）など。　**時期**　出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

H－12号住居跡（Fig.15・16、PL.5・14）

位置　X129、Y112グリッド　**主軸方向**　N－81°－E　**規模**　東西（1.56）m、南北（3.04）m、壁現高48.8cm。　**面積**　（2.79）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、全体的に硬化は弱い。　**竈**　東壁に位置する。全長57.7cm、最大幅84.0cm、構築材に粘土を用いる。焚口付近に切り石状の花崗岩が見られ、原位置は保っていないが袖石および天井石になると思われる。なお、右袖部は残存せず、煙道先端は攪乱を受けている可能性が高い。　**重複**　H－3と重複し、新旧関係はH－3→本遺構である。　**出土遺物**　土師器坏・甕。　**時期**　出土遺物から8世紀後半～9世紀前半と考えられる。

H－13号住居跡（Fig.23、PL.5）

位置　X135、Y111・112グリッド　**主軸方向**　N－82°－E　**規模**　東西（0.87）m、南北（2.23）m、壁現高64.0cm。　**面積**　（0.62）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、全面的に硬化は弱い。　**重複**　H－14と重複し、新旧関係は本遺構→H－14である。　**出土遺物**　須恵器坏・甕、土師器坏・甕などが出土しているが、いずれも小破片で、図示には至らなかった。　**時期**　出土遺物および切り合い関係からから8世紀～9世紀代と考えられる。

H－14号住居跡（Fig.23、PL.6）

位置　X135、Y110・111グリッド　**主軸方向**　N－82°－E　**規模**　東西（3.01）m、南北（4.54）m、壁現高52.9cm。　**面積**　（6.00）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、全体的に硬化は弱い。　**重複**　H－13・15と重複し、新旧関係はH－13→本遺構→H－15である。　**出土遺物**　須恵器坏・土師器坏などが出土しているが、いずれも小破片のため図示には至らなかった。なお、本遺構とH－15覆土より、環状つまみをもつ須恵器蓋が出土しており、遺構の一定点を示しているものと思われる。　**時期**　出土遺物が微量・覆土出土であり、詳細は不明だが切り合い関係から8世紀～9世紀代と考えられる。

H－15号住居跡（Fig.23、PL.6・14）

位置　X135・136、Y110グリッド　**主軸方向**　N－96°－E　**規模**　東西（2.92）m、南北（1.58）m、壁現高47.1cm。　**面積**　（4.58）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、全体的に硬化は弱い。　**重複**　H－14と重複し、新旧関係はH－14→本遺構である。　**出土遺物**　須恵器坏・土師器坏、鉄製品（刀子）など、うち刀子を図示。　**時期**　出土遺物が微量・覆土出土であり、詳細は不明だが切り合い関係から8世紀～9世紀代と考えられる。

H－16号住居跡（Fig.22、PL.6）

位置　X133・134、Y110・111グリッド　**主軸方向**　N－86°－E　**規模**　東西2.55m、南北3.37m、壁現高20.7cm。　**面積**　［7.30］㎡　**床面**　ほぼ平坦で部分的に硬化が見られる。　**竈**　東壁に位置する。全長40.0m、最大幅（31.5）cm、右袖はW－5により削平される。燃焼部の掘り込みはほとんど見られず、ほぼ平坦である。　**重複**　H－11、W－5と重複し、新旧関係はH－11→本遺構→W－5である。　**出土遺物**　須恵器坏・甕、土

師器坏・甕、灰釉陶器など。　**時期**　出土遺物から９世紀後半と考えられる。

Ｈ－17号住居跡（Fig.13・14、PL.4・14）

位置　X131・132、Y109・110グリッド　**主軸方向**　Ｎ－71°－Ｅ　**規模**　東西2.69m、南北（3.25）m、壁現高33.1cm。　**面積**　（5.82）㎡　**床面**　ほぼ平坦で部分的に硬化が見られる。　**竈**　東壁に位置する。全長55.7cm、最大幅85.2cm、周辺の覆土中に竈構築土と思われる粘土塊を確認した。右袖はＤ－18による削平を受けており、残存しない。　**重複**　Ｈ－２・４・18、Ｄ－17・18と重複し、新旧関係はＨ－２・４→本遺構→Ｈ－18→Ｄ－17・18である。　**出土遺物**　須恵器坏・甕、羽釜、灰釉陶器など。　**時期**　出土遺物および切り合い関係から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－18号住居跡（Fig.13・14、PL.4・14）

位置　X131・132、Y110・111グリッド　**主軸方向**　Ｎ－92°－Ｅ　**規模**　東西3.26m、南北3.12m、壁現高41.7cm。　**面積**　（8.26）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、住居のほぼ全面にローム由来の小ブロックを含む暗褐色粘質土を中心とする貼床を施す。床面の硬化は全体的にやや弱い。　**竈**　東壁に位置する。全長108.1cm、最大幅58.2cm、構築材に粘土を用いており、左袖に袖石を、右袖には平瓦を立てて焚口としている。　**重複**　Ｈ－２・17、Ｄ－17・18と重複し、新旧関係はＨ－２→Ｈ－17→本遺構→Ｄ－17・18である。　**出土遺物**　須恵器坏・甕、土師器坏・甕、灰釉陶器、平瓦・丸瓦、石錘（覆土中）など。　**時期**　出土遺物および切り合い関係から10世紀代と考えられる。　**備考**　南西隅の貯蔵穴は周堤を持つ。

Ｈ－19号住居跡（Fig.24、PL.6・14）

位置　X130、Y113・114グリッド　**主軸方向**　Ｎ－90°－Ｅ　**規模**　東西2.74m、南北（3.12）m、壁現高43.2cm。　**面積**　（7.37）㎡　**床面**　ほぼ平坦で全体的に硬化し、特に竈前面から住居中央にかけての硬化が強い。　**竈**　東壁に位置する。全長（62.4）cm、最大幅（68.1）cm、構築材に粘土を用い、左袖部には平瓦を立てて焚口としている。なお、右袖部は調査区外になるため不明である。煙道先端はＨ－20に切られる。竈中央に支脚を検出している。　**重複**　Ｈ－10・20と重複し、新旧関係はＨ－10→本遺構→Ｈ－20である。　**出土遺物**　須恵器坏、土師器坏・甕、灰釉陶器、平瓦・丸瓦、羽釜など。　**時期**　出土遺物から10世紀後半と考えられる。

Ｈ－20号住居跡（Fig.24、PL.6・14）

位置　X130・131、Y114グリッド　**主軸方向**　Ｎ－90°－Ｅ　**規模**　東西2.66m、南北（2.88）m、壁現高34.7cm。　**面積**　（6.35）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、竈前面から住居中央にかけて強く硬化している。　**竈**　東壁に位置する。全長（87.0）cm、構築材に粘土を用いる。竈中央から右袖にかけては調査区外にあたり、詳細な規模や形状は不明である。　**重複**　Ｈ－19、Ｐ－１と重複し、新旧関係はＨ－19→本遺構→Ｐ－１である。　**出土遺物**　須恵器坏・甕、土師器坏・甕、平瓦、羽釜、磨石など。　**時期**　出土遺物から10世紀後半と考えられる。

Ｈ－21号住居跡（Fig.22、PL.5・14）

位置　X133・134、Y112グリッド　**主軸方向**　Ｎ－96°－Ｅ　**規模**　東西（2.03）m、南北（2.04）m、壁現高36.6cm。　**面積**　（3.56）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、全体的に硬化は弱い。　**重複**　Ｈ－11、Ｗ－５と重複し、新旧関係はＨ－11→本遺構→Ｗ－５である。　**出土遺物**　須恵器坏・蓋、羽釜など。　**時期**　覆土中遺物のみで判断しがたいが、切り合い関係等も含め、10世紀代と考えられる。

Ｈ－22号住居跡（Fig.25、PL.6・14）

位置　X131・132、Y111・112グリッド　**主軸方向**　Ｎ－91°－Ｅ　**規模**　東西3.01m、南北3.82m、壁現高25.6cm。　**面積**　9.97㎡　**床面**　ほぼ平坦で、竈前面を中心に硬化面を持つ。また、住居中央にかけてローム由来の小ブロックを含む暗褐色粘質土を中心とする貼床面が見られる。　**竈**　東壁に位置する。全長106.7cm、最大幅52.9cm、構築材に粘土を用いる。竈中央に支脚、原位置は保っていないが両袖石を検出した。　**重複**　Ｈ－１と重複し、新旧関係はＨ－１→本遺構である。　**出土遺物**　須恵器坏・蓋・甕、土師器坏・甕、羽釜、平瓦・丸瓦など。　**時期**　出土遺物から10世紀末～11世紀前半と考えられる。

Ｈ－23号住居跡（Fig.15・16、PL.7・14）

位置　X129・130、Y112・113グリッド　**主軸方向**　Ｎ－90°－Ｅ　**規模**　東西2.69m、南北3.27m、壁現高33.4cm。　**面積**　［7.11］㎡　**床面**　ほぼ平坦で、竈前面を中心に部分的に硬化面が見られる。　**竈**　東壁に位置する。全長67.8cm、最大幅51.6cm。両袖は、いずれも残存しない。燃焼部は皿状に掘り込む。灰の散布範囲は他の住居に比べ、かなり広い。　**重複**　Ｈ－３と重複し、新旧関係はＨ－３→本遺構である。　**出土遺物**　須恵器坏・甕、土師器坏・甕など。　**時期**　出土遺物および切り合い関係から11世紀代と考えられる。

（２）竪穴状遺構

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig.28、PL.7・15）

位置　X124・125、Y114・115グリッド　**主軸方向**　Ｎ－92°－Ｅ　**規模**　東西1.64m、南北（1.38）m、壁現高56.9cm。　**面積**　（2.27）㎡　**床面**　ほぼ平坦。　**重複**　ＤＢ－３と重複し、新旧関係は本遺構→ＤＢ－３である。　**出土遺物**　銅銭「熙寧元寶」　**時期**　出土遺物から11世紀中頃以降と考えられる。　**備考**　遺物の出土は覆土中からの銅銭のみで、詳細な時期については検討の余地がある。また、竪穴住居跡の可能性も考えられるが、覆土中には河原石を多量に含み、他の住居覆土と明確に異なることから竪穴状遺構とした。

Ｔ－２竪穴状遺構（Fig.18）

位置　X127・128、Y114グリッド　**主軸方向**　Ｎ－90°－Ｅ　**規模**　東西2.07m、南北2.06m、壁現高70.6cm。　**面積**　4.26㎡　**床面**　ほぼ平坦で、硬化面は見られない。　**重複**　Ｈ－６と重複し、新旧関係はＨ－６→本遺構である。　**出土遺物**　銅銭「淳化元寶」・「皇宋通寶（か）」　**時期**　出土遺物から11世紀中頃以降と考えられる。　**備考**　銅銭は床面直上からの出土であり、周辺の墓壙からの流れ込みではなく本遺構に直接伴うものと思われる。

（３）溝跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.26、PL.7・15）

位置　X121～123、Y112～114グリッド　**主軸方向**　Ｎ－90°－Ｅ　**最大幅**　上端1.48m、下端0.24m。　**深さ**　0.61m　**形状等**　断面Ｖ字状。　**重複**　Ｉ－１と重複し、新旧関係は本遺構→Ｉ－１である。　**時期**　切り合い関係および覆土等から13世紀後半～14世紀中頃と考えられる。　**出土遺物**　カワラケ、土師質土器坏など。　**備考**　本遺構は、元総社小見内Ⅲ遺跡で検出されたＷ－１号溝跡、元総社蒼海遺跡群（５）でのＷ－４号溝跡に続く遺構の可能性が極めて高く、方形に巡る堀状遺構であると考えられる。小見内Ⅲ遺跡では溝の区画内に「小堂」の存在の可能性を指摘されているが、今回の調査では溝跡（暗渠）および土坑・ピットを数基検出したが、明確に「小堂」といえる遺構の検出には至っていない。

W－2号溝跡（Fig.26）

位置　X121、Y113グリッド　**主軸方向**　N－95°－E　**長さ**　（1.71）m　**最大幅**　上端0.60m、下端0.44m。　**深さ**　0.33m　**形状等**　断面U字状。　**時期**　出土遺物から中世以前と考えられる。　**出土遺物**　須恵器甕、土師器甕、平瓦・丸瓦など。　**備考**　東に高くなる傾斜を持ち、D－11号土坑手前で途切れる。後世の削平の影響と考えられる。

W－3号溝跡（Fig.27、PL.7）

位置　X129・130、Y109グリッド　**主軸方向**　N－5°－E　**長さ**　2.64m　**最大幅**　上端0.84m、下端0.67m。　**深さ**　0.19m　**形状等**　断面U字状。　**時期**　出土遺物から中世期と考えられる。　**出土遺物**　須恵器坏など。

W－4号溝跡（Fig.23）

位置　X135、Y110・111グリッド　**主軸方向**　N－7°－W　**長さ**　1.44m　**最大幅**　上端0.24m、下端0.08m。　**深さ**　0.52m　**形状等**　断面台形状。　**重複**　H－15と重複し、新旧関係は本遺構→H－15である。

W－5号溝跡（Fig.22）

位置　X133・134、Y111・112グリッド　**主軸方向**　N－7°－E　**長さ**　6.1m　**最大幅**　上端1.15m、下端0.98m。　**深さ**　0.37m　**形状等**　断面U字状。　**重複**　H－11・16・21と重複し、新旧関係はH－11→H－16・21→本遺構である。　**出土遺物**　須恵器坏など。周辺住居跡削平時の流れ込みと思われる。　**時期**　切り合い関係および覆土所見から、中・近世と考えられる。

W－6号溝跡（Fig.27、PL.7）

位置　X129～131、Y111・112グリッド　**形状等**　断面U字状。深さ0.06m。　**出土遺物**　土師器坏、カワラケなど。　**時期**　2点図示しているが、流れ込みの可能性が高く、詳細な時期は不明である。　**備考**　11条あり、断面の形状や方向の統一性から、一括で遺構名の設定を行なった。断面形等から、畠跡の畝間溝と考えられる。

（4）井戸跡

I－1号井戸跡（Fig.26、PL.7）

位置　X122・123、Y113グリッド　**形状等**　円形。上幅（3.26）×（3.01）m、深さ（2.19）m。　**重複**　W－1と重複しており、新旧関係はW－1→本遺構の順である。　**出土遺物**　須恵器坏・蓋、土師器坏、陶磁器、人骨。いずれも小破片であり、図示には至らなかった。　**時期**　出土遺物より、中世以降と考えられる。　**備考**　人骨は埋没土中からの検出で、散在していた。周辺の土壙墓等から後世に流れ込んだものと思われる。

（5）土坑・ピット

土坑・ピットについては、Tab2・3の計測表を参照のこと。

（6）土壙墓

DB－1号土壙墓（Fig.30、PL.15）

位置　X122・123、Y114・115グリッド　**形状等**　隅丸方形。長軸1.13m、短軸0.99m、深さ0.38m。　**出土遺物**　銅銭「政和通寶」、土師器坏・甕、縄文土器。　**時期**　出土遺物および覆土等より14世紀代と思われる。

ＤＢ－２土壙墓（Fig.19、PL.7・15）

位置　X124、Y114グリッド　**形状等**　長方形。長軸1.47m、短軸1.34m、深さ0.40m。　**重複**　Ｈ－７、１号火葬跡と重複しており、新旧関係はＨ－７→１号火葬跡→本遺構の順である。　**出土遺物**　銅銭「開元通寶」、須恵器甕など。　**時期**　出土遺物および切り合い関係等より、14世紀代と思われる。

ＤＢ－３号土壙墓（Fig.28、PL.15）

位置　X125、Y114・115グリッド　**形状等**　楕円形。長軸（0.46）m、短軸0.87m、深さ0.57m。　**重複**　Ｔ－１と重複しており、新旧関係はＴ－１→本遺構の順である。　**出土遺物**　銅銭「皇宋通寶」-「元祐通寶」、須恵器坏・甕、土師器坏・甕。　**時期**　出土遺物および切り合い関係等より、14世紀代と思われる。

ＤＢ－４号土壙墓（Fig.30、PL.7・15）

位置　X125・126、Y114グリッド　**形状等**　楕円形。長軸1.71m、短軸1.22m、深さ0.23m。　**出土遺物**　銅銭「開元通寶」、瀬戸焼花瓶など。　**時期**　花瓶は古瀬戸・前期様式Ⅲ期の花瓶Ｉａ類の様相を呈し、13世紀中頃から後半と考えられる。しかしながら、覆土中よりの出土であり、直接的に遺構の年代を示す可能性は低いと思われ、周辺の土壙墓の時期と併せて、14世紀代としておきたい。

ＤＢ－５号土壙墓（Fig.31）

位置　X128、Y113グリッド　**形状等**　方形。長軸1.06m、短軸（0.57）m、深さ0.73m。　**重複**　ＤＢ－６・７・８・10と重複しており、新旧関係は本遺構→ＤＢ－６・７・８・10の順である。　**出土遺物**　人骨、鉄釘。　**時期**　切り合い関係より、近世と考えられる。

ＤＢ－６号土壙墓（Fig.31、PL.15）

位置　X128、Y113グリッド　**形状等**　方形。長軸0.46m、短軸（0.23）m、深さ1.05m。　**重複**　ＤＢ－５・７・８・10と重複しており、新旧関係はＤＢ－５→本遺構→ＤＢ７・８・10の順である。　**出土遺物**　人骨、銅銭「寛永通寶」ほか、煙管など。銅銭は２・３枚一単位、４・５枚一単位での出土で、本来は両者が纏まっていた可能性が高い。特定できた銭種は後者の単位の１枚であり新寛永、その他は癒着により判別不能である。また、煙管は雁首から竹製と思われる羅宇の一部が残存する。　**時期**　出土遺物より、17世紀後半以降と考えられる。

ＤＢ－７号土壙墓（Fig.31、PL.8・15）

位置　X128、Y113グリッド　**形状等**　方形。長軸0.70m、短軸0.68m、深さ0.84m。　**重複**　ＤＢ－５・６・８・９と重複しており、新旧関係はＤＢ－５・６→本遺構→ＤＢ－８・９の順である。　**出土遺物**　人骨、銅銭（繊維および錆の付着により詳細不明）、煙管、銅製飾り、鉄釘、土師器坏。　銅銭は２枚一単位、３枚一単位、６枚一単位での出土で、いずれも銭種の判別不能である。一部、錆脹れに伴い、楦材と思われる木片が付着する。なお、出土した煙管は雁首・竹製の羅宇・吸口まで、部分的に欠損するが残存状態は非常に良好である。　**時期**　出土遺物および切り合い関係より、近世と考えられる。　**備考**　ほぼ全身の骨格が残存している。出土状況より、北東向きでの座葬と思われる。人骨の所見は、性別は骨盤の形状から男性、死亡推定年齢は縫合線から熟年である。DB－８号土壙墓の人骨も熟年での死亡と推定されるが、本遺構の人骨の方が若干高齢と思われる。

ＤＢ－８号土壙墓（Fig.31、PL.8・15）

位置　X129、Y113グリッド　**形状等**　長方形。長軸0.88m、短軸0.64m、深さ0.88m。　**重複**　ＤＢ－５・７・

9と重複しており、新旧関係はＤＢ－５・７→本遺構→ＤＢ－９の順である。　**出土遺物**　人骨片、銅銭（２枚一単位、繊維付着のため銭種は不明）、鉄釘など。　**時期**　出土遺物および切り合い関係より、近世以降と考えられる。　**備考**　ほぼ全身の骨格が残存している。出土状況より、北向きでの座葬と思われる。人骨の所見は、性別は骨盤の形状から男性、死亡推定年齢は縫合線から熟年である。なお、歯は上下ともに全て抜け落ちており、歯槽も完全に塞がっている状態である。

ＤＢ－９号土壙墓（Fig.32、PL.8・15）

位置　Ｘ128、Ｙ113グリッド　**形状等**　長方形。長軸1.06m、短軸1.01m、深さ1.04m。　**重複**　Ｈ－３、ＤＢ－５・７・８重複しており、新旧関係はＨ－３→ＤＢ－５・６・８→本遺構の順である。　**出土遺物**　人骨片、銅銭「寛永通寶（古寛永）」ほか、鉄釘など。銅銭は１枚単体での出土と、６～８枚一単位の纏まりでの出土であり、「寛永通寶（古寛永）」は後者の中の一枚である。銭種を特定できたのは１枚のみで、他は錆の付着等により判別不可能である。　**時期**　出土遺物および切り合い関係より17世紀後半以降と思われる。　**備考**　人骨は頭骨を中心として残存していた。人骨の検出状況より、北向きでの座葬と思われる。出土した人骨は、性別は不明だが下顎の印象から女性の可能性が考えられ、死亡推定年齢は縫合線から老年と思われる。

ＤＢ－10号土壙墓（Fig.32、PL.15）

位置　Ｘ128、Ｙ113グリッド　**形状等**　長方形。長軸0.56m、短軸（0.34）m、深さ0.70m。　**重複**　ＤＢ－５・11と重複しており、新旧関係はＤＢ－５→本遺構→ＤＢ11の順である。　**出土遺物**　人骨、銅銭「寛永通寶」、鉄釘。　**時期**　出土遺物および切り合い関係より、近世と考えられる。　**備考**　人骨は頭骨を中心として、肋骨・大腿骨を検出した。検出状況から、北向きでの座葬と思われる。性別は骨盤の形状から女性、死亡推定年齢は縫合線から老年と推定される。なお、奥歯は抜け落ちており、歯槽も塞がった状態である。原因としては、虫歯もしくは歯槽膿漏による可能性が考えられる。

ＤＢ－11号土壙墓（Fig.32、PL.15）

位置　Ｘ128、Ｙ113グリッド　**形状等**　長方形。長軸0.73m、短軸（0.34）m、深さ0.98m。　**重複**　ＤＢ－５・10と重複しており、新旧関係はＤＢ－５→ＤＢ11→本遺構の順である。　**出土遺物**　人骨、銅銭、垸、鉄釘。銅銭は３枚一単位での出土で、その内１枚は「寛永通寶」、その他は銭種の判別不能である。　**時期**　出土遺物より、18世紀後半以降と思われる。　**備考**　西半の大部分は撹乱により破壊されている。

ＤＢ－12号土壙墓（Fig.33）

位置　Ｘ129、Ｙ113グリッド　**形状等**　方形。長軸0.71m、短軸0.67m、深さ0.52m。　**重複**　ＤＢ－13と重複しており、新旧関係は本遺構→ＤＢ13の順である。　**出土遺物**　鉄釘、陶磁器など。　**時期**　出土遺物および切り合い関係より、近世と考えられる。　**備考**　人骨は出土していないが、棺材を留めたと思われる鉄釘が出土しているため、土壙墓とした。

ＤＢ－13号土壙墓（Fig.33、PL.15）

位置　Ｘ129、Ｙ113グリッド　**形状等**　方形。長軸0.99m、短軸0.76m、深さ0.77m。　**重複**　Ｈ－３、ＤＢ－12と重複しており、新旧関係はＨ－３→ＤＢ12→本遺構の順である。　**出土遺物**　人骨、銅銭、鉄釘など。銅銭は１枚単体「寛永通寶（新寛永）」、２枚一単位「元豊通寶」・「寛永通寶（文銭）」、３枚一単位「寛永通寶（古寛永・新寛永）」・「文久永寶」、３・４枚一単位「寛永通寶（新寛永）」（一枚のみ判別、他は癒着により不明）、６枚一単

位「寛永通寶（古寛永）」（一枚のみ判別、他は癒着により不明）での出土である。　**時期**　出土遺物より、19世紀中頃以降と考えられる。

ＤＢ－14号土壙墓（Fig.33）

位置　X129・130、Y110グリッド　**形状等**　楕円形。長軸1.63m、短軸0.83m、深さ0.19m。　**重複**　Ｄ－16と重複しており、新旧関係はＤ－16→本遺構の順である。　**出土遺物**　人骨、鉄釘。　**時期**　出土遺物が極少量で不明。　**備考**　人骨は大腿骨と思われるが、詳細は不明である。なお、人骨の出土状況から埋葬形態は伸展葬であったと推定できる。

（７）火葬跡

１号火葬跡（Fig.34、PL.8・15）

位置　X124、Y114グリッド　**形状等**　楕円形。長軸1.32m、短軸0.98m、深さ0.13m。　**重複**　ＤＢ－２と重複しており、新旧関係はＤＢ－２→本遺構の順である　**出土遺物**　人骨片、銅銭「熙寧元寶」・「聖宋元寶」など。　**時期**　出土遺物より、13世紀前半以降と考えられる。　**備考**　炭・焼土層を掘り下げると、底面直上に人頭大の礫の配列を確認した。礫を敷き並べ、その上で火葬を行なう過程を想定できる。本遺構で検出した人骨は小破片・少量であり、丁寧に拾骨されたものと思われる。また、銅銭を２枚検出しているが、いずれも被熱の痕跡は認められず、火葬後に収めたものと推定される。なお、底部に配列された礫の中に、被熱した五輪塔（地輪と思われる）の破片を１点検出している。

２号火葬跡（Fig.34、PL.8）

位置　X125、Y114グリッド　**形状等**　楕円形。長軸1.16m、短軸1.00m、深さ0.17m。　**重複**　Ｈ－７と重複しており、新旧関係はＨ－７→本遺構の順である。　**出土遺物**　人骨片など。　**時期**　不明。　**備考**　覆土中に須恵器・土師器の小破片を少量含むが、いずれも流れ込みと思われ、詳細な時期は不明である。また、１号火葬跡と同じく、灰・焼土の散在は認められるが人骨は小破片・少量で、丁寧に拾骨されたと考えられる。

３区

（１）竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.35、PL.10）

位置　X84、Y188・189グリッド　**主軸方向**　Ｎ－70°－Ｅ　**規模**　東西（1.70）ｍ、南北4.50m、壁現高0.58m。　**面積**　（4.58）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、壁際を除き全体的にやや硬化が強い。　**竈**　不明。　**重複**　Ｈ－３と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－３である。　**出土遺物**　須恵器蓋、土師器坏・甕。　**時期**　出土遺物および切り合い関係から、７世紀代と考えられる。

Ｈ－２号住居跡（Fig.35、PL.10）

位置　X83・84、Y188・189グリッド　**主軸方向**　Ｎ－96°－Ｅ　**規模**　東西（3.66）ｍ、南北4.01m、壁現高0.24m。　**面積**　（10.67）㎡　**床面**　ほぼ平坦で、竈前面から住居中央にかけて、硬化面が見られる。　**竈**　東壁に位置する。全長71.8cm、最大幅61.3cm。　**重複**　Ｈ－１、Ｐ－54・55と重複し、新旧関係は本遺構→Ｈ－１→Ｐ54・55である。　**出土遺物**　須恵器坏・甕、土師器坏・甕、灰釉陶器、羽釜。　**時期**　出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Ｈ－３号住居跡（Fig.36、PL.10）

位置　X83・84、Y187・188グリッド　**主軸方向**　N－103°－E　**規模**　東西4.06m、南北4.71m、壁現高0.15m。　**面積**　[14.67]㎡　**床面**　ほぼ平坦で、竈前面を中心として硬化する。　**竈**　東壁に位置する。全長52.5cm、最大幅55.0cm。焚口部にかけて焼土および灰が散在する。袖部前のピット状の掘り込みは袖石を掘えていた痕跡の可能性があるが、袖石自体は検出していない。また、竈左袖横に隅丸長方形を呈する床下土坑を１基確認した。　**重複**　H－１・２と重複し、新旧関係はH－１→H－２→本遺構である。　**出土遺物**　須恵器坏・甕、土師器坏・甕、灰釉陶器、羽釜。　**時期**　出土遺物および切り合い関係から10世紀前半と考えられる。

（２）掘立柱建物跡

Ｂ－１号掘立柱建物跡（Fig.37、PL.9）

位置　X83・84、Y196・197グリッド　**主軸方向**　N－１°－E　**規模**　東西（2.52）m、南北3.43m。　**時期**　中世以降。　**備考**　本調査区におけるP192～195・198・199の４基のピットをもってＢ－１号掘立柱建物跡とした。元総社蒼海遺跡群（17）の西通線調査区でのW－４号溝跡東側のピット群の一部が対応するものと思われる。柱穴の平面は40～75cmであり、深さは40～98cmである。柱穴間は1.68～1.86mを測る。なお、後述するが、W－２号溝は本遺構の区画溝と思われる。

（３）竪穴状遺構

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig.38、PL.10）

位置　X83・84、Y191・192グリッド　**主軸方向**　N－７°－E　**規模**　東西（3.28）m、南北（3.13）m、壁現高0.61m。　**床面**　ほぼ平坦。　**重複**　D－７・９・10、P－181・203と重複し、新旧関係はD－７・９・10→本遺構→P－181・203である。　**出土遺物**　須恵器坏・甕、土師器坏・甕、灰釉陶器塊。　**時期**　出土遺物から10世紀後半以降と考えられる。

（４）溝跡

Ｗ－１号溝跡（Fig.39、PL.10）

位置　X85、Y196・197グリッド　**主軸方向**　N－61°－E　**長さ**　4.04m　**最大幅**　上端（3.84）m、下端（1.53）m。　**深さ**　0.30m　**形状等**　断面Ｖ字形。　**時期**　中世以降と思われる。　**出土遺物**　羽釜。　**備考**　出土遺物が極少量で、詳細は不明である。自然地形としての落ち込みである可能性も考えられる。

Ｗ－２号溝跡（Fig.37）

位置　X83・84、Y195～198グリッド　**主軸方向**　N－２°－E　**長さ**　東西5.79m、南北6.04m。　**最大幅**　上端0.71m、下端0.28m。　**深さ**　0.59m　**形状等**　断面Ｖ字形。　**時期**　中世以降と思われる。　**出土遺物**　須恵器甕、土師器坏・甕、灰釉陶器塊、板碑、五輪塔火輪・地輪など。　**備考**　本遺構は、元総社蒼海遺跡群（17）の西通線調査区で検出されたW－４および５号溝跡に続く遺構と考えられる。Ｂ－１号掘立柱建物を区画する意図をもった遺構であると思われ、方形に巡るが北東隅が開放する。なお、元総社蒼海遺跡群（17）ではW－４・５号溝跡となっているが、本報告では２つの溝を一連の遺構として扱っている。

Ｗ－３号溝跡（Fig.39）

位置　X83・84、Y189・190グリッド　**主軸方向**　N－87°－E　**長さ**　6.51m　**最大幅**　上端1.49m、下端0.46m。　**深さ**　1.02m　**形状等**　断面Ｖ字形。　**時期**　中世以降と思われる。　**出土遺物**　須恵器坏・甕、土師器坏、平瓦・丸瓦。　**備考**　本遺構は、元総社蒼海遺跡群（17）の西通線調査区で検出されたW－１号溝跡に続く遺構

である。

（5）井戸跡

Ⅰ－1号井戸跡（Fig.38、PL.10）

位置　X83、Y190グリッド　**形状等**　方形。上幅1.36×（0.73）m、深さ（1.12）m。　**出土遺物**　須恵器坏・甕、土師器坏・甕、灰釉陶器塊、平瓦、くぼみ石。　**時期**　出土遺物より、中世以降と考えられる。

Ⅰ－2号井戸跡（Fig.38）

位置　X84、Y194グリッド　**形状等**　円形。上幅1.15×1.08m、深さ（0.95）m。　**重複**　P114・115・123と重複しており、新旧関係はP114・115・123→本遺構の順である。　**出土遺物**　須恵器甕、土師質土器坏、羽釜。　**時期**　中世以降と考えられる。

（6）土坑・ピット

本調査区全体で、230基を超えるピットを検出している。特にB－1号掘立柱建物跡およびW－1号溝跡北側に広がるピット群は、東西・南北に一定の方向性をもって分布しているように見ることもでき（Fig.41）、建物もしくは柵列のような構造物が存在していた可能性も考えられるが、なお検討を要する。

なお、土坑・ピットについては、Tab.2・3の計測表を参照のこと。

Tab. 2　土坑計測表

1区

遺構名	位置	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	形状	出土遺物
D－1	X208、Y213	1.31	1.00	0.14	不整形	
D－2	X207、Y213・214	0.80	0.70	0.11	長方形	
D－3	X207、Y212	(0.61)	0.94	0.30	長方形	

2区

遺構名	位置	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	形状	出土遺物
D－1	X123、Y114	0.80	0.65	0.74	楕円形	
D－2	X122、Y114・115	1.03	0.76	0.40	楕円形	土師器坏・甕
D－3	X129、Y114	(0.48)	0.61	0.11	楕円形	
D－4	X125、Y115	2.25	(0.48)	0.22	楕円形	
D－5	X125、Y115	0.75	0.71	0.25	楕円形	
D－6	X122、Y115	1.59	(0.45)	0.64	長方形	
D－7	X131、Y114	0.69	0.65	0.18	楕円形	土師器坏・甕、平瓦
D－8	X125、Y114	1.64	0.49	0.86	長方形	
D－9	X121、Y112・113	1.36	0.82	0.22	楕円形	
D－10	X131、Y113	0.99	0.95	0.30	円形	須恵器坏・甕、土師器坏・甕
D－11	X121・122、Y113	1.74	1.35	0.60	長方形	
D－12	X122、Y114	0.98	0.86	0.77	楕円形	
D－13					（　欠　番　）	
D－14	X134、Y112	1.36	0.81	0.38	楕円形	須恵器坏・甕、土師器坏、平瓦
D－15	X130、Y111	1.74	1.23	0.83	長方形	
D－16	X129、Y110	1.27	0.95	0.20	楕円形	土師器坏・甕
D－17	X131、Y110	1.91	0.91	0.53	長方形	須恵器坏・甕、土師器坏・甕
D－18	X132、Y110	0.98	0.96	0.23	長方形	土師器坏・甕、羽釜
D－19					（　欠　番　）	
D－20	X112、Y132	(0.83)	(0.36)	0.18	楕円形	土師質灯明皿
D－21	X121、Y112	(0.69)	0.87	0.59	楕円形	
D－22	X122、Y112・113	1.13	0.93	0.14	楕円形	
D－23	X123・124、Y115	1.81	(0.19)	0.72	長方形	

3区

遺構名	位置	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	形状	出土遺物
D－1	X84、Y191	1.38	1.25	0.74	楕円形	須恵器坏、土師器坏・甕
D－2	X84、Y190	(1.14)	1.12	0.40	不整形	土師器坏・甕、カワラケ小皿
D－3	X84、Y190	1.16	1.04	0.11	楕円形	土師器甕、平瓦
D－4	X84、Y190	1.18	1.12	0.22	楕円形	須恵器坏、土師器甕、灰釉陶器椀
D－5	X84、Y190	1.06	1.02	0.25	不整形	
D－6	X84、Y190	(1.05)	(1.06)	0.64	不整形	
D－7	X83、Y192	(1.56)	(1.46)	0.18	不整形	
D－8	X83・84、Y192	1.57	1.54	0.86	楕円形	
D－9	X83・84、Y192	1.84	(1.66)	0.34	楕円形	
D－10	X83、Y191	(1.84)	(1.66)	0.30	楕円形	
D－11	X83、Y186・187	(2.25)	(1.15)	0.36	不整形	
D－12	X84・85、Y191・192	0.79	0.12	0.77	円形	
D－13	X84、Y192	2.73	2.04	0.45	不整形	土師質高台椀、羽釜
D－14	X84、Y192	1.66	1.51	0.68	不整形	

Tab. 3　ピット計測表

1区

遺構名	位置	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	形状	出土遺物
P－1	X207、Y212	0.32	0.29	0.17	長方形	
P－2	X208、Y212	0.14	0.11	0.16	長方形	
P－3	X208、Y212	0.13	0.12	0.15	長方形	
P－4	X208、Y212	0.23	0.18	0.13	長方形	
P－5	X208、Y212	0.27	0.24	0.26	不整形	
P－6	X208、Y212	0.19	0.17	0.05	長方形	
P－7	X208、Y213	0.21	0.20	0.12	円形	土師質坏
P－8	X208、Y212	0.34	0.23	0.06	不整形	
P－9	X210、Y214	0.24	0.23	0.18	長方形	
P－10	X210、Y214	0.26	0.18	0.25	長方形	
P－11	X207、Y213	0.37	0.31	0.17	不整形	
P－12	X218、Y202	0.30	0.18	0.17	長方形	
P－13	X217、Y202	0.19	0.18	0.05	長方形	
P－14	X217、Y202	0.23	0.23	0.07	長方形	

2区

遺構名	位置	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	形状	出土遺物
P－1	X131、Y114	0.74	0.52	0.52	円形	灰釉陶器椀、土師器坏・甕
P－2	X126、Y114	0.37	0.31	0.41	楕円形	須恵器甕、土師器甕
P－3	X128、Y114	0.38	0.38	0.39	楕円形	土師器坏
P－4	X121、Y115	0.31	0.29	0.17	楕円形	土師器坏
P－5	X121、Y115	0.24	0.24	0.29	楕円形	
P－6	X121、Y112	0.36	0.32	0.34	楕円形	
P－7	X123、Y114	0.44	0.40	0.28	楕円形	土師器坏

9区

遺構名	位置	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	形状	出土遺物
P－8	X123、Y114	0.46	0.38	0.32	楕円形	土師器甕
P－9	X123、Y114	0.30	0.33	0.34	楕円形	土師器坏
P－10	X123・124、Y114	0.42	0.28	0.36	楕円形	土師器坏
P－11	X124、Y114	0.36	0.36	0.42	円形	
P－12	X124、Y114	0.33	0.32	0.37	円形	
P－13	X124、Y114	0.28	0.20	0.32	楕円形	
P－14	X125、Y114	0.31	0.32	0.18	円形	
P－15	X125、Y114	0.41	0.29	0.39	楕円形	土師器坏
P－16	X126、Y113	0.43	0.34	0.34	楕円形	
P－17	X126、Y113	0.39	0.33	0.42	楕円形	
P－18	X127、Y114	0.35	0.25	0.27	楕円形	
P－19	X127、Y114	0.45	0.40	0.39	楕円形	
P－20	X127、Y114	0.39	0.30	0.43	楕円形	
P－21	X126、Y113	0.49	0.42	0.49	楕円形	土師器坏
P－22	X126、Y113	0.41	0.33	0.35	楕円形	
P－23	X126、Y113	0.28	0.25	0.39	方形	
P－24	X125、Y112	0.19	0.19	0.23	円形	
P－25	X125、Y113	0.26	0.21	0.19	楕円形	
P－26	X124、Y114	0.41	0.26	0.22	楕円形	平瓦
P－27	X124、Y114	0.43	0.37	0.30	楕円形	土師器坏・甕
P－28	X123、114	0.36	0.31	0.42	楕円形	
P－29	X130、Y112	0.47	0.40	0.72	楕円形	
P－30	X130、Y112	0.38	0.47	0.52	楕円形	
P－31	X130・131、Y112	0.61	0.40	0.36	円形	土師器坏

３区

遺構名	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	形状	出土遺物
P－1		0.34	0.30	0.25	円形	
P－2	X83、Y190	0.42	0.37	0.20	円形	土師質坏、灰釉陶器椀、羽釜
P－3	X83、Y190	0.32	0.26	0.37	円形	
P－4	X83・84、Y190	0.27	0.25	0.25	円形	
P－5	X83、Y192	0.30	0.25	0.19	長方形	
P－6	X83、Y193	0.30	0.27	0.16	円形	
P－7	X83、Y193	0.24	0.18	0.21	長方形	
P－8	X83、Y193	0.43	0.40	0.26	不整形	
P－9	X83、Y193	0.52	0.39	0.27	楕円形	土師器坏
P－10	X83、Y193	0.41	0.41	0.32	円形	土師質坏
P－11	X83、Y193	0.43	0.33	0.38	楕円形	
P－12	X83、Y193	0.28	0.23	0.10	不整形	
P－13	X83、Y193	0.39	0.35	0.25	長方形	
P－14	X83、Y193	0.58	0.53	0.46	不整形	
P－15	X83、Y193	0.20	0.17	0.19	円形	
P－16	X83、Y193	0.31	0.25	0.17	円形	
P－17	X83、Y193	0.50	0.48	0.30	長方形	カワラケ小皿
P－18	X83、Y193・194	0.52	0.43	0.35	長方形	羽釜
P－19	X83、Y194	0.36	0.35	0.25	楕円形	土師器甕
P－20	X83、Y194	0.25	0.25	0.24	楕円形	
P－21	X83、Y194	0.25	0.18	0.05	長方形	
P－22	X83、Y194	0.25	0.23	0.18	円形	
P－23	X83、Y194	0.23	0.22	0.23	長方形	
P－24	X83、Y193	0.34	0.32	0.15	楕円形	
P－25	X83、Y193	0.34	0.30	0.17	楕円形	
P－26	X83、Y193	0.27	0.25	0.39	円形	
P－27	X83、Y192	0.24	0.22	0.11	円形	
P－28	X83、Y192	0.35	0.26	0.26	楕円形	
P－29	X83、Y193	0.32	0.24	0.22	長方形	
P－30	X85、Y190	(0.53)	0.53	0.14	円形	
P－31	X85、Y191	(0.45)	0.41	0.08	円形	
P－32	X85、Y191	0.57	0.48	0.14	円形	
P－33	X85、Y191	0.52	(0.34)	0.39	円形	
P－34	X84、Y191	0.38	0.36	0.33	円形	
P－35	X83、Y194	0.30	(0.16)	0.52	円形	
P－36	X83、Y193	0.28	0.26	0.37	楕円形	
P－37	X83、Y194	0.38	0.33	0.45	楕円形	土師器甕
P－38	X83、Y194	0.28	0.27	0.17	円形	
P－39	X83、Y194	0.62	0.61	0.19	不整形	
P－40	X83、Y194	(0.41)	(0.39)	0.24	長方形	
P－41	X83、Y194	0.53	0.45	0.32	不整形	
P－42	X84、Y194	0.33	0.27	0.42	長方形	
P－43	X84・85、Y192・193	0.72	(0.62)	0.40	長方形	
P－44	X84、Y193	0.50	(0.42)	0.23	楕円形	土師器甕
P－45	X84、Y193	0.37	0.34	0.44	楕円形	
P－46	X85、Y193	0.34	0.32	0.26	円形	
P－47	X85、Y193	0.25	0.24	0.18	円形	
P－48	X85、Y193	0.26	0.25	0.26	楕円形	
P－49	X84、Y193	0.35	0.35	0.22	円形	
P－50	X85、Y193	0.29	0.28	0.16	円形	
P－51	X85、Y193	0.35	0.31	0.42	円形	
P－52	X85、Y193	0.38	0.34	0.15	楕円形	
P－53	X84・85、Y193	0.50	0.32	0.27	長方形	
P－54	X83、Y188	0.47	0.45	0.29	円形	須恵器甕、土師質坏、羽釜
P－55	X83、Y188	0.75	0.61	0.32	長方形	土師質高台椀、灰釉陶器椀1か
P－56	X84、Y193	0.35	0.28	0.44	長方形	
P－57	X84、Y193	0.24	0.22	0.30	円形	
P－58	X84、Y193	0.32	0.30	0.33	楕円形	
P－59	X84、Y192	0.45	0.42	0.18	円形	
P－60	X84、Y192	0.44	0.42	0.78	円形	
P－61	X84、Y193	0.54	0.48	0.87	円形	
P－62	X84、Y193	0.93	0.62	0.84	楕円形	
P－63	X84、Y194	0.29	(0.25)	0.22	楕円形	
P－64	X84、Y194	0.31	0.28	0.35	長方形	
P－65	X84、Y194	0.62	(0.57)	0.12	不整形	土師器坏、鉱石
P－66	X84、Y194	(0.97)	0.85	0.83	楕円形	
P－67	X84、Y194	0.43	0.40	0.82	楕円形	
P－68	X85、Y194	0.45	0.43	0.92	楕円形	
P－69	X83、Y194	0.44	0.44	0.18	不整形	
P－70	X83、Y194	0.75	0.60	0.23	楕円形	
P－71	X83、Y194	0.31	0.28	0.31	円形	
P－72	X83、Y194	0.28	0.27	0.08	楕円形	
P－73	X84、Y193・194	0.92	0.71	0.46	不整形	
P－74	X84、Y194	0.22	0.21	0.32	楕円形	
P－75	X83、Y194	0.26	0.22	0.18	円形	
P－76	X84、Y194	0.91	0.50	0.78	不整形	
P－77	X84、Y195	0.37	0.30	0.42	円形	
P－78	X84、Y195	0.21	0.21	0.09	円形	
P－79	X83・84、Y195	0.37	0.35	0.24	楕円形	
P－80	X83、Y194	0.47	0.43	0.12	不整形	
P－81	X83、Y194	0.37	0.35	0.16	不整形	
P－82	X83、Y194・195	0.37	0.34	0.27	円形	
P－83	X83、Y195	0.64	(0.57)	0.44	不整形	
P－84	X83、Y195	0.32	0.31	0.29	楕円形	
P－85	X83、Y195	(0.28)	0.28	0.17	楕円形	
P－86	X83、Y195	0.26	(0.28)	0.13	円形	
P－87	X83、Y195	0.40	(0.39)	0.18	楕円形	
P－88	X83、Y195	0.35	0.34	0.23	楕円形	
P－89	X83、Y195	(0.46)	0.44	0.42	長方形	
P－90	X83、Y195	0.30	0.30	0.43	長方形	
P－91	X83、Y195	0.36	(0.29)	0.22	不整形	
P－92	X83、Y195	0.42	0.35	0.31	楕円形	
P－93	X84、Y195	(0.35)	0.30	0.30	楕円形	須恵器坏、土師器坏、平瓦
P－94	X84、Y195	0.41	0.40	0.68	円形	
P－95	X84、Y195	(0.44)	0.44	0.26	楕円形	
P－96	X84、Y195	(0.26)	0.25	0.29	楕円形	
P－97	X84、Y195	0.27	0.26	0.35	楕円形	
P－98	X84、Y195	0.74	0.48	0.32	長方形	
P－99	X84、Y195	0.42	0.37	0.16	長方形	
P－100	X84、Y195	0.29	(0.21)	0.08	楕円形	
P－101	X84、Y195	0.24	0.20	0.24	楕円形	
P－102	X84、Y195	0.38	0.31	0.25	楕円形	
P－103	X84、Y195	0.36	0.34	0.24	楕円形	
P－104	X84、Y195	0.28	0.25	0.21	楕円形	
P－105	X84、Y195	0.28	0.27	0.22	円形	
P－106	X84、Y195	(0.39)	(0.29)	0.21	楕円形	
P－107	X84、Y195	(0.33)	0.29	0.10	楕円形	
P－108	X84、Y195	0.28	0.24	0.12	長方形	
P－109	X84、Y195	(0.32)	0.28	0.09	楕円形	
P－110	X84、Y195	0.30	0.26	0.08	円形	
P－111	X84、Y195	0.37	0.32	0.08	楕円形	
P－112	X84、Y195	0.35	(0.29)	0.16	楕円形	
P－113	X84、Y195	0.32	0.30	0.14	楕円形	
P－114	X84、Y194・195	0.26	0.23	0.18	円形	
P－115	X84、Y194	(0.28)	(0.23)	0.54	楕円形	
P－116	X84、Y195	0.50	0.45	0.27	楕円形	
P－117	X84、Y195	0.29	0.26	0.81	長方形	
P－118	X84、Y194	0.44	(0.39)	0.32	不整形	
P－119	X84、Y194	0.33	0.31	0.46	不整形	
P－120	X84、Y194	0.25	0.25	0.12	楕円形	
P－121	X84、Y194	(0.31)	0.27	0.07	楕円形	
P－122	X84、Y194	0.43	0.35	0.32	不整形	
P－123	X84、Y194	0.49	0.45	0.29	楕円形	
P－124	X84、Y194	(0.39)	0.39	0.36	不整形	
P－125	X84、Y194	(0.56)	0.48	0.56	不整形	
P－126	X84、Y194	0.55	(0.37)	0.14	不整形	
P－127	X84、Y194	0.37	0.29	0.09	楕円形	
P－128	X84・85、Y194	0.37	0.35	0.33	楕円形	
P－129	X84・85、Y194	0.70	0.66	0.44	楕円形	須恵器坏、土師器甕、羽釜
P－130	X85、Y194	0.62	(0.56)	0.48	楕円形	
P－131	X84、Y195	0.53	0.51	0.50	円形	
P－132	X84、Y195	0.41	0.37	0.22	長方形	
P－133	X83、Y195	0.27	0.24	0.15	楕円形	
P－134	X84、Y195	0.30	0.29	0.12	長方形	
P－135	X84、Y195	0.25	(0.22)	1.19	長方形	
P－136	X84、Y195	0.45	0.43	0.48	長方形	
P－137	X84、Y195	0.69	0.49	0.99	長方形	
P－138	X84、Y195	0.39	0.26	0.18	長方形	
P－139	X84、Y195	0.48	0.55	0.38	楕円形	
P－140	X84、Y195	0.32	0.29	0.19	長方形	
P－141	X84、Y195	0.48	0.35	0.35	長方形	
P－142	X84、Y195	0.33	0.26	0.27	楕円形	土師器坏
P－143	X84、Y195	0.25	0.25	0.38	長方形	
P－144	X84、Y195	0.31	(0.22)	0.15	不整形	
P－145	X84、Y195	0.34	0.28	0.41	不整形	
P－146	X84・85、Y195	0.42	0.33	0.51	長方形	須恵器高台椀
P－147	X85、Y195	0.33	0.29	0.22	楕円形	
P－148	X85、Y196	0.52	0.30	0.20	長方形	
P－149	X85、Y196	0.38	0.38	0.52	円形	
P－150	X85、Y196	0.28	0.25	0.21	円形	
P－151	X85、Y196	0.30	0.26	0.19	楕円形	
P－152	X85、Y197	0.37	0.25	0.13	長方形	
P－153	X84・85、Y196	0.26	0.23	0.40	長方形	
P－154	X84、Y197	0.30	0.27	0.27	長方形	
P－155	X83、Y196	0.27	0.24	0.54	長方形	
P－156	X83、Y196	0.50	0.45	0.87	不整形	

遺構名	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	形状	出土遺物
P－157	X83、Y196	0.29	0.26	0.24	楕円形	
P－158	X84、Y196	0.38	0.33	0.68	長方形	
P－159	X84、Y196	0.27	0.25	0.13	長方形	
P－160	X84、Y196	0.36	0.27	0.30	楕円形	
P－161	X84、Y196	0.25	0.22	0.39	楕円形	
P－162	X84、Y196	0.28	0.26	0.49	長方形	
P－163	X84、Y197	0.28	0.23	0.33	不整形	
P－164	X84、Y197	0.23	0.20	0.18	長方形	
P－165	X84、Y197	0.39	0.34	0.34	不整形	
P－166	X83・84、Y197	0.27	0.24	0.45	楕円形	
P－167	X83、Y197	0.36	0.36	0.43	楕円形	
P－168	X83、Y197	0.34	0.34	0.29	長方形	
P－169	X83、Y197	0.24	0.23	0.36	円形	
P－170	X83、Y196	0.60	0.42	0.52	長方形	
P－171	X83、Y196	0.27	0.26	0.54	楕円形	
P－172	X83、Y196	0.31	0.25	0.16	楕円形	
P－173	X83、Y196	0.24	0.22	0.27	楕円形	
P－174	X83、Y197	0.28	0.24	0.37	長方形	砥石
P－175	X83、Y196	0.32	0.27	0.40	楕円形	
P－176	X84、Y196	0.50	0.45	0.10	不整形	
P－177	X85、Y192	0.32	0.30	0.27	楕円形	
P－178	X85、Y192	0.45	0.44	0.57	円形	
P－179	X84・85、Y192・193	(0.49)	0.49	0.50	円形	
P－180	X85、Y191	0.55	0.44	0.57	円形	
P－181	X84、Y192	0.44	0.43	0.31	円形	
P－182	X84、Y192	0.37	0.37	0.23	円形	
P－183	X85、Y192	0.38	0.38	0.22	円形	須恵器坏、土師器坏
P－184	X85、Y192	0.44	0.35	0.42	円形	羽釜、平瓦
P－185	X85、Y192	0.84	0.70	0.34	楕円形	土師質高台椀、灰釉陶器椀
P－186	X85、Y192	0.67	0.63	0.26	円形	須恵器甕、土師質坏
P－187	X85、Y192	0.69	(0.18)	0.17	不整形	須恵器坏、羽釜
P－188	X85、Y192	0.53	(0.21)	0.22	不整形	
P－189	X83、Y191	0.43	0.38	0.24	長方形	
P－190	X83、Y191	0.42	0.35	0.24	長方形	
P－191	X83、Y191	0.68	0.46	0.07	楕円形	
P－192	X83、Y197	0.69	0.72	0.42	不整形	
P－193	X84、Y196	0.30	0.24	0.45	長方形	
P－194	X84、Y196	0.18	0.13	0.11	不整形	
P－195	X84、Y196	0.48	0.42	0.20	長方形	

遺構名	位置	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	形状	出土遺物
P－196	X85、Y195	0.55	(0.45)	0.52	楕円形	土師質坏
P－197	X84、Y196	0.28	0.22	0.12	楕円形	
P－198	X84、Y197	0.45	0.41	0.84	不整形	
P－199	X83、Y196	0.40	0.36	0.98	楕円形	
P－200	X83、Y193	(0.28)	0.28	0.36	楕円形	
P－201	X84、Y190	0.29	0.28	0.14	円形	
P－202	X83、Y192	0.47	0.42	0.27	長方形	
P－203	X83、Y192	0.31	0.18	0.18	楕円形	
P－204	X83、Y192	0.27	0.25	0.25	長方形	
P－205	X83、Y192	0.36	0.29	0.29	楕円形	
P－206	X83、Y192	0.32	0.33	0.33	円形	
P－207	X83・84、Y192	0.26	0.19	0.19	長方形	
P－208	X83、Y192	0.28	0.30	0.30	楕円形	
P－209	X83、Y192	0.25	0.25	0.63	円形	
P－210	X83、Y192	0.40	0.43	0.21	長方形	
P－211	X83、Y192	0.27	0.25	0.20	楕円形	
P－212	X84、Y193	0.35	0.33	0.30	円形	
P－213	X84、Y193	(0.60)	0.33	0.33	円形	
P－214	X84、Y193	(0.39)	0.37	0.43	長方形	
P－215	X84、Y193	(0.38)	0.36	0.59	円形	
P－216	X84、Y193・194	(0.52)	0.30	0.36	楕円形	
P－217	X84、Y193・194	(0.36)	0.24	0.29	楕円形	
P－218	X84、Y194	0.34	0.32	0.29	楕円形	
P－219	X84、Y194	0.32	0.40	0.36	楕円形	
P－220	X84、Y194	0.27	0.24	0.31	円形	
P－221	X84、Y194	0.31	0.30	0.25	円形	
P－222	X84、Y194	(0.43)	0.31	0.19	長方形	
P－223	X84、Y194	(0.42)	(0.30)	0.25	楕円形	
P－224	X83・84、Y193・194	(0.57)	0.54	0.67	楕円形	
P－225	X84、Y194	0.57	0.45	0.25	楕円形	
P－226	X83、Y194	0.69	0.72	0.42	楕円形	
P－227	X83、Y194	(0.26)	(0.25)	0.52	円形	
P－228	X84、Y194	(0.60)	(0.53)	0.18	円形	
P－229	X84、Y194	(0.36)	(0.27)	0.14	円形	
P－230	X84、Y194	(0.55)	(0.23)	0.07	円形	
P－231	（　欠　番　）					
P－232	X83・84、Y194	(0.72)	(0.66)	0.11	楕円形	
P－233	X84、Y195	(0.43)	(0.28)	0.14	不整形	

Tab.4　1区出土遺物観察表

W－1

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	2d層	土師質　坏	(11.6)	(7.4)	-	黒橙色粒、黒雲母小礫	やや軟質	浅黄橙色	内外面ともにロクロナデ。底部に糸切り。	2/5残存。
2	3b層	土師質　坏	(12.4)	7.1	-	黒・橙色細粒、小礫	やや軟質	にぶい黄橙色	内外面ともに回転ナデ。底部に回転糸切り。 内面底部指ナデ痕。	3/5残存。

番号	出土位置	種別、器種	縦(cm)	横(cm)	高さ(cm)	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
3	覆土	石製品 宝篋印塔　基礎	24.6	24.9	17.7	玄武岩	-	-	1370	「應永十〇年」、その他銘文あり。	5/6残存。
4	覆土	石製品 巡方未製品	6.0	4.9	1.1	黒色頁岩	-	-	28.3	全面的に擦痕・研磨痕。	破片。

W－2

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	最下層	火鉢	-	-	(6.8)	白色粒	良好	暗灰色	内外面ともに回転ナデ。外面に押文。	口縁部のみ。

地下式坑

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器　皿	(10.7)	(6.8)	-	黒・橙色粒	やや軟質	浅黄橙色	内外面ともに回転ナデ。底部回転糸切り痕。	1/8残存。

番号	出土位置	種別、器種	縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	覆土	石製品 石宮 室部	(24.4)	(19.0)	(12.2)	粗粒安山岩	-	-	3933	梵字「サク」・蓮座。	正面左上部片残存。
3	覆土	石製品 五輪塔 空・風輪	(24.4)	12.4～11.5	-	角閃石安山岩	-	-	2068	接面平坦加工あり。	頭頂部・下部・側面に欠損あり。
4	覆土	石製品 五輪塔 火輪部	(32.0)	(30.5)	18.1	石英閃緑岩	-	-	13200	-	一部欠損あり。

番号	出土位置	種別、器種	最大径(cm)	上面径(cm)	高さ(cm)	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
5	覆土	石製品 五輪塔 水輪部	(24.9)	(20.0)	(16.4)	角閃石安山岩	-	-	5010	-	2/5残存。
6	覆土	石製品 五輪塔 水輪部	30.6	23.4	16.5	粗粒安山岩	-	-	15080	-	ほぼ完存。

番号	出土位置	種別、器種	縦(cm)	横(cm)	厚さ(cm)	石質	焼成	色調	重さ(g)	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
7	覆土	石製品 五輪塔 水輪部	(28.0)	(16.4)	15.5	粗粒安山岩	-	-	5846	上面・側縁部鑿痕顕著	1/3残存。
8	覆土	石製品 五輪塔 地輪	22.7	(19.7)	17.1	粗粒安山岩	-	-	7902	右面側と下面平坦。 上面に鑿痕あり。	一部欠損。
9	覆土	石製品 五輪塔 地輪部	(17.0)	(15.9)	15.7	粗粒安山岩	-	-	5391	上面と右側面に鑿痕顕著。	破片。

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
10	覆土	石製品 石鉢	(32.0)	(21.5)	13.4	玄武岩	-	-	1944	外面底部凹部あり。	1/4残存。
11	覆土	石製品 石鉢	(23.7)	(20.3)	15.5	玄武岩	-	-	2968	成形粗雑。	1/4残存。

番号	出土位置	種別、器種	部位	直径(cm)	高さ(cm)	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
12	覆土	石製品 茶臼	上臼	[19.2]	10.2	玄武岩	-	-	3344	-	1/2残存。
13	覆土	石製品 茶臼	上臼	[20.4]	(10.5)	粗粒安山岩	-	-	1954	-	1/3残存。
14	覆土	石製品 茶臼	上臼	-	(11.0)	粗粒安山岩	-	-	2130	上面被熱。	1/6残存。
15	覆土	石製品 茶臼	上臼	-	(12.2)	粗粒安山岩	-	-	1801	-	1/8残存。
16	覆土	石製品 茶臼	下臼	[32.4]	16.2	粗粒安山岩	-	-	7114	-	1/2残存。
17	覆土	石製品 茶臼	下臼	-	(11.0)	粗粒安山岩	-	-	2574	-	2/5残存。
18	覆土	石製品 茶臼	下臼	[30.0]	16.9	岩武岩	-	-	11060	軸穴未貫通。未製品からの転用。	2/3残存。
19	覆土	石製品 穀物臼	下臼	-	17.9	粗粒安山岩	-	-	11063	-	1/2残存。
20	覆土	石製品 穀物臼	下臼	[35.5]	8.1	粗粒安山岩	-	-	3626	-	2/5残存。
21	覆土	石製品 穀物臼	下臼	[33.0]	15.3	玄武岩	-	-	5426	-	1/4残存。
22	覆土	石製品 凹石	-	-	9.9	粗粒安山岩	-	-	1970	凹部深さ5.0cm。	完存。
23	覆土	石製品 凹石	-	-	[12.8]	粗粒安山岩	-	-	35070	凹部深さ3.8cm。	一部欠損。

遺構外

番号	出土位置	銭種名	国名	初鋳年代	材質	外径（mm）	穿径（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	備考
1	-	寛永通寳	日本	1697年	銅	25.0	7.0	1.3	2.7	新寛永。完存。

Tab.5　2区出土遺物観察表

H－1

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　坏	10.6	-	3.2	白・黒色粒、小礫	良好	赤褐色 明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ以下ヘラナデ。	完存。
2	床面直上	土師器　坏	10.6	-	3.3	白・黒色粒	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ以下ナデ。	完存。
3	床面直上	土師器　坏	(20.5)	-	7.6	白・黒色粒、黒雲母	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ以下ナデ。	2/3残存。
4	床面直上	土師器　甕	16.2	3.9	25.6	白・黒色粒、石英	良好	にぶい黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下胴部縦位ヘラケズリ、胴下部横位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁端部3/4欠損。 胴部中位以下煤付着。 カマド粘土付着。
5	床面直上	土師器　甕	24.3	5.4	40.2	白・黒・灰色粒、石英	良好	明黄褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下胴部縦位及び斜位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	ほぼ完存。 外面下位カマド粘土付着。

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅（cm)	厚さ(cm)	孔径（cm）	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
6	床面直上	鉄製品　刀子	(3.4)	(1.5)	0.2	-	-	-	3.6	-	先端部残存。

番号	出土位置	種別、器種	直径(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
7	床面直上	石製品 紡錘車	4.0	0.7	1.5	石英斑岩	-	-	35.8	上面は中心から周縁に向かって緩やかに下がる。上面・下面・側縁に擦痕が顕著。光沢有り。	ほぼ完存。

H－2

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　蓋	10.6	-	2.5	白・黒色粒	中性焔	灰黄色 浅黄色	外面ロクロナデ成形後、天井部ヘラケズリ。 内面ロクロナデ。	完存。
2	床面直上	土師器　坏	(13.4)	-	(3.7)	白・黒色粒、 黒雲母	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。内面ヨコナデ。	1/3残存。
3	覆土	土師器　坏	(15.0)	-	(4.5)	白・黒色粒、 黒雲母	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁～体部ヨコナデ。	1/3残存。

H－3

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　坏	13.8	-	4.4	白・黒色粒、 黒雲母	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下指オサエ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後回転ナデ。	口縁部一部欠損。
2	床面直上	土師器　坏	(11.8)	-	(3.3)	白・黒色粒、 黒雲母	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	口縁～体部1/3残存。
3	床面直上	土師器　坏	(16.3)	-	(4.2)	白・黒色粒、 黒雲母	良好	明褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	1/4残存。

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅（cm)	厚さ(cm)	孔径（cm）	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
4	覆土	鉄製品　鉄鏃	(8.5)	1.0	0.3	-	-	-	14.1	鏃基部下40° に屈曲	先端部・ 茎（柄）先端部欠損。

H－4

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　坏	12.9	-	4.5	黒色粒、黒雲母、 チャート	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	1/2残存。

H－5

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器　坏	(12.0)	-	(3.5)	黒色粒	良好	明褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	小片残存。

H－6

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器　坏	12.5	-	4.4	白・黒色粒、 黒雲母	良好	赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後回転ナデ。	2/3残存。
2	床面直上	土師器　甕	(21.7)	-	(13.3)	白・黒・灰色粒、 石英	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、頸部ヘラケズリ後ヨコナデ、以下斜位及び縦位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ及びユビナデ、以下ヘラナデ。	口縁～胴上部片。
3	床面直上	土師器　甕	(15.8)	-	(12.8)	白・黒色粒、 黒雲母、石英	良好	黒褐色 にぶい橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下横位及び斜位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	口縁～胴部中位片残存。
4	床面直上	土師器　甕	(19.6)	-	(12.4)	白・黒・灰色粒、 石英	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下横位及び斜位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ及びユビナデ、以下ヘラナデ。	口縁部～胴上部片残存。

H－7

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　坏	19.4	14.2	5.7	白・黒色粗粒	堅緻	灰色 黄灰色	外面ロクロナデ。底部回転糸切り後付高台行回転ヘラケズリ。 内面ロクロナデ。	3/5残存。 外面自然釉付着。
2	床面直上	須恵器　盤	-	(20.8)	4.5	白・黒色粒	普通	灰黄色	外面ロクロナデ後、体部下位回転ヘラケズリ。底部回転ヘラケズリ後付高台。内面ロクロナデ。	体下部～底部1/2残存。 内面自然釉付着。
3	床面直上	土師器　坏	13.1	-	3.5	白・黒色粗粒	良好	にぶい黄色 橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面ヘラナデ後回転ナデ。	7/8残存。
4	床面直上	土師器　坏	15.3	-	4.5	白・黒色粒、 黒雲母	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	1/2残存。

H－8

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器　坏	(14.4)	(9.8)	3.8	白・黒色粗粒 黒雲母	堅緻	灰色	内外面ともに回転ナデ。	1/4残存。
2	覆土	須恵器　盤	-	(13.9)	(2.9)	白・灰色粒	普通	灰色	内外面ともに回転ナデ。	底部1/4残存。

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅（cm)	厚さ(cm)	孔径（cm）	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
3	覆土	鉄製品 鉄滓	4.5	3.0	2.4	-	-	-	30.0		完存。 不整形。

H－9

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器　坏	(14.0)	-	(4.1)	白・黒・橙色粒、 黒雲母	良好	にぶい黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ミガキ。	破片。
2	床面直上	土師器　坏	(12.0)	-	(2.8)	白・黒色粒、 黒雲母	良好	橙色 にぶい黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	破片。

H－10

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　甕	-	-	(17.7)	白色粒、 黒色粗粒	還元焔一 部酸化焔	にぶい橙色 灰黄色	外面格子状タタキ目文。 内面青海波タタキ目文。	肩部～胴下位1/2残存。

H－11

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　坏蓋	つまみ 2.8	-	(2.4)	黒色粒、 白色粗粒	堅緻	灰色	外面上部ヘラケズリ、以下ロクロによるヨコナデ。 内面ロクロによるヨコナデ。	1/5残存。
2	床面直上	須恵器　坏	12.3	6.2	3.5	白色粗粒、 チャート	堅緻	浅黄色 灰黄色	内外面ともにロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	3/4残存。
3	覆土	土師器　坏	(13.8)	-	4.1	白・黒色粗粒、 黒雲母	良好	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面回転ナデ。	3/5残存。
4	床面直上	土師器　甕	(20.3)	-	(14.8)	白・黒色粒、 黒雲母	良好	黒褐色 橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下横位ヘラケズリ、以下縦位及び斜位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	口縁～胴中位片残存。 外面煤付着。

H－12

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器 坏	12.3	-	3.1	黒色粒	良好	明赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後回転ナデ。	2/3残存。

H－15

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	孔径（cm）	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	鉄製品 刀子	(8.7)	(2.6)	0.3	-	-	-	27.5	-	刃部？ 先端及び茎部欠損。

H－14・15覆土

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器 坏蓋	3.7	-	(2.5)	白・黒色粒	堅緻	灰色	外面つまみロクロによるヨコナデ。体上部ヘラケズリ、以下ロクロによるヨコナデ。内面ロクロによるヨコナデ。	1/4残存。

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	孔径（cm）	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	覆土	鉄製品 刀子	(5.0)	(1.0)	0.4	-	-	-	7.4	-	先端部残存。

H－16

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器 高台碗	-	7.3	(1.6)	黒色粒少	堅緻	浅黄色	内外面ともにロクロによるヨコナデ。	高台のみ残存。

H－17

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器 高台碗	(12.4)	(4.5)	(4.5)	灰・黒色粒	中性焔	浅黄色	内外面ともに口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。 底部回転糸切り。	1/3残存。
2	床面直上	須恵器 坏	11.6	6.3	4.3	白色粒	中性焔	にぶい黄色 黄灰色	内外面ともにロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	口縁一部欠損。
3	床面直上	須恵器 高台碗	-	5.6	(3.2)	白・黒色粒	中性焔？	灰黄色	内外面ともにロクロによるヨコナデ。	底部～高台のみ残存。
4	床面直上	灰釉陶器 椀	(14.2)	-	(3.3)	白・黒色細粒	堅緻	灰黄色	内外面ともに口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	破片。
5	床面直上	土師質 坏	10.8	4.0	3.5	白・黒色粒、 黒雲母	良好	明褐色	内外面ともに口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。 底部回転糸切り。	完存。
6	羽釜	羽釜	(18.2)	-	(11.3)	白・黒・ 橙色粗粒	酸化焔	明黄褐色 浅黄色	外面口縁部ヨコナデ、胴上部ヘラナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるナデ。	口縁～胴部1/4残存。

H－18

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器 坏	(11.7)	-	(3.7)	白・黒・赤色粒、 黒雲母	良好	赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	1/8残存。

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	床面直上	瓦 平瓦	(12.1)	(14.5)	-	白・黒色粗粒	還元焔	オリーブ黒色	凸面ヘラナデ。凹面布目痕。	

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
3	覆土	石製品 石鏃 凹基無茎鏃	2.2	1.4	0.4	-	-	-	1.1	-	全面に加工。 最終加工面、裏面左半。

H－19

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	瓦 平瓦	(20.3)	(18.6)	2.1	白・黒色粒、 小礫	還元焔	灰色		左上部片残存。

H－20

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	羽釜	(18.6)	-	(17.8)	白・黒色粒、 橙色粗粒	酸化焔	明黄褐色	外面ロクロナデ後、鍔部以下斜位ヘラナデ及び指ナデ。 内面ロクロナデ後胴部ヘラナデ。	口縁～胴中位片残存。 外面鍔部以下煤付着。

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	床面直上	石製品 砥石 or こも編石	16.5	5.6	5.1	頁岩	-	-	631.9	平坦面に僅かに擦痕が認められ、砥石としての使用面か。	完存。

H－21

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器 坏蓋	-	(18.0)	(1.4)	白・黒色粒	還元焔	灰色	内外面ともにロクロによるヨコナデ。	小片。
2	覆土	羽釜	(19.7)	-	(8.0)	白・黒・灰色粒、 石英	酸化焔	黄橙色	内外面ともにロクロによるヨコナデ。	口縁1/8残存。

H－22

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師質 高台碗	-	6.7	(2.7)	白・黒色粒	やや軟質	にぶい黄橙色 黒	外面ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。 内面ミガキ。	高台のみ残存。
2	床面直上	土師質 小皿	8.4	3.9	2.8	白・黒色粒	良好	浅黄橙色	外面口縁～体上部ヨコナデ以下ユビオサエ底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ以下ユビナデ。	口縁一部欠損。
3	床面直上	土師器 羽釜	(27.0)	-	(12.3)	白・黒色粒、 黒雲母	酸化焔	にぶい褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ（マメツ）。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁1/2弱残存。

H－23

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師質 小皿	(8.8)	4.8	2.3	白・黒・赤色粒、 石英	良好	にぶい黄褐色	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。内面ロクロナデ。	2/3残存。
2	カマド	土師質 小皿	(9.2)	5.9	2.4	白・黒・赤色粒、 石英	やや軟質	にぶい黄橙色	外面ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。成形粗雑。	1/2残存。

T－1

番号	出土位置	銭種名	国名	初鋳年代	材質	外径（mm）	穿径（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	備考
1	床面直上	熙寧元寳	北宋	1068年	銅	24.0	6.0	1.5	3.7	完存。

T－2

番号	出土位置	銭種名	国名	初鋳年代	材質	外径（mm）	穿径（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	備考
1	床面直上	淳化元寶	北宋	990年	銅	23.0	6.0	1.3	2.9	完存。
2	床面直上	寛永通寳	日本	1636年	銅	25.0	7.0	1.6	4.3	古寛永。完存。

W－1

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師質　坏	11.8	7.4	2.3	黒色粒	良好	浅黄色	外面口縁部ロクロによるヨコナデ、体下部ユビナデ。底部回転糸切り。内面口縁部～底部ヨコナデ。	口縁部1/4欠損。

W－3

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　坏蓋	-	(17.2)	(2.5)	白・黒色粒、チャート	堅緻	灰色	外面上部ヘラケズリ、以下ロクロによるヨコナデ。内面ロクロによるヨコナデ。	1/5残存。

W－4

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器 坏	-	(7.7)	(2.0)	白・黒色粒	環元焔	灰色	外面体部ロクロによるヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面体～底部ロクロによるヨコナデ。	底部3/4残存。

W－6

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	-	土師質 高台碗	(15.0)	(6.9)	(5.0)	白・黒・橙色粒	やや軟質	明黄褐色	内外面ともに口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。高台部ヨコナデ。	1/4残存。
2	-	かわらけ	(9.0)	5.6	2.0	黒色粒	良好	にぶい黄橙色	内外面ともにロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	口縁2/3欠損。煤付着。

D－14

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　杯	12.8	8.5	4.2	黒色粒	環元焔	灰色	外面口縁～体部ロクロによるヨコナデ、底部ヘラナデ。内面口縁～底部ロクロによるヨコナデ。	2/3残存。
2	床面直上	須恵器　杯	(13.3)	(8.7)	(3.6)	白・灰色粒	還元焔	灰色	外面口縁～体部ロクロによるヨコナデ、底部ヘラケズリ。内面口縁～底部ロクロによるヨコナデ。	1/4残存。

D－17

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	須恵器　杯	-	(7.2)	(2.0)	黒色細粒	中性焔	灰色	内外面ともにロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	底部のみ1/4残存。

D－20

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	カワラケ	9.1	5.9	2.5	白・黒色細粒、黒雲母	酸化焔	にぶい黄褐色	内外面ともに回転ナデ。底部回転糸切り。外面に切り痕およぶ	完存。

DB－1

番号	出土位置	銭種名	国名	初鋳年代	材質	外径（mm）	穿径（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	備考
1	床面直上	政和通寳	北宋	1111年	銅	25.0	7.0	1.3	3.0	完存。

DB－2

番号	出土位置	銭種名	国名	初鋳年代	材質	外径（mm）	穿径（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	備考
1	床面直上	開元通寳	南唐	960年	銅	25.0	7.0	1.3	3.0	完存。

DB－3

番号	出土位置	銭種名	国名	初鋳年代	材質	外径（mm）	穿径（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	備考
1	床面直上	皇宋通寳	北宋	1039年	銅	25.0	8.0	1.0	3.2	完存。
2	床面直上	元祐通寳	北宋	1086年	銅	24.0	6.0	1.3	3.8	繊維付着。完存。

DB－4

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	瀬戸美濃 花瓶	2.4	(6.4)	7.8	粘土質	堅緻	浅黄色	外面沈線5条、内面頸部にしぼり痕。	底部欠損。

番号	出土位置	銭種名	国名	初鋳年代	材質	外径（mm）	穿径（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	備考
2	床面直上	開元通寳	南唐	960年	銅	23.0	7.0	1.2	2.8	完存。

DB－6

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅（cm)	厚さ(cm)	雁首径（cm）	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	青銅及び竹製 煙管	(6.0)	1.2	1.6	5.2	-	-	9.3	雁首部青銅、羅宇部竹製。	雁首及び羅宇部残存。

番号	出土位置	種別、器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	古銭外径（mm）	穿径(mm)	古銭厚さ(mm)	重さ（g）	総枚数	判別銭種	残存状況、備考
2	床面直上	古銭	33.0	36.0	20.0	1.5	4.5	38.5	40.4	7枚	新寛永（1697年）。	布付着。
3	床面直上	古銭	28.0	29.0	11.0	1.5	6.0	24.0	13.8	4枚	-	腐食文字不明。

DB－7

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅（cm)	厚さ(cm)	雁首径（cm）	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	青銅及び竹製 煙管	1.3	0.9	1.3	(18.9)	-	-	39.9	-	火皿（雁首先端）欠損。

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅（cm)	厚さ(cm)	孔径（cm）	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	床面直上	青銅製品 飾り金具	3.5	1.3	0.4	-	-	-	2.0	-	完存。
3	床面直上	青銅製品 飾り金具	1.5	1.5	0.8	-	-	-	1.4	-	小留め具欠損。

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅（cm)	厚さ(cm)	孔径（cm）	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
4	床面直上	青銅製品 飾り金具	3.9	1.3	0.9	-	-	-	2.0	-	完存。
5	床面直上	青銅製品 飾り金具	4.1	0.9	0.9	-	-	-	2.8	-	ほぼ完存。
6	床面直上	青銅製品 飾り金具	3.5	1.0	0.3	-	-	-	1.2	-	小留め具欠損。

番号	出土位置	種別、器種	長さ(mm)	幅（mm)	厚さ(mm)	古銭外径（mm）	穿径(mm)	古銭厚さ(mm)	重さ（g）	総枚数	判別銭種	残存状況、備考
7	床面直上	古銭	34.0	37.0	27.0	1.3	6.0	27.5	44.3	不明	新寛永（1697年）。	癒着。布付着。
8	床面直上	古銭	32.0	33.0	15.0	1.0~	大・不明 小・0.6	大・30.0 小・23.0	14.0	大・1枚 小・3枚	新寛永（1697年）。	木片付着。
9	床面直上	古銭	36.0	37.0	90.0	-	-	-	14.2	2枚	-	癒着。布付着。

DB－8

番号	出土位置	種別、器種	長さ(mm)	幅（mm)	厚さ(mm)	古銭外径（mm）	穿径(mm)	古銭厚さ(mm)	重さ（g）	総枚数	判別銭種	残存状況、備考
1	床面直上	古銭	27.0	24.0	6.0	1.3	不明	24.0	7.6	2枚	-	布付着。

DB－9

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	灰釉陶器　碗	(11.2)	-	5.1	粘土質	堅緻	淡黄色	内外面ロクロによるヨコナデ。施釉あり。	1/3残存。内外面施釉。

番号	出土位置	種別、器種	長さ(mm)	幅（mm)	厚さ(mm)	古銭外径（mm）	穿径(mm)	古銭厚さ（cm）	重さ（g）	総枚数	判別銭種	残存状況、備考
2	床面直上	古銭	27.0	27.0	8.5	1.0	6.00	26.0	20.1	6枚	古寛永（1636年）。	癒着。布付着。
3	床面直上	古銭	27.0	31.0	9.0	1.0	大・7.00 小・不明	大・27.0 小・24.0	13.4	大・1枚 小・4枚	-	癒着。布付着。
4	床面直上	古銭	31.0	36.0	22.0	1.0~1.5	不明	大・27.0 小・24.0	30.2	10枚	-	癒着。腐食欠損。
5	覆土	古銭	-	-	-	24.5	5.5	13.0	4.2	1枚	-	完存。 腐食。

DB－10

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	灰釉、碗	10.2	3.7	5.1	粘土質	堅緻	明オリーブ灰色	ロクロ成形。外面染付、雪輪梅樹文。	完存。

番号	出土位置	銭種名	国名	初鋳年代	材質	外径（mm）	穿径（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	備考
2	床面直上	寛永通寳	日本	1697年	銅	23.0	7.0	1.2	2.1	完存。

DB－11

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	磁器、碗	7.3	3.4	4.05	粘土質	堅緻	オリーブ灰色	ロクロ成形。外面染付、雪輪梅樹文。丸型・小碗。	口縁部一部欠損。

番号	出土位置	種別、器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	古銭外径（mm）	穿径(mm)	古銭厚さ(mm)	重さ（g）	総枚数	判別銭種	残存状況、備考
2	覆土	古銭	27.00	28.00	1.1	大・1.50 小・1.00~1.50	大・6.00 小・不明	大・26.0 小・24.0	9.4	大・1枚 小・2枚	新寛永（1697年）。	腐食。

DB－13

番号	出土位置	銭種名	国名	初鋳年代	材質	外径（mm）	穿径（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	備考
1	床面直上	元豊通寳	北宋	1078年	銅	23.0	7.0	1.2	3.0	完存。
2	床面直上	寛永通寳	日本	1668年	銅	25.0	6.0	1.2	3.1	文銭。完存。
3	床面直上	寛永通寳	日本	1697年	銅	24.0	7.0	9.0	2.3	新寛永。完存。
4-1	床面直上	寛永通寳	日本	1636年	銅	24.0	6.0	1.2	2.9	古寛永。完存。
4-2	床面直上	寛永通寳	日本	1697年	銅	24.0	6.0	1.0	2.0	新寛永。布付着。完存。
4-3	床面直上	文久永寳	日本	1863年	銅	33.0	6.0	13.0	3.7	

番号	出土位置	種別、器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	古銭外径(mm)	穿径(mm)	古銭厚さ(mm)	重さ（g）	総枚数	判別銭種	残存状況、備考
5	床面直上	寛永通寳	28.0	27.0	7.0	6.0	6.0	大・27.0 中・25.5 小・23.5	7.0	6枚	新寛永（1697年）。	癒着。
6	床面直上	寛永通寳	39.0	30.0	18.0	1.0~1.3	-	23.5	17.9	-	新寛永（1697年）。	腐食。布付着。

1号火葬跡

番号	出土位置	銭種名	国名	初鋳年代	材質	外径（mm）	穿径（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	備考
1	床面直上	熙寧元寳	北宋	1068年	銅	24.0	7.0	1.3	3.9	完存。
2	床面直上	聖宋元寳	北宋	1101年	銅	25.0	7.0	1.6	3.3	完存。

番号	出土位置	種別、器種	高さ(cm)	幅（cm)	厚さ(cm)	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
3	床面直上	石製品 五輪塔 地輪か	(18.6)	(19.2)	14.1	石英閃緑岩	-	-	4744	被熱。	完存。火葬墓床石に転用。

遺構外

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	-	須恵器 長頸瓶	-	-	(3.0)	黒色粒	堅緻	灰色	外面ロクロナデ。肩部（屈曲上部）凹線に綱文施文。 内面ロクロナデ。	肩部片残存。
2	-	土師器　坏	(12.7)	(6.5)	3.8	黒色粒	酸化焔	にぶい黄橙色	内外面ともにロクロナデ後ユビナデ。底部回転糸切り。	3/5残存。成形粗雑。 内面口縁部墨付着か。
3	-	土師器　鉢	7.9	4.6	5.8	白・黒色粒	酸化焔	にぶい黄橙色 黄褐色	外面ロクロナデ後体部下半一部ユビナデ。底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	ほぼ完存。 内面付着物あり。
4	-	瓦　軒丸瓦	(8.1)	(8.8)	2.5	白・黒色粒	堅緻	灰色 褐灰色	凸面ナデ。凹面布目痕。（瓦当裏におよぶ。）	破片。

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅（cm)	厚さ(cm)	孔径（cm）	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
5	-	鉄製品　刀子	(6.6)	1.2	0.3	-	-	-	7.0		刃部先端部・茎部欠損。

番号	出土位置	銭種名	国名	初鋳年代	材質	外径（mm）	穿径（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	備考
6	-	開元通寳	南唐	966年	銅	26.0	7.0	1.7	3.0	

番号	出土位置	種別、器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	古銭外径（mm）	穿径(mm)	古銭厚さ(mm)	重さ（g）	総枚数	判別銭種	残存状況、備考
7	-	寛永通寳	-	-	-	24.0	6.0	2.3	6.6	2枚	古寛永。	癒着。1枚不明。

番号	出土位置	銭種名	国名	初鋳年代	材質	外径（mm）	穿径（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	備考
8	-	寛永通寳	日本	1697年	銅	24.0	6.0	1.5	2.7	
9	-	文久永寳	日本	1863年	銅	28.0	7.0	1.0	3.0	完存。

Tab. 6　3区出土遺物観察表

H－1

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器　坏	(11.7)	-	(2.7)	黒色粒	軟質	橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面ヨコナデ。	破片。

H－2

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	須恵器　坏	(12.0)	5.7	3.6	石英・雲母	良好	灰白色 褐灰色	内外面ともに回転ナデ。底部回転糸切り痕。	完存。
2	貯蔵穴	須恵器　坏	(11.6)	6.0	4.0	白色粒、長石・石英	良好	にぶい黄色 暗灰黄色	内外面ともに口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	1/2残存。
3	貯蔵穴	土師質 高台塊	(14.2)	6.2	4.9	赤・白色粒	良好	黄橙色	内外面ともに口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。底部回転糸切り。	1/3残存。
4	貯蔵穴	土師質 高台塊	(11.2)	6.9	4.8	白色粒、雲母	良好	橙色 にぶい黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるナデ。底部回転糸切り。内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるナデ。	1/3残存。
5	貯蔵穴	土師器　甕	-	-	(4.0)	白色粒 長石・石英	良好	赤褐色	外面ヨコナデ。内面ナデ。	台部のみ。
6	床面直上	灰釉陶器　椀	(13.8)	-	3.5	粘土質	堅緻	白灰色	内外面ともに回転ナデ。	1/3残存。
7	貯蔵穴	土師器　甕	(18.0)	-	(11.3)	石英・長石	良好	黒色 明黄褐色	外面口縁～肩部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	口縁～胴部1/4残存。
8	貯蔵穴	羽釜	(22.2)	-	(5.6)	白色粒、石英	還元焔	灰白色	内外面ともに口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	破片。
9	床面直上	羽釜	(20.8)	-	8.6	白色粒	良好	褐灰色	内外面ともに回転ナデ。	1/4残存。
10	カマド	羽釜	(21.7)	-	(8.6)	白色粒	良好	にぶい黄褐色	内外面ともに口縁部ヨコナデ、以下ロクロによるヨコナデ。	口縁胴上部1/4残存。
11	床面直上	羽釜	-	(6.0)	11.4	白色粒、長石	還元焔	浅黄色	外面ヘラケズリ。内面回転ナデ。 底部十字状のヘラ記号。	底部1/2残存。

H－3

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師質 高台塊	12.9	6.7	5.2	白色粒、石英	良好	浅黄橙色 灰白色	内外面ともに回転ナデ。底部回転糸切り痕。	口縁部一部欠損。
2	床面直上	土師質 高台塊	(15.2)	8.6	6.4	白色粒、石英	良好	明赤褐色 褐灰色	内外面ともに回転ナデ。	1/2残存。
3	床下土坑	土師質 高台塊	(13.8)	(6.4)	4.8	黒色粒、石英	良好	黒褐色	内外面ともに回転ナデ。底部回転糸切り痕。	1/3残存。
4	カマド	土師質 高台塊	-	9.7	(5.3)	白色粒、石英・長石	良好	にぶい黄橙色	外面回転ナデ。内面ミガキ。	高台のみ。
5	床面直上	土師質 高台塊	25.5	17.4	14.5	白・黒・橙色粒 黒雲母	中性焔	黄橙色	外面ロクロナデ及び指ナデ、底部（回転糸切後）指ナデ後付高台。内面ロクロナデ、底部指ナデ。	大型品。3/4残存。 内外面中位以下煤付着。
6	床面直上	羽釜	21.0	7.5	24.4	白・黒・灰色粒	酸化焔	明黄褐色 灰黄褐色	外面ロクロナデ後胴部以下縦部及び斜位ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。内面ロクロナデ、底部指ナデ及びヘラナデ。	4/5残存。

W－2

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	火鉢	-	-	7.5	白色粒	良好	黒褐色	内外面ともにヨコナデ。内面に押印、孔あり。	破片。

番号	出土位置	種別、器種	長さ(cm)	幅（cm)	厚さ(cm)	石質	焼成	色調	重さ（g）	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
2	床面直上	石製品 板碑	31.9	18.9	2.4	緑泥片岩	-	-	2308	梵字「キリーク」。	下部欠損。
3	覆土	石製品 五輪塔 火輪部	40.2	42.3		石英閃緑岩	-	-	22800	-	ほぼ完存。
4	覆土	石製品 五輪塔 地輪部	33.0	35.0	25.1	粗粒安山岩	-	-	33800	上面凹部深さ7.2cm、鑿痕あり。	ほぼ完存。
5	覆土	石製品 五輪塔 くぼみ石	19.0	18.0	-	角閃石安山岩	-	-	2005	凹部深さ3.3cm、竈石に転用。	ほぼ完存。

D－4

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	床面直上	土師器 甕	(19.4)	-	4.8	白・赤色粒、雲母	良好	橙色	外面回転ナデ及び胴部ケズリ。内面回転ナデ及びナデ。	口縁1/3残存。

D－13

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師質 高台塊	(14.4)	(7.0)	4.2	白色粒	良好	明赤褐色 にぶい黄橙色	内外面ともに回転ナデ、底部回転糸切り。	1/5残存。

P－10

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	覆土	土師器 坏	(12.4)	(6.8)	2.7	赤色粒、石英	軟質	浅黄橙色	外面回転ナデ、底部回転糸切り。全体的にマメツ強。	1/3残存。

P－17

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	現土	かわらけ	7.7	6.2	1.7	黒色粒	軟質	灰白色	内外面回転ナデ。底部回転糸切り痕。	2/3残存。

P－55

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	現土	土師質 高台椀	(13.6)	(5.8)	4.7	黒色粒	良好	黄褐色	内外面ともに回転ナデ。	1/3残存。
2	南面表土	瓦釉陶器　擂	－	(6.8)	3.8	粘土質	堅緻	灰白色	内外面ともに回転ナデ。	底部1/4残存。

P－186

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	現土	土師質 坏	(13.6)	(6.3)	4.7	赤色粒、石英・雲母	良好	褐色	内外面ともに回転ナデ。底部回転糸切り痕。	1/4残存。

P－185

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	現土	瓦釉陶器　擂	－	(6.8)	3.0	粘土質	堅緻	灰黄色	内外面ともに回転ナデ。	底部1/2残存。

遺構外

番号	出土位置	種別、器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況、備考
1	－	瓦釉陶器　擂	(16.0)	－	4.0	粘土質	堅緻	灰色 口縁色	内外面ともに回転ナデ。施釉あり。	1/4残存。

番号	出土位置	銭種名	国名	初鋳年代	材質	外径（mm）	穿径（mm）	厚さ（mm）	重さ（g）	備考
2	－	開元通寶	宋宗	960年	銅	25.0	7.0	1.1	2.6	完存。
3	－	熙寧元寶	北宋	1068年	銅	26.0	8.0	1.2	2.6	完存。
4	－	元豊通寶	北宋	1078年	銅	25.0	7.0	1.3	2.8	完存。
5	－	元豊通寶	北宋	1078年	銅	25.0	7.0	1.2	2.3	完存。
6	－	聖宋元寶	北宋	1101年	銅	25.0	7.0	1.5	3.6	完存。

Ⅵ まとめ

今回の調査では、古墳時代から中・近世に亘る遺構を確認した。ここでは、本調査で確認した遺構を時期ごとに、主要な遺構を主として概観・検討し、まとめとしたい。

古墳時代

古墳時代中期以前の遺物として縄文土器・古墳時代前期の土師器等が出土しているが、少量であり、いずれも表土層等の遺構外である。3箇所の調査区において、確実に古墳時代中期以前に遡ると思われる遺構の検出には至らなかった。

古墳時代後期に入ると2区で、5軒の住居跡を検出した（2区H－1～5号住居跡）。これらの住居跡で最も古くなるのはH－1号住居跡で、土師器坏および長胴甕の様相から7世紀中頃～後半に属するものと思われる。

その他の住居跡は出土遺物から、やや時間幅が見られるものの、概ね7世紀後半を上限とし、8世紀前半を下限とする時期を与えることができると考えられる。

奈良・平安時代

2区では17軒の住居跡（2区H－7～23号住居跡）を、3区では3軒の住居跡（3区H－1～3号住居跡）を確認している。大まかな時期ごとに主軸方向を計測すると、8～9世紀が平均N－84°－Eであるのに対し、10世紀以降は平均N－90°－Eとなる。前代の古墳時代後期前後の住居跡における主軸方向は約N－76°－Eであり、それぞれ例外は含むものの、時期ごとに一定の規則性を示しているものと思われる。

当該期での特徴的な遺物としては3区H－3号住居跡出土の塊が挙げられる（Fig54、H－3－5）。口径25.5cm・底径17.4cm・器高14.5cmを測る大型品である。塊としているが、細部の形態や器壁の厚さ、成形技法などから、単純に塊を大きくしたものとするより、むしろ甕類に近い様相を持つものと考えられる。今後の類例を待って、更なる検討を行ないたい。

中・近世

当該期の遺構では、1区において蒼海城跡に伴う堀を2条（W－1・2号溝跡）、堀埋没後の地下式坑を1基検出した。1区は山崎氏の作成による縄張図に当てはめると、出雲屋敷の西側に該当する（Fig. 7）。W－2号溝については本丸東側を南北に走る堀と思われるが、W－1号溝は表れていない。出雲屋敷南側には、東西・南北方向に走り堀の交わる箇所があるが、当調査区との関連については、なお検討を要するものと思われる。なお、各遺構の記述でも示したとおり、本調査で検出した2つの堀が交差する箇所が現有道路下であり、前後関係等の詳細についての確認には至っておらず、今後の調査課題といえる。

2区では方形に巡る溝跡（W－1号溝跡）、中・近世の墓跡を確認した。

W－1号溝跡は前述のとおり、元総社小見内Ⅲ遺跡で

Fig. 7　蒼海城跡縄張図および1区位置図

検出されたW－１号溝跡および、元総社蒼海遺跡群（５）でのW－４号溝跡に続く遺構の可能性が極めて高く、方形に巡る堀状遺構であると考えられる。小見内Ⅲ遺跡では溝の区画内に「小堂」の存在の可能性を指摘されているが、今回の調査では該当する遺構は確認できなかった。また、元総社蒼海遺跡群（５）では、この堀状遺構の西側で多数の墓跡が検出され、14世紀後半～15世紀前半を中心とした「墓域」の存在が明らかにされている。しかし、本調査で検出した当該期と思われる墓跡は土壙墓４基、火葬跡２基と少数であり、さらにW－１号溝跡周辺に造られておらず、南～南東のやや離れた場所に散在している。このことは堀状溝跡の西側が「墓域」の中心として機能していた可能性を想定させる。

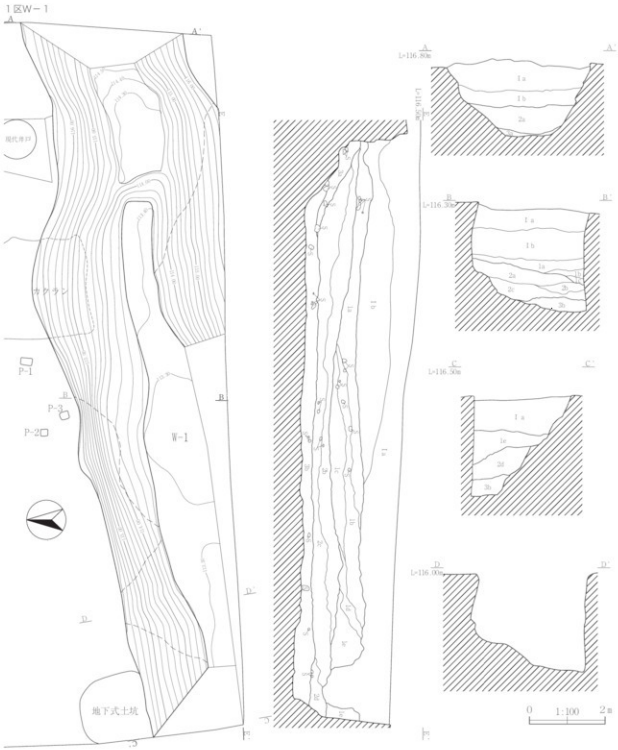
なお、２基の火葬跡については、炭化物および焼土を含む楕円～隅丸長方形プランを呈する。中世火葬遺構については、橋崎修一郎氏の群馬県内事例の研究があり（橋崎2007）、橋崎氏の分類に当てはめると、本遺跡で確認した２つの遺構は、いずれも人骨・炭化物・焼土を含む火葬跡で、長方形を呈する「タイプⅠ」となる。また、出土人骨は小型・少量であり、ほぼ全ての焼骨を拾骨する「東日本タイプ」に属するものと思われる。

これら火葬跡を含め中世に属すると考えられる墓跡の平面形態が楕円形・隅丸長方形を主とするのに対し、六道銭に「寛永通寶」をもつ近世の墓跡は全て正方形に近い平面形態となっており、中世の屈葬から近世には座葬へと埋葬形態が変遷したことを示唆させる。また、墓壙から出土する銅銭も近世墓出土のものは複数枚が癒着するものが多いのに対し、中世墓では単体ずつでの出土が多い。この点でも両者の相違点を指摘でき、六道銭の副葬方法の変遷を示している可能性も考えられる。

以上のように、今回の調査では古墳時代後期から近世に亘る時期の遺構を確認した。特に、蒼海城跡の堀跡と推定される１区のW－１・２号溝跡については、上述のように２条の直接的な関係を解明できなかったことは調査課題といえるが、周辺での調査成果・今後の調査と併せて、蒼海城の詳細が明らかになるものと思われる。さらに蒼海城跡のみならず、今後の調査・研究によって当地域の歴史が解明されることを期待し、結びとしたい。

【参考文献】

山崎　一　1978『群馬県古城塁址の研究　上巻』群馬県文化事業振興会
坂口　一・三浦京子　1986『奈良・平安時代の土器の編年－住居の重複と共伴関係による土器型式組列の検討－』『群馬県史研究』第24号　群馬県史編さん委員会
鈴木公雄　1999『出土銭貨の研究』東京大学出版会
谷藤保彦・山下歳信・水谷貴之　2003『群馬県内出土の茶臼について』『研究紀要』21（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
橋崎修一郎・石守　晃　2005『群馬県出土人骨データベース』『研究紀要』23（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
伊藤順一　2007「六道銭からみた上州近世墓の様相」『上毛野の考古学』群馬考古学ネットワーク
水谷貴之　2007「茶臼の挽き目と分画－群馬県出土資料から－」『上毛野の考古学』群馬考古学ネットワーク
橋崎修一郎　2007『群馬県出土中世火葬遺構』『研究紀要』25（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団
山武考古学研究所編　2001『元総社小見内Ⅱ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
高橋　亨・高坂麻衣子　2006『元総社蒼海遺跡群（５）』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
梅澤克典・近藤雅順・阿久澤真一・遠藤たか美　2007『元総社蒼海遺跡群（12）』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
梅澤克典・金子正人・板垣　宏・樫田友寿　2008『元総社蒼海遺跡群（17）』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
近藤雅順・村越純子　2008『元総社蒼海遺跡群（14）（19）』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
山下歳信・宇佐美義春・関　健吾　2009『元総社蒼海遺跡群（22）』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
山下歳信・前田和昭　2009『元総社蒼海遺跡群（24）』前橋市埋蔵文化財発掘調査団
山下歳信・和久拓照・小出拓磨・日沖剛史　2009『元総社蒼海遺跡群（21）』前橋市埋蔵文化財発掘調査団



1区W－1号溝跡　SPA・B・C・E

1．造成土層

1ａ層．暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とする層．締まりやや弱く、粘性弱い、ローム小粒および白色小粒を少量含む。
　　17の単位に細分層できる。

1ｂ層．灰黄褐色（10YR4/2）砂質土を主体とする層．締まり弱く、粘性弱い、ローム小粒および白色小粒を少量含み、乳理の粗い層。
　　13の単位に細分層できる。

1ｃ層．暗褐色（10YR3/3）砂質土およびにぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土を主体とする層．締まりやや弱く、粘性弱い、乳理の細かい層。
　　13の単位に細分層できる。

1ｄ層．暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とする層．締まり弱く、粘性弱い、ローム小粒および白色小粒を含むが、全体的に乳理の細かい層。
　　6の単位に細分層できる。

1ｅ層．暗褐色（10YR3/3）砂質土を主体とする層．締まりやや弱く、粘性弱い、ロームブロックを多く含み、乳理の粗い層。
　　11の単位に細分できる。

2ａ層．暗褐色（10YR3/3）砂質土を主体とし、灰黄褐色（10YR4/2）砂質土を含む。締まりやや強く、粘性弱い。
　　8の単位に細分層できる。

2ｂ層．暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とする層．締まり弱く、粘性弱い、ローム小粒を少量含む。
　　10の単位に細分層できる。

2ｃ層．暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とする層．締まりはやや強く、粘性弱い、全体的にローム小粒を含み、やや乳理の粗い層。
　　28の単位に細分層できる。

2ｄ層．灰黄褐色（10YR4/2）砂質土を主体としとする層．締まり弱く、粘性弱い。
　　9の単位に細分層できる。

3ａ層．暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体としとする層．締まりやや弱く、粘性弱い、水成堆積土層。
　　3の単位に細分層できる。

3ｂ層．暗褐色（10YR3/4）砂層および砂利層を主体として灰層状の堆積を示す。締まり弱く、粘性弱い、水成堆積土層。
　　3の単位に細分層できる。

Fig.8　1区　W－1号溝跡

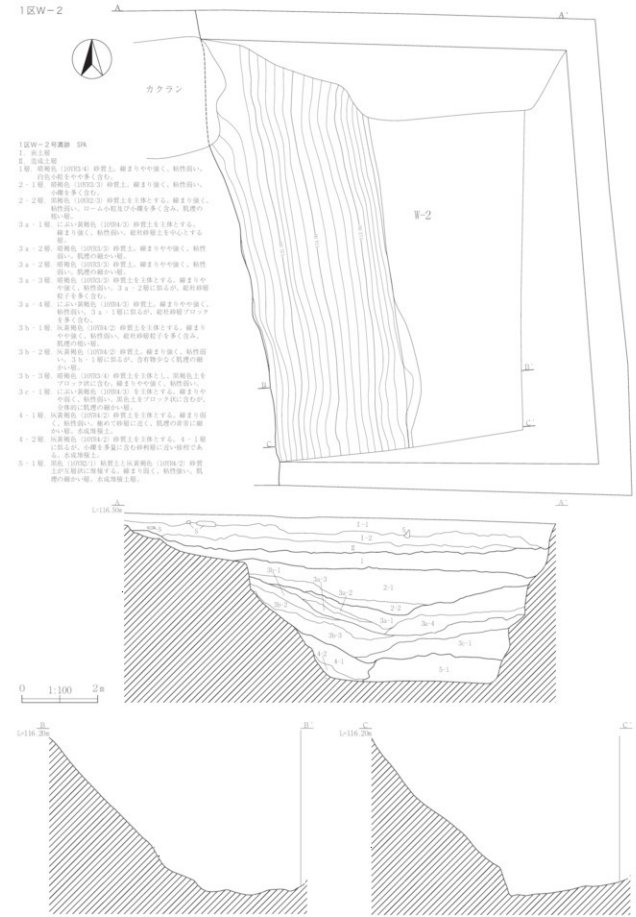
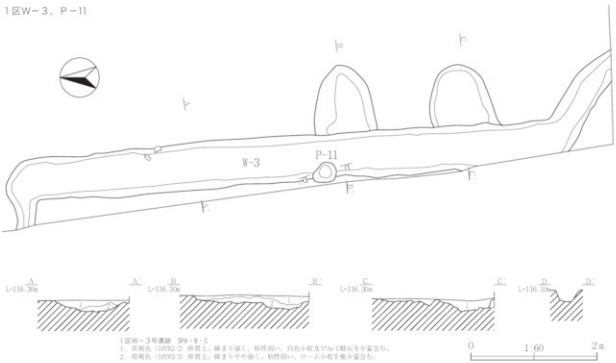


Fig.9　1区　W－2号溝跡

1区W－3、P－11



1区地下式坑

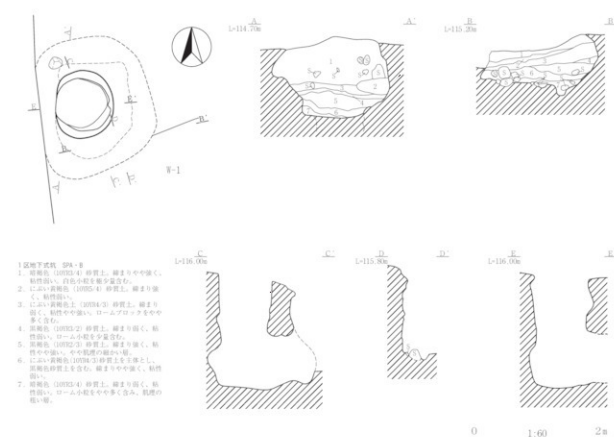
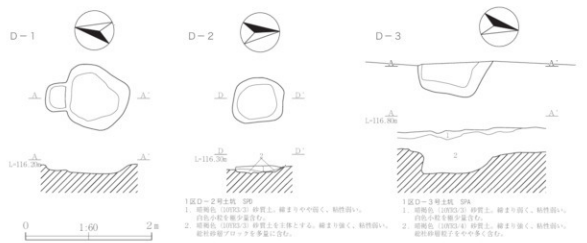


Fig.10　1区　W－3号溝跡、地下式坑、P－11号ピット

1区 I－1

I－1号井戸跡　SP4
1. にぶい黄橙色（10YR5/4）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。礫径砂粒粒子を少量含む。
2. 明褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性やや強い。含有物ほとんど。乳焼の細かい粒。
3. 黒褐色（10YR2/3）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。大礫大の礫を少量含む。
4. にぶい黄橙色（10YR5/4）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。大礫大の礫を多量に含む。

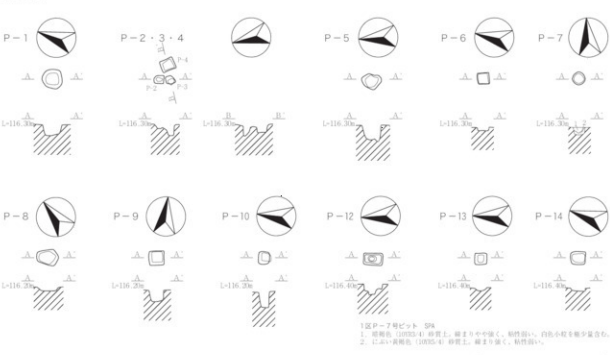
1区土坑



1区D－2号土坑　SP6
1. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。
　白色小粒を極少量含む。
2. 暗褐色（10YR3/3）砂質土を主体とする。締まり強く、粘性弱い。
　礫径砂粒ブロックを多量に含む。

1区D－3号土坑　SP8
1. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。
　白色小粒を極少量含む。
2. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い。
　礫径砂粒粒子をやや多く含む。

1区ピット



1区P－7号ピット　SP4
1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。白色小粒を極少量含む。
2. にぶい黄橙色（10YR5/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い。

Fig.11　1区　I－1号井戸跡、D－1～3号土坑、P－1～10・12～14号ピット

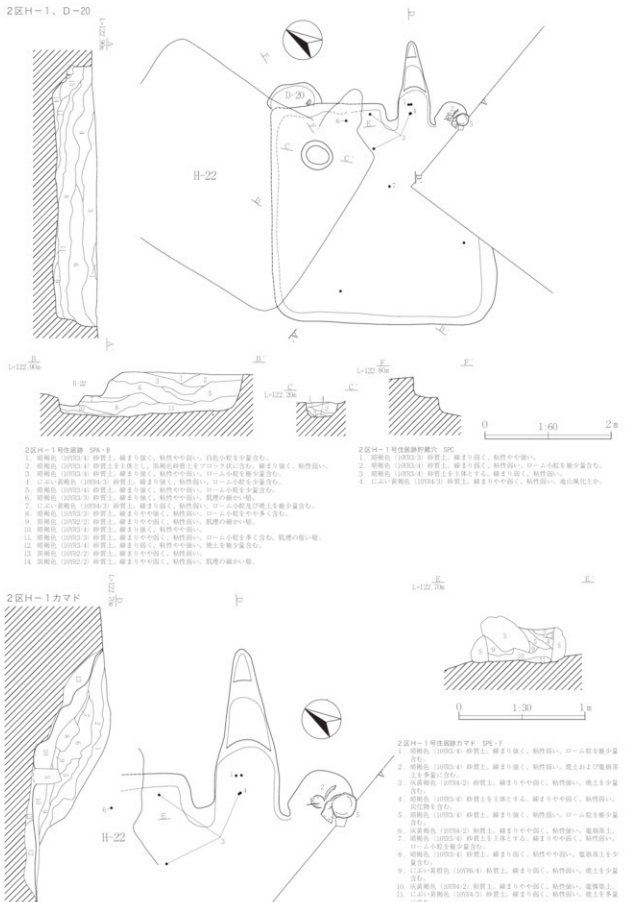
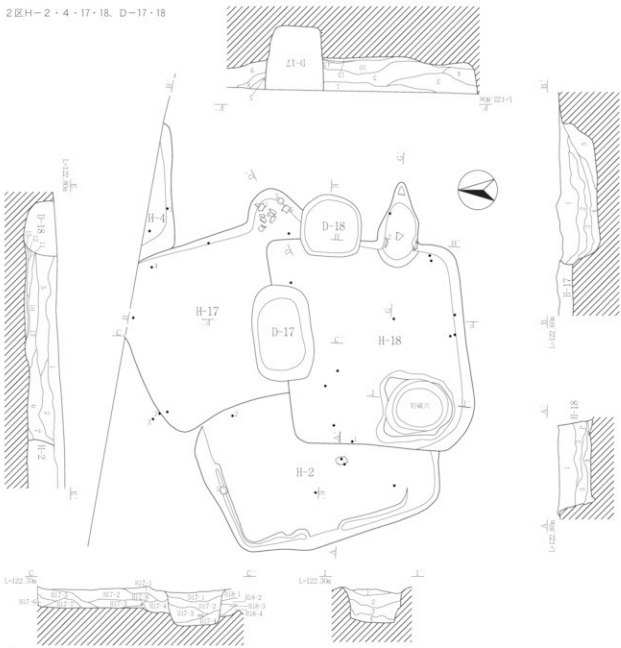


Fig.12 2区 H－1号住居跡、D－20号土坑



2区H－2号住居跡　SP4
1. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。
2. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まりやや強く、粘性弱い。ローム小粒を多く含む。
3. 黒褐色（10YR2/2）砂質土。縁まり強く、粘性やや弱い。肌理のやや粗い層。
4. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。縁まりやや弱く、弱い。ローム小粒をやや多く含む。

2区H－4号住居跡　SP6
1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。
2. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。縁まりやや強く、粘性弱い。肌理のやや粗い層。
3. 黒褐色（10YR2/2）砂質土。縁まりやや強く、粘性弱い。C軽石を極少量含む。
4. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。ロームブロックを少量含む。
5. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。肌理の粗い層。

2区H－17号住居跡　SPC
H17－1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。白色小粒を少量含む。
H17－2. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。ローム小粒を極少量含む。
H17－3. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。
H17－4. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まりやや弱く、粘性弱い。
H17－5. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。
H17－6. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まりやや弱く、粘性弱い。
H17－7. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。
H17－8. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。
H18－1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。白色小粒を少量含む。
H18－2. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。ローム小粒を極少量含む。
H18－3. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。
H18－4. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まりやや弱く、粘性弱い。
D17－1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まりやや弱く、粘性弱い。ローム小粒を極少量含む。
D17－2. 灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。縁まり弱く、粘性弱い。肌理の細かい層。
D17－3. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まりやや弱く、粘性やや強い。
D17－4. にぶい黄褐色（10YR4/3）を呈するロームブロックを主体とする層。縁まり弱く、粘性弱い。肌理の粗い層。

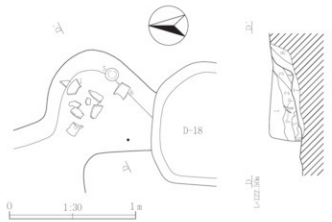
2区H－18号住居跡　SPE・F
1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。白色小粒を少量含む。
2. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。ローム小粒を極少量含む。
3. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。
4. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まりやや弱く、粘性弱い。
5. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まり強く、粘性やや弱い。ローム小粒を多く含む。
6. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。ロームブロックを少量含む。
7. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。縁まり弱く、粘性弱い。
8. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。縁まりやや強く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。
9. 黒褐色（10YR2/2）砂質土。縁まりやや弱く、粘性弱い。
10. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まり強く、粘性やや強い。ローム小粒を少量含む。
11. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。縁まりやや弱く、粘性弱い。ローム小粒を多く含む。
12. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まり弱く、粘性やや強い。ローム小粒を多量に含む。
13. にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土を中心とする。縁まり強く、粘性やや強い。ロームブロックを多く含む。
14. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。縁まりやや弱く、粘性弱い。肌理の細かい層。
15. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まりやや弱く、粘性弱い。

2区H－18号住居跡野鍛穴　SP1
1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まり強く、粘性やや強い。ローム小粒をやや多く含む。
2. 暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とする。縁まりやや強く、粘性弱い。
3. 黒褐色（10YR2/2）砂質土。縁まりやや弱く、粘性弱い。ローム小粒を極少量含む。
4. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。縁まりやや弱く、粘性弱い。ローム小粒を多量に含む。

2区D－17号土坑　SP3
1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まりやや弱く、粘性弱い。ローム小粒を極少量含む。
2. 灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。肌理の細かい層。
3. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まりやや弱く、粘性やや強い。
4. にぶい黄褐色（10YR4/3）を呈するロームブロックを主体とする層。縁まり弱く、粘性弱い。肌理の粗い層。

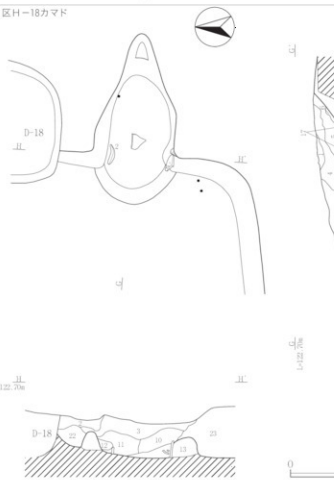
Fig.13　2区　H－2・4・17・18号住居跡、D－17号土坑

2区H－17カマド



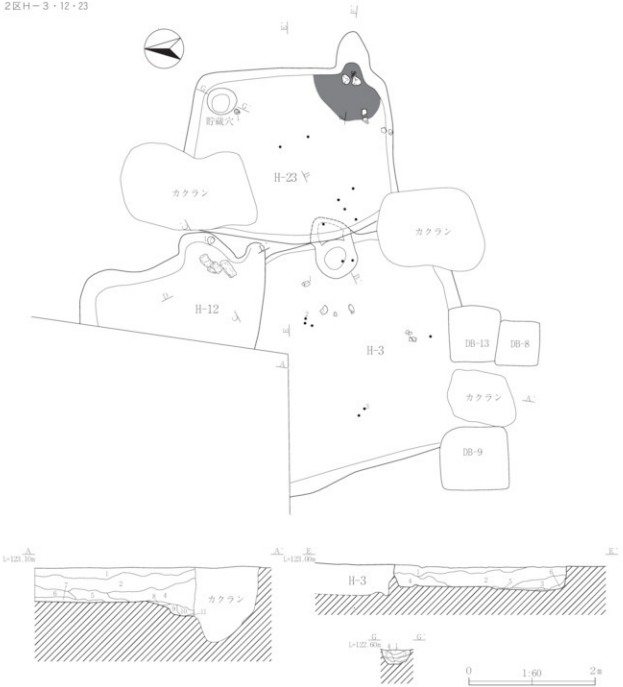
2区H－17号住居跡カマド　SP9
1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性やや弱い。（住居覆土）
2. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い。電離落土及び焼土をやや多く含む。
3. 褐色（7.5YR6/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。焼土を主体とし、乳煙の様い場。
4. 黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。灰層。
5. にぶい黄橙色（10YR6/4）粘質土。締まり弱く、粘性弱い。電離落土。
6. 黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。灰層。
7. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。焼土及び炭化物を少量含む。電離方。
8. にぶい黄橙色（10YR6/4）粘質土。締まり弱く、粘性弱い。電離落土。

2区H－18カマド



2区H－18号住居跡カマド　SP6・9
1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とする。締まり弱く、粘性やや強い。
2. 黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まり弱く、粘性やや強い。ローム小粒及び焼土を僅少量含む。
3. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性やや強い。電離落土と焼れる粘質のブロックを少量含む。
4. 暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とし、灰黄褐色粘質ブロックを多く含む。締まり弱く、粘性やや強い。乳煙は様い場。
5. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性やや強い。焼土をやや多く含む。
6. 褐色（7.5YR6/3）砂質土。締まり弱く、粘性やや強い。焼土を主体とする層。
7. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性やや強い。電離落土をややブロック状に少量含む。
8. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性やや強い。炭化物を僅少量含む。
9. 灰黄褐色（10YR4/2）粘質土。締まり弱く、粘性強い。電離落土を主体とする層。
10. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり弱く、粘性やや強い。電離落土をややブロック状に僅少量含む。
11. にぶい黄橙色（10YR4/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。電離落土及び焼土を多量に含む。
12. 褐色（7.5YR6/4）砂質土。締まり弱く、粘性強い。焼土を中心とする層。
13. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。電離落土及び焼土をやや多く含む。
14. 褐色（7.5YR6/4）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。焼土を中心とする層。
15. にぶい黄橙色（10YR4/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。電離落土及び焼土を多量に含む。
16. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性やや強い。焼土をやや含む。電離方。
17. 灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。焼土を僅少量含む。電離方。
18. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性やや弱い。電離方。
19. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。焼土をやや多く含む。電離方。
20. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。焼土をやや多く含む。電離方。
21. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性やや弱い。電離方。
22. 褐色（7.5YR6/4）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。焼土をやや多く含む。
23. にぶい黄橙色（10YR4/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。ローム小粒を僅少量含む。

Fig.14　2区　H－17・18号住居跡カマド



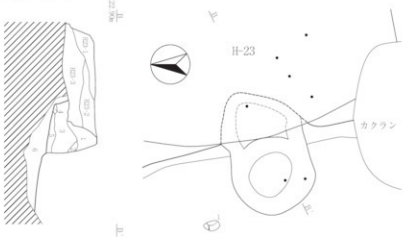
2区H－3号住居跡　SP4
1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。
2. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い、ローム小粒を多量に含む。
3. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い、ローム小粒を極少量含む。
4. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い、ローム小粒を多量に含む。
5. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや強く、粘性強い、ローム小粒をやや多く含む。
6. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや強く、粘性強い、ローム小粒を少量含む。
7. 黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い、ローム小粒及び炭化物を少量含む。
8. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。
9. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い、黒褐色粘質土をブロック状に含む。
10. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや強く、粘性強い。
11. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い、ローム小粒を多く含む。

2区H－23号住居跡　SP5
1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い、粘度の弱い層。
2. 暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とする。締まりやや強く、粘性弱い、ローム少粒を極少量含む。
3. 黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。
4. 暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とし、灰黄褐色砂質土を含む。締まりやや強く、粘性弱い。
5. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。
6. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まり強く、粘性弱い、ローム小粒をやや多く含む。

2区H－23号住居跡貯蔵穴　SP6
1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性やや強い。
2. 暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とする。締まりやや強く、粘性弱い、ローム少粒を多く含む。
3. 黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い、ローム少粒を少量含む。
4. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い、地山風化土か。

Fig.15　2区　H－3・12・23号住居跡

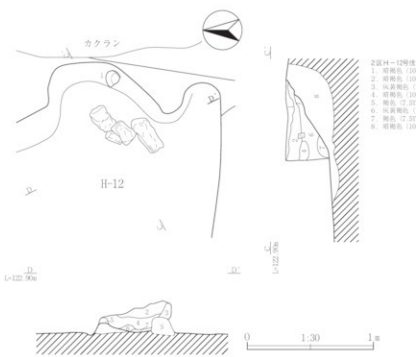
2区H－3カマド



2区H－3号住居跡カマド　SP6
1．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや弱く、粘性やや弱い。ローム・ブロック多少含む。（住居覆土）
2．黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まり強く、粘性弱い。ローム小粒多く焼土を少量含む。（住居覆土）
3．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。焼土及び炭化物を少量含む。
4．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性やや弱い。焼土をやや多く含む。
5．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性やや強い。焼土及び電磁原土を少量含む。
6．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。電磁方。

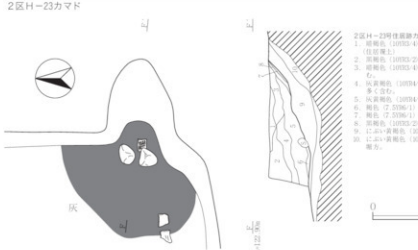
H23－1．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。灰黄褐色粘質土を少量含む。
H23－2．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。焼土を少量含む。
H23－3．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。

2区H－12カマド



2区H－12号住居跡カマド　SP4・8
1．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。（住居覆土）
2．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや弱く、粘性やや弱い。
3．灰黄褐色（10YR4/2）粘質土。締まり弱く、粘性強い。電磁原土。
4．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性やや弱い。焼土を少量含む。
5．褐色（7.5YR6/1）粘質土。締まりやや弱く、電磁原土。
6．灰黄褐色（10YR4/2）粘質土。締まり弱く、粘性やや強い。電磁原土。
7．褐色（7.5YR6/1）粘質土。締まり弱く、粘性やや強い。焼土及び灰を含む。
8．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。電磁方。

2区H－23カマド



2区H－23号住居跡カマド　SP4
1．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性やや強い。焼土を微少量含む。（住居覆土）
2．黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まり強く、粘性やや強い。（住居覆土）
3．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性やや強い。焼土及び炭化物を微少量含む。
4．灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。電磁原土及び焼土をやや多く含む。
5．灰黄褐色（10YR4/2）砂質土を中心とする。締まり弱く、粘性強い。軟質の粗い層。
6．褐色（7.5YR6/1）砂質土。締まり弱く、粘性強い。焼土を多く含む。
7．褐色（7.5YR6/1）砂質土。締まり弱く、粘性強い。焼土を多く含む。
8．黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まり強く、粘性強い。硬層。
9．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。電磁方。
10．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。軟質の細かい層。電磁方。

Fig.16　2区　H－3・12・23号住居跡カマド

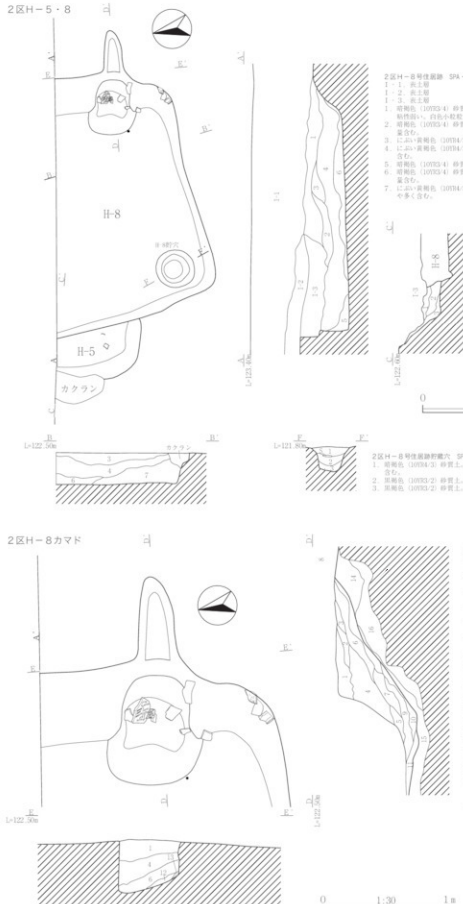
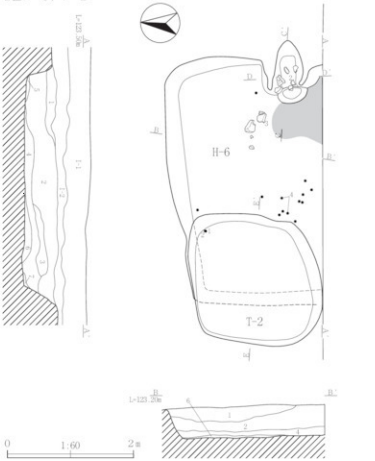


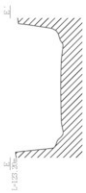
Fig.17　2区　H－5・8号住居跡

2区H－6、T－2

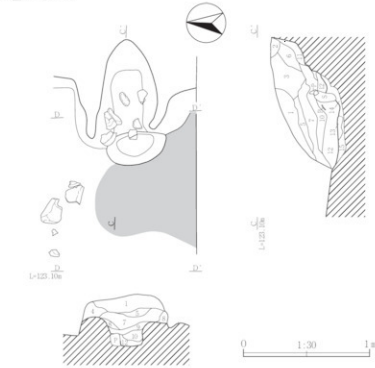


2区H－6号住居跡　SPA-8

1．1．表土層
1．2．表土層
1．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりややく、粘性弱い。白色小粒を極少量含む。
2．にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。
3．にぶい黄褐色土（10YR4/3）砂質土。締まり弱く、粘性ややく、ロームブロックをやや多く含む。
4．黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まり弱く、粘性弱い、ローム小粒を少量含む。
5．黒褐色（10YR2/3）砂質土。締まり強く、粘性ややく、炭化物を極少量含む。
6．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土を主体とし、黒褐色砂質土を含む。締まりややく、粘性弱い。
7．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性弱い、ローム小粒をややく多く含む。



2区H－6カマド

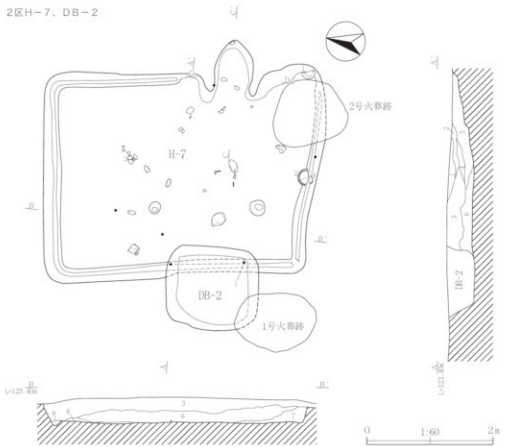


2区H－6号住居跡カマド　SPC-9

1．1．表土層
1．2．表土層
1．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性ややく、焼土をやや多く含む。
2．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まり強く、粘性弱い。
3．暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とし、黄褐色砂質土・焼土を少量含む。締まり弱く、粘性ややく弱い。
4．にぶい黄褐色（10YR6/4）粘質土。締まり弱く、粘性弱い、電褐混土。
5．にぶい黄褐色（10YR6/4）粘質土。締まり弱く、粘性弱い、電褐混土。
6．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い、ローム小粒を少量含む。
7．暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とする。締まり弱く、粘性ややく弱い。
8．にぶい黄褐色（10YR6/4）粘質土。締まり弱く、粘性弱い、電褐混土。
9．黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まり弱く、粘性ややく弱い。
10．暗赤（7.5YR6/1）砂質土。締まり弱く、粘性弱い、焼土を多量に含む。
11．暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とし、黄褐色砂質土を少量含む。締まり弱く、粘性ややく弱い。
12．暗褐色（10YR3/4）砂質土。焼土を少量含む。締まり弱く、粘性ややく弱い。炭層。
13．暗褐色（10YR3/4）砂質土。焼土を少量含む。締まり弱く、粘性ややく弱い。炭層。
14．灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。締まり有り、粘性ややく弱い、ローム粒をややく多く含む。
15．暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とし、黄褐色砂質土を少量含む。締まり弱く、粘性ややく弱い。

Fig.18　2区　H－6号住居跡、T－2号竪穴状遺構

2区H－7、DB－2



2区H－7カマド

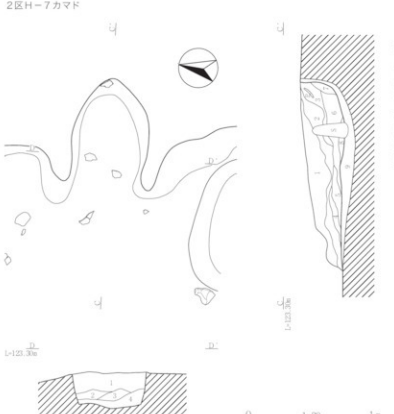
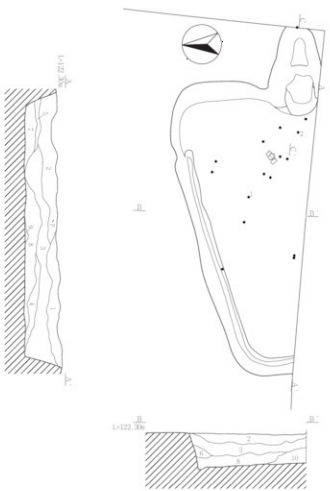


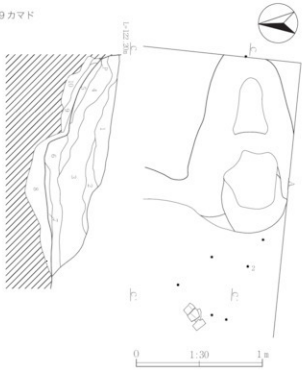
Fig.19　2区　H－7号住居跡、DB－2号土壙墓

2区H－9



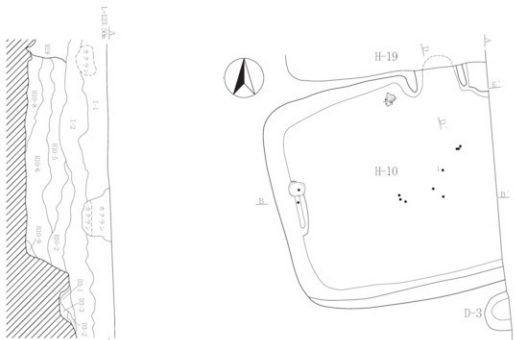
2区H－9　SPA・8
1. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。縁まりやや強く、粘性弱い。
白色小粒を極少量含む。
2. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。縁まりやや強く、粘性やや弱い。
白色小粒及びローム小粒を少量含む。
3. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。
炭黄褐色粘質ブロック及びローム小粒を少量含む。
4. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まりやや弱く、粘性やや強い。
炭及び焦土を少量含む。
5. 黒褐色（10YR2/2）砂質土。縁まりやや弱く、粘性やや弱い。
炭及び焦土を少量含む。
6. 黒褐色（10YR2/2）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。
白色小粒を少量含む。
7. にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土。縁まり強く、粘性強い。
電磁質土。粘理は細かい。
8. 黒褐色（10YR2/2）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。
ローム小粒を少量含む。
9. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。縁まり強く、粘性やや強い。
ローム小粒をやや多く含む。粘理のやや粗い層。
10. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。縁まりやや強く、粘性弱い。
ローム小粒を多く含む。粘理の粗い層。

2区H－9カマド



2区H－9カマド　SPC
1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。縁まりやや強く、粘性弱い。
ローム小粒及び焼土を少量含む。（住居覆土）
2. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。縁まり強く、粘性弱い。（住居覆土）
3. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。縁まり弱く、粘性やや弱い。
ローム小粒及び焼土を少量含む。（住居覆土）
4. 炭黄褐色（10YR4/2）砂質土を主体とする。縁まりやや弱く、粘性弱い。
焦土をやや多く含む。
5. 褐色（7.5YR6/1）砂質土。縁まり弱く、粘性弱い。
焦土を多く含む。粘理の粗い層。
6. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土を主体とする。縁まりやや弱く、粘性弱い。
焦土を少量含む。
7. 炭黄褐色（10YR4/2）砂質土を主体とする。縁まりやや弱く、粘性弱い。炭層。
8. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。縁まり弱く、粘性やや弱い。
炭を少量含む。電磁方。
9. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。縁まりやや弱く、粘性弱い。電磁方。
10. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。縁まりやや弱く、粘性弱い。
粘理の細かい層。電磁方。

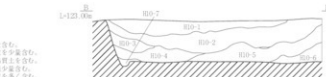
Fig.20　2区　H－9号住居跡



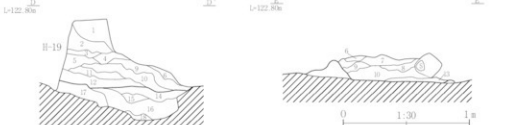
2区H－10-19号住居跡　SPA-B-C

1．表土層

H10-1．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い、ローム粒を極少量含む。
H10-2．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。
H10-3．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い、黒褐色粘質土を含む。
H10-4．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性強い、ローム粒を極少量含む。
H10-5．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い、ローム粒を多く含む。
H10-6．黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まりやや強く、粘性強い。
H10-7．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まり強く、粘性強い、ロームブロックをやや多く含む。
H10-8．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。
H10-9．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まり強く、粘性強い、ロームブロックをやや多く含む。
H2-1．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性強い。
H2-2．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。
H2-3．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い、黒褐色砂質土を少量含む。



2区H－10カマド



2区H－10号住居跡カマド　SPD-E

1．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い、ローム粒を極少量含む。
2．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い、電褐黒粘土を少量含む。
3．灰黄褐色（10YR4/2）粘質土。締まりやや強く、粘性強い、電褐色土か。
4．暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とする。締まりやや強く、粘性弱い、炭化物を含む。
5．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い、ローム粒を極少量含む。
6．灰黄褐色（10YR4/2）粘質土。締まりやや強く、粘性強い、電褐色土。
7．暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とする。締まりやや強く、粘性弱い、ローム粒を極少量含む。
8．暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とする。締まり弱く、粘性やや強い、電褐黒土を少量含む。
9．にぶい黄褐色（10YR6/4）粘質土。締まり弱く、粘性強い、焼土を少量含む。
10．灰黄褐色（10YR4/2）粘質土。締まりやや弱く、粘性強い、電褐黒土か。
11．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まり弱く、粘性強い、焼土を多量に含む。
12．黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まり弱く、粘性やや強い、灰褐。
13．黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まりやや強い、灰褐。
14．にぶい黄褐色（10YR6/4）粘質土。締まり弱く、粘性強い、焼土を少量含む。
15．灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。締まり有り、粘性やや強い、ローム粒をやや多く含む。電褐ガ。
16．暗褐色（10YR3/4）砂質土。黄褐色砂質土を少量含む。締まり弱く、粘性やや強い、電褐ガ。
17．灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。締まり有り、粘性やや強い、ローム粒をやや多く含む。電褐ガ。
18．暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とし、黄褐色砂質土を少量含む。締まり弱く、粘性やや強い、電褐ガ。

Fig.21　2区　H－10号住居跡、D－3号土坑

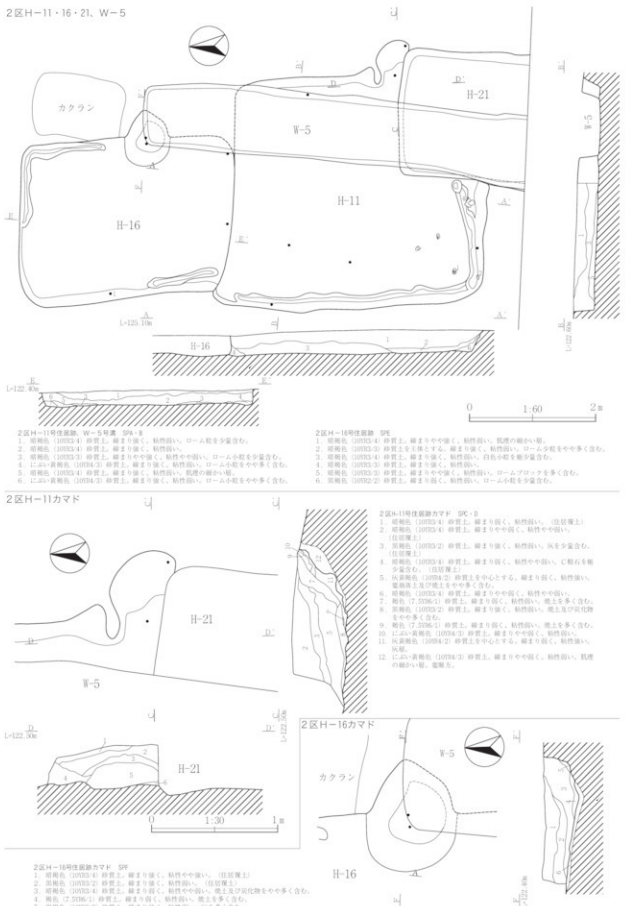
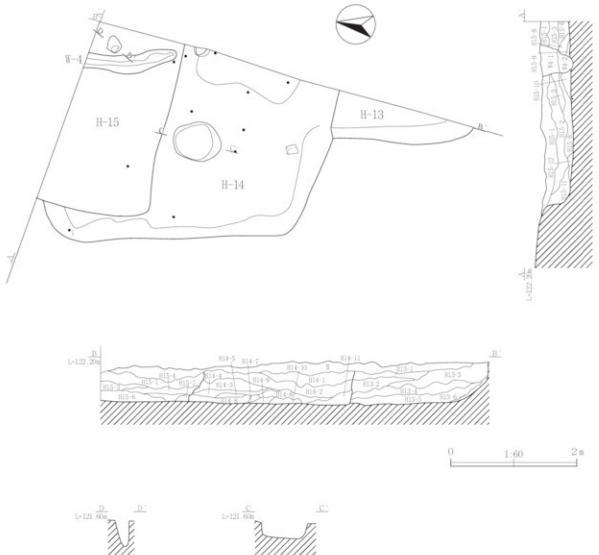


Fig.22　2区　H－11・16・21号住居跡、W－5号溝跡

2区H－13・14・15、W－4



2区H－13・14・15号住居跡、W－4号溝跡　SPA－8

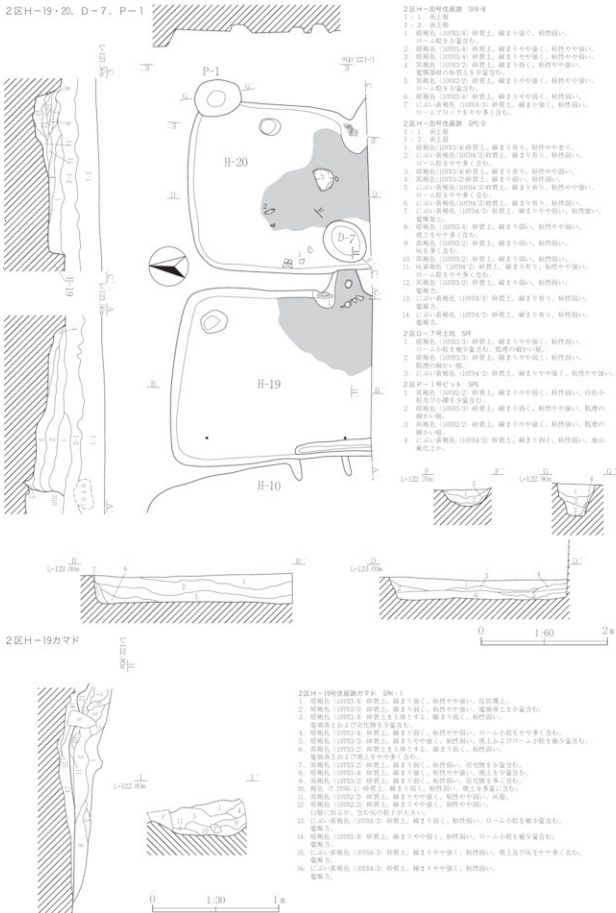
Ⅱ．暗褐色（10YR3/4）砂質土。縮まり強く、粘性弱い。白色小粒及びAs-B粒石を少量含む。

H13・1．暗褐色（10YR3/3）砂質土。縮まり強く、粘性弱い。既焼の細かい砂。
H13・2．暗褐色（10YR3/4）砂質土。縮まり強く、粘性やや強い。
　　ローム小粒をやや多く含む。
H13・3．暗褐色（10YR3/4）砂質土。縮まりやや強く、粘性弱い。
H13・4．黒褐色（10YR2/2）砂質土。縮まり強く、粘性弱い。
H13・5．暗褐色（10YR3/4）砂質土。縮まり強く、粘性やや強い。
　　ロームブロックをやや多く含む。
H13・6．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。縮まり弱く、粘性弱い。
　　ローム小粒を多く含む。
H14・1．暗褐色（10YR3/3）砂質土。縮まり強く、粘性弱い。既焼の細かい砂。
H14・2．暗褐色（10YR3/4）砂質土。縮まり強く、粘性やや強い。
　　ローム小粒をやや多く含む。
H14・3．暗褐色（10YR3/4）砂質土。縮まりやや強く、粘性弱い。
H14・4．黒褐色（10YR2/2）砂質土。縮まり強く、粘性弱い。
H14・5．暗褐色（10YR3/3）砂質土。縮まり強く、粘性やや強い。
　　ロームブロックをやや多く含む。
H14・6．暗褐色（10YR3/3）砂質土。縮まり弱く、粘性弱い。ローム小粒を多く含む。
H14・7．にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土。縮まり強く、粘性強い。塩焼塩土か。
H14・8．暗褐色（10YR3/4）砂質土。縮まり強く、粘性やや強い。ローム小粒をやや多く含む。
H14・9．暗褐色（10YR3/4）砂質土。縮まりやや強く、粘性やや強い。
H14・10．黒褐色（10YR2/2）砂質土。縮まり強く、粘性弱い。
H14・11．暗褐色（10YR3/4）砂質土。縮まり強く、粘性やや強い。ローム小粒をやや多く含む。

H15・1．暗褐色（10YR3/3）砂質土。縮まりやや強く、粘性弱い。
H15・2．暗褐色（10YR3/3）砂質土。縮まり強く、粘性やや強い。
　　白色小粒及びローム小粒を少量含む。
H15・3．暗褐色（10YR3/4）砂質土。縮まりやや強く、粘性弱い。
H15・4．黒褐色（10YR2/2）砂質土。縮まり強く、粘性弱い。
H15・5．暗褐色（10YR3/3）砂質土。縮まり強く、粘性やや強い。
　　ローム小粒を多く含む。
H15・6．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。縮まり強く、粘性やや強い。
　　既焼の細かい砂。
H15・7．にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土。縮まり強く、粘性弱い。
H15・8．黒褐色（10YR2/2）砂質土。縮まり強く、粘性弱い。
　　ローム小粒を極少量含む。
H15・9．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。縮まり強く、粘性弱い。
　　既焼の細かい砂。
H15・10．暗褐色（10YR3/4）砂質土。縮まり強く、粘性弱い。
H15・11．暗褐色（10YR3/4）砂質土。縮まり強く、粘性やや強い。
　　ローム小粒をやや多く含む。
H15・12．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。縮まり強く、粘性弱い。
　　既焼の細かい砂。

W3・1．黒褐色（10YR2/2）砂質土。縮まり強く、粘性やや強い。
　　白色小粒及びAs-C粒石を少量含む。
W3・2．暗褐色（10YR3/3）砂質土。縮まりやや強く、粘性やや強い。
　　ローム小粒を極少量含む。

Fig.23　2区　H－13・14・15号住居跡、W－4号溝跡

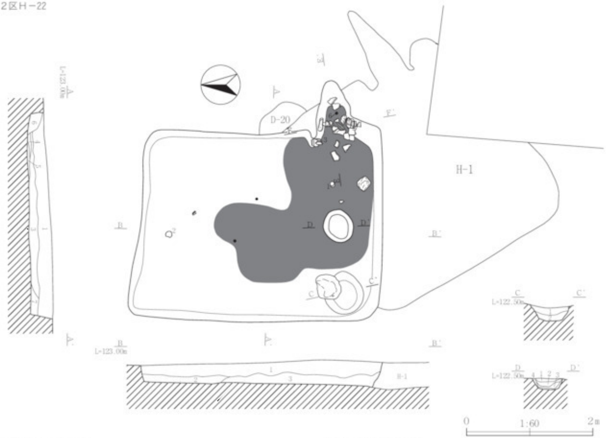


2区H－20号住居跡　SPA-8
1・1．表土層
1・2．表土層
1．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い。
ローム粒を少量含む。
2．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。
3．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。
4．黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まり弱く、粘性やや強い。
電磨器材の粘質土を少量含む。
5．黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。
ローム粒を少量含む。
6．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性強い。
7．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。
ローム粒をやや多く含む。
2区H－20号住居跡　SPC-9
1・1．表土層
1・2．表土層
1．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり有り。粘性やや有り。
2．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まり有り。粘性強い。
ローム粒をやや多く含む。
3．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり有り。粘性やや強い。
4．黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まり強い。粘性強い。
5．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まり有り。粘性やや強い。
ローム粒をやや多く含む。
6．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まり有り。粘性強い。
7．にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土。締まりやや強い。粘性強い。
電磨器土。
8．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強い。粘性やや強い。
焼土をやや多く含む。
9．黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まり強い。粘性強い。
灰を多く含む。
10．黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まり強い。粘性強い。
11．灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。締まり有り。粘性やや強い。
ローム粒をやや多く含む。
12．黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まり強い。粘性強い。
電磨方。
13．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まり有り。粘性強い。
電磨方。
14．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まり有り。粘性強い。
電磨方。
2区D－7号土坑　SPF
1．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや強く、粘性強い。
ローム小粒を微少量含む。肌理の細かい粘。
2．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや強く、粘性強い。
肌理の細かい粘。
3．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。
2区P－1号ピット　SPG
1．黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まりやや強く、粘性強い。白色小粒及び小礫を少量含む。
2．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり弱く、粘性やや強い。肌理の細かい粘。
3．黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まりやや強く、粘性強い。肌理の細かい粘。
4．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。地山風化土小。

2区H－19号住居跡カマド　SPN－1
1．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性やや強い。住居埋土。
2．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり強く、粘性やや強い。電磨器土を少量含む。
3．暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とする。締まり弱く、粘性強い。
電磨器土および焼土粒を少量含む。
4．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや弱い。ローム小粒をやや多く含む。
5．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや強く、粘性強い。焼土およびローム小粒を微少量含む。
6．黒褐色（10YR3/2）砂質土を主体とする。締まり強く、粘性強い。
電磨器土および焼土をやや多く含む。
7．黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まり弱く、粘性強い。炭化物を少量含む。
8．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性やや強い。焼土を少量含む。
9．黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まり弱く、粘性強い。炭化物を多く含む。
10．明赤色（2.5YR6/1）砂質土。締まり弱く、粘性強い。焼土を多量に含む。
11．黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。灰層。
12．黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。
11層に似るが、含む灰の粒子が大きい。
13．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まり強く、粘性強い。ローム粒を微少量含む。
電磨方。
14．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。ローム小粒を微少量含む。
電磨方。
15．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや強く、粘性強い。焼土及び灰をやや多く含む。
電磨方。
16．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや強く、粘性強い。
電磨方。

Fig.24　2区　H－19・20号住居跡、D－7号土坑、P－1号ピット

2区H−22

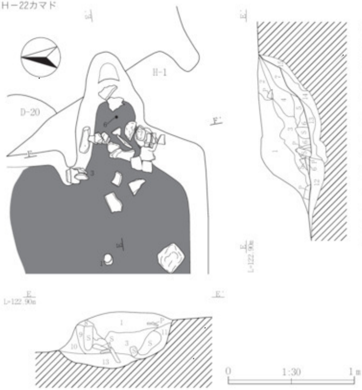


2区H−22号住居跡　SPA・B
1. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。
2. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。
3. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり強く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。
4. 黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。
5. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。ローム小粒を少量含む。
6. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。
7. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。ローム小粒を少量含む。

2区H−22号住居跡貯蔵穴　SPC
1. 黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。
2. 黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。灰黄褐色粘質ブロックを少量含む。

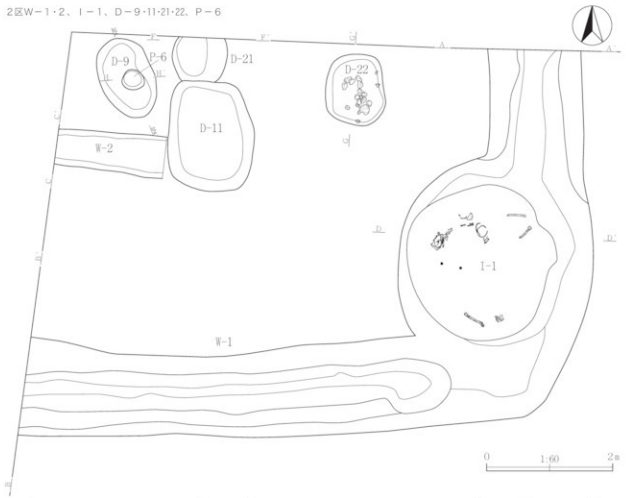
2区H−22号住居跡貯蔵穴　SPD
1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性やや弱い。
2. 黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。
3. 黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。灰黄褐色粘質ブロックを少量含む。
4. 灰黄褐色（10YR4/2）粘質土。締まり強く、粘性強い。

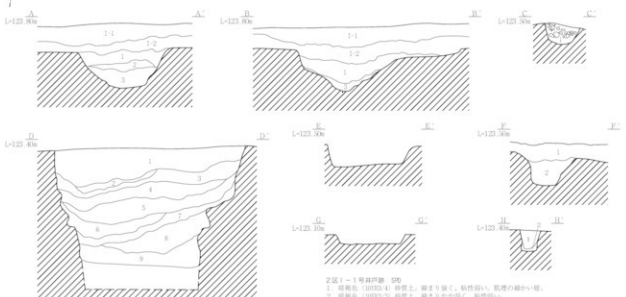
2区H−22カマド



2区H−22号住居跡カマド　SPG・H
1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い。ローム粒を極少量含む。
2. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い。焼土および竈崩落土を多量に含む。
3. 灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。締まりやや弱く、粘性強い。焼土を少量含む。
4. 暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とする。締まりやや弱く、粘性弱い。炭化物を含む。
5. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い。ローム粒を極少量含む。
6. 灰黄褐色（10YR4/2）粘質土。締まりやや弱く、粘性強い。竈崩落土。
7. 暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とする。締まりやや弱く、粘性弱い。ローム小粒を極少量含む。
8. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性やや弱い。竈崩落土を少量含む。
9. にぶい黄橙色（10YR6/4）粘質土。締まり弱く、粘性弱い。焼土を少量含む。
10. 灰黄褐色（10YR4/2）粘質土。締まりやや弱く、粘性強い。竈構築土。
11. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。焼土を多量に含む。
12. 黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まり弱く、粘性やや強い。竈堀方。
13. 黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まり弱く、粘性やや強い。竈堀方。
14. にぶい黄橙色（10YR6/4）粘質土。締まり弱く、粘性弱い。焼土を少量含む。竈堀方。
15. 灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。締まり有り、粘性やや強い。ローム粒をやや多く含む。竈堀方。

Fig.25　2区　H−22号住居跡





2区W－1号溝跡　SR-8
1－1　表土層
1－2　表土層
1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い。白色小粒を少量含む。
2. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性やや弱い。
3. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性やや弱い。ローム小粒をやや多く含む。
　全体的に乱雑の感い層。

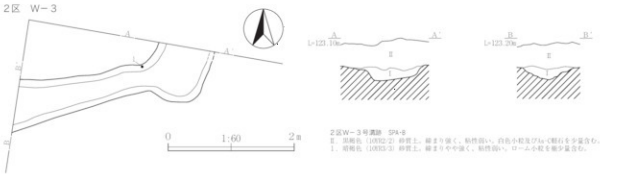
2区W－2号溝跡　SR
1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い。自然礫及び瓦片を多く含む。

2区Ⅰ－1号井戸跡　SPB
1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い。乱雑の細かい層。
2. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。
3. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。
4. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや強く、粘性やや弱い。ローム小粒を少量含む。
5. 黒褐色（10YR2/3）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。
6. 黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。
7. 黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まり強く、粘性弱い。乱雑のやや強い層。
8. 黒褐色（10YR3/3）砂質土と黄褐色（10YR5/6）ローム粒が混合。締まりやや強く、粘性弱い。
9. 黒褐色（10YR3/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。ロームブロックをやや多く含む。

2区D－2号土坑　SPF
1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。ローム小粒を僅少量含む。
2. にぶい黄褐色（10YR6/3）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。

2区P－1号ピット　SPH
1. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり強く、粘性弱い。ローム小粒及び小礫を少量含む。
2. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。

Fig.26　2区　W－1・2号溝跡、Ⅰ－1号井戸跡、D－9・11・21・22号土坑、P－6号ピット



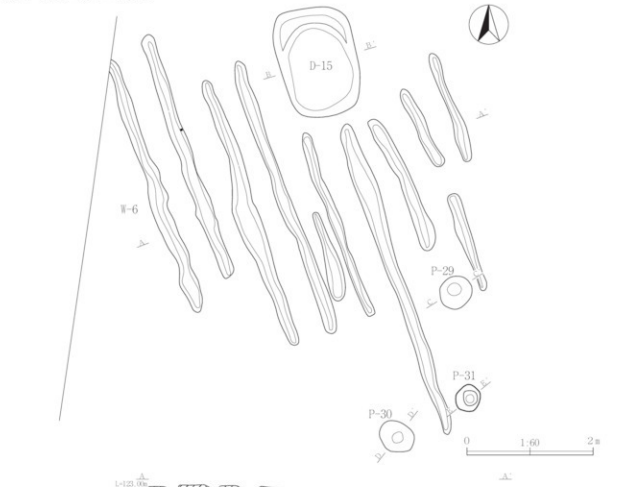
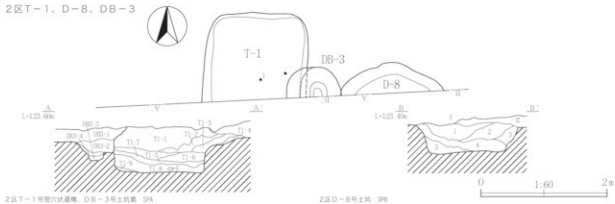
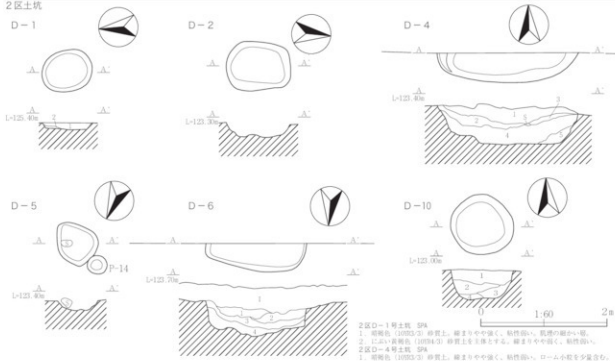


Fig.27　2区　W－3・6号溝跡、D－15号土坑、P－29～31号ピット



2区T－1号竪穴状遺構、D B－3号土坑墓　SPA
D B 3 - 1：暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。ローム粒をやや多く含む。
D B 3 - 2：暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり弱く、粘性やや強い。粘質の細かい塊。
D B 3 - 3：黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まり弱く、粘性やや強い。粘質の細かい塊。
D B 3 - 4：黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まり弱く、粘性やや強い。ローム粒を極少量含む。
T 1 - 1：暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや強く、粘性強い。ローム粒を少量含む。
T 1 - 2：暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強い。粘性やや強い。ローム粒をやや多く含む。
T 1 - 3：にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土に、ロームブロックを多量に含む。締まり強く、粘性弱い。
T 1 - 4：暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性強い。ローム粒をやや多く含む。
T 1 - 5：暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強い。粘質の細かい塊。
T 1 - 6：暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり強く、粘性強い。粘質の細かい塊。
T 1 - 7：暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性強い。白色粒を極少量含む。
T 1 - 8：黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まりやや強い。ローム粒をやや多く含む。
T 1 - 9：黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まりやや強い。粘性やや強い。粘質の細かい塊。

2区D－8号土坑　SPB
1．表土層
E：暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い。白色小粒及び3a-3層石を少量含む。
1：暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。粘質の細かい塊。
2：暗褐色（10YR2/3）砂質土。締まり強く、粘性弱い。ローム小粒をやや多く含み、粘質の細い塊。
3：黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まり強く、粘性弱い。
4：暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い粘質の細かい塊。
5：にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや強い。粘性弱い。ローム小粒をやや多く含む。



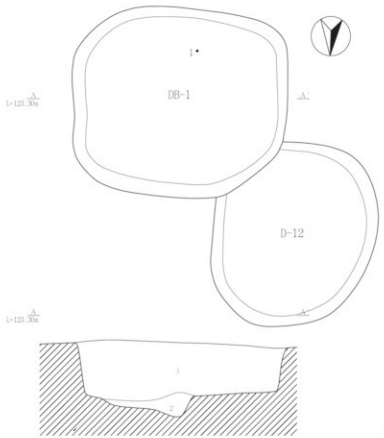
2区D－1号土坑　SPA
1．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。粘質の細かい塊。
2．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土を主体とする。締まりやや強く、粘性弱い。
2区D－4号土坑　SPA
1．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。
2．黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。
3．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり強く、粘性弱い。ローム小粒を多く含む。
4．黒褐色（10YR2/3）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。ローム粒ブロックを含む。
5．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。粘質の細かい塊。
2区D－5号土坑　SPA
1．表土層。
1．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。白色小粒を極少量含む。
2．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり強く、粘性やや強い。
白色小粒及び7ローム小粒を少量含む。
3．黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まり強く、粘性弱い。
4．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや弱く、粘性やや強い。
ローム小粒を少量含む。
2区D－10号土坑　SPA
1．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。粘質の細かい塊。
2．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり強く、粘性弱い。ローム粒を少量含む。
2区D－14号土坑　SPA・B
1．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。
2．黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。
3．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。ローム小粒を多く含む。
4．黒褐色（10YR2/3）砂質土。締まり強く、粘性弱い。
2区D－23号土坑　SPA
1－1．表土層
1－2．表土層
1．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い。ローム粒を少量含む。
2．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。1層に比べ、粘質が強い。
3．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。
ローム小粒及び黒褐色砂質ブロックをやや多く含む。
4．暗褐色（10YR3/4）砂質土を主体とし、砂利を少量含む。締まり強く、粘性弱い。
黒褐色砂質ブロックをやや多く含む。
5．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。
ローム小粒及び黒褐色砂質ブロックをやや多く含む。

Fig.28　2区　T－1号竪穴状遺構、D－1・2・4・5・6・8・10・14・23号土坑、D B－3号土壙墓

2区ピット

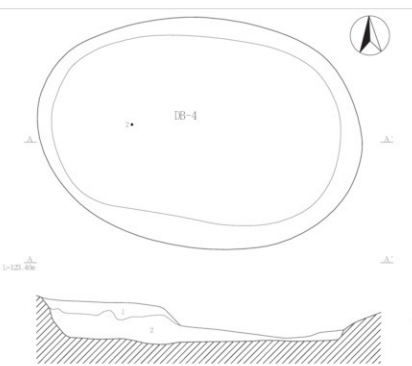
Fig.29　2区 ピット

2区ＤＢ－１・D-12



2区ＤＢ－１号土壙墓　SPA
1．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。色小粒を少量含む。
2．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。肌理の細かい層。地山風化土か。

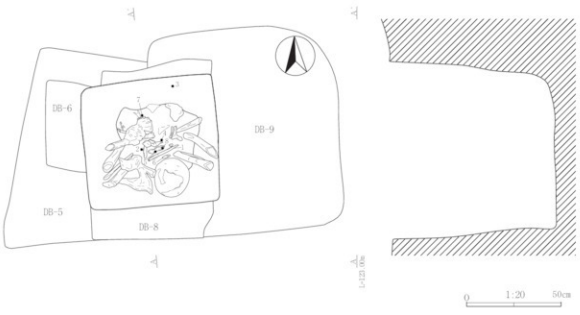
2区ＤＢ－４



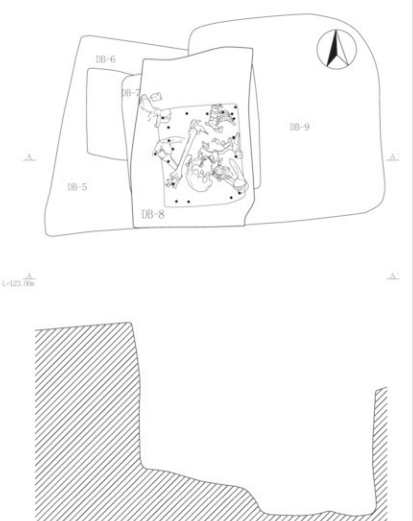
2区ＤＢ－４号土壙墓　SPA
1．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、弱い。肌理の細かい層。
2．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり強く、粘性弱い。ローム小粒を少量含む。

Fig.30　2区　D－12号土坑、ＤＢ－１・４号土壙墓

2区ＤＢ－7



2区ＤＢ－8



9区ＤＢ－5・6

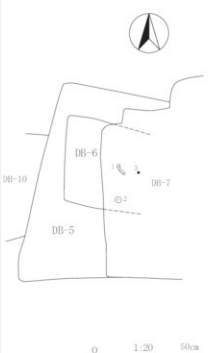
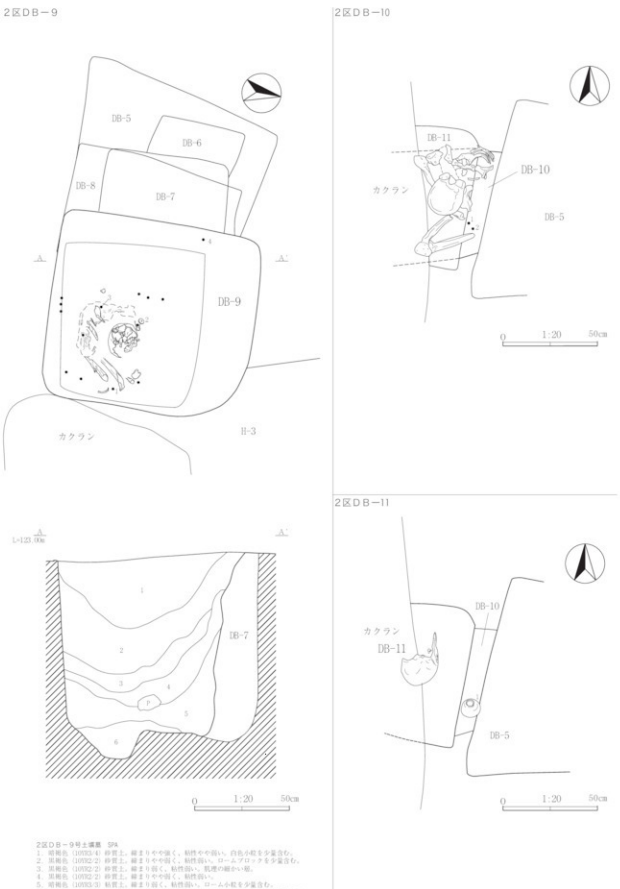


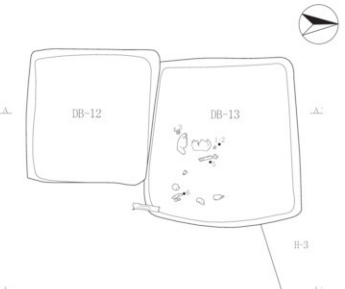
Fig.31　2区　ＤＢ－5～8号土壙墓

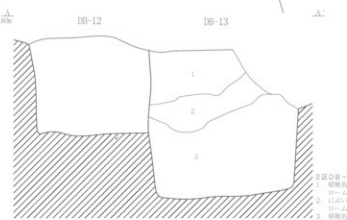


2区ＤＢ－９号土壙墓　SP4
1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土、細まりやや強く、粘性やや弱い、白色小粒を少量含む。
2. 黒褐色（10YR2/2）砂質土、細まりやや強く、粘性弱い、ローム小粒を少量含む。
3. 黒褐色（10YR2/2）砂質土、細まり弱く、粘性強い、貝層の細かい帯。
4. 黒褐色（10YR2/2）砂質土、細まりやや強く、粘性弱い。
5. 暗褐色（10YR3/3）粘質土、細まり弱く、粘性弱い、ローム小粒を少量含む。
6. にぶい黄褐色（10YR6/4）粘質土、細まり良く、粘性弱い、ロームブロックを多く含む。

Fig.32　2区　ＤＢ－９～11号土壙墓

2区ＤＢ－12･13





2区ＤＢ－12･13号土壙墓　SP4
1．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。
ローム小粒を極少量含む。
2．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。
ローム小粒を少量含む。
3．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。
ローム小粒を少量含む。

2区ＤＢ－14・Ｄ－16

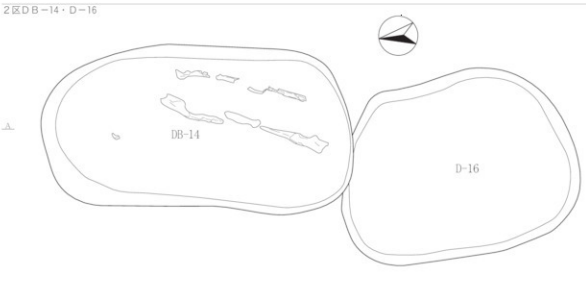
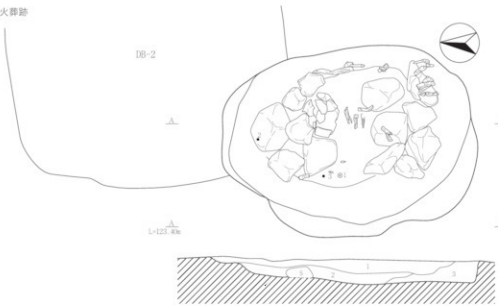


Fig.33　2区　Ｄ－16号土坑、ＤＢ－12～14号土壙墓

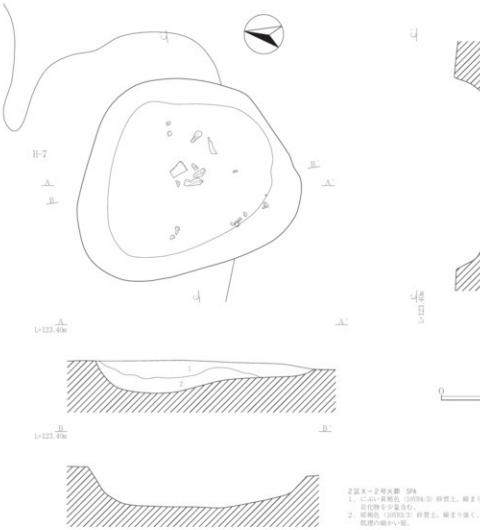
2区1号火葬跡



2区X－1号火葬　SPA
1．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。肌理の細かい層。
2．暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い。肌理の細かい層。
3．暗褐色（10YR3/3）砂質土を主体とする。締まりやや強く、粘性弱い。炭化及び地土を多く含む層。

0　1:20　50cm

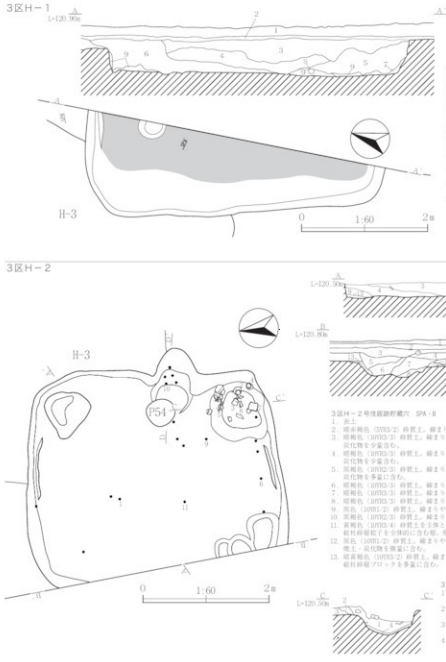
2区2号火葬跡



2区X－2号火葬　SPA
1．にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。炭化物を少量含む。
2．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり強く、粘性弱い。肌理の細かい層。

0　1:20　50cm

Fig.34　2区　1・2号火葬跡



3区H－1号住居跡　SPA
1. 黒褐色（10YR3/1）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。
2. 褐色（7.5YR4/4）砂質土。締まりやや強く、粘性強い、壁土。
3. 黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。含有物少なく、焼礫の細かい粒。
4. 黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。硬化砂層ブロック多量含む。
5. 黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。4層に似るが、ブロック多量に含む。
6. 黒褐色（10YR3/1）砂質土を主体とする。締まり弱く、粘性弱い。硬化砂層粒子多量に含む。
7. 黒色（10YR2/1）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。硬化砂層ブロック多量含む。
8. 黒色（10YR2/1）砂質土を主体とする。締まり弱く、粘性弱い。硬化砂層ブロック多量含む。
9. にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土を主体とする。締まり弱く、粘性弱い。地山風化土か。

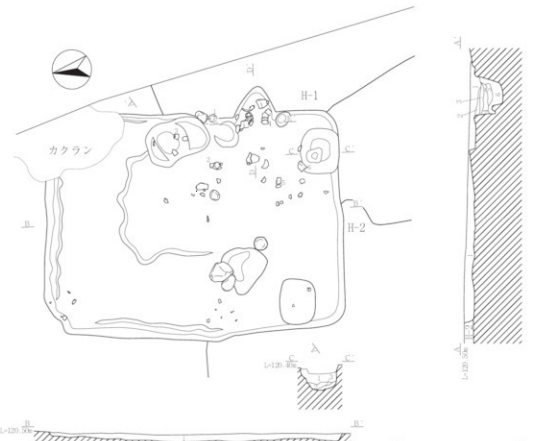
3区H－2号住居跡貯蔵穴　SPA－8
1. 表土
2. 明赤褐色（5YR5/2）砂質土。締まり強く、粘性強い。水洲層土。
3. 明褐色（10YR3/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。褐色粒子のブロック・小礫を多量に、炭化物を少量含む。
4. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。硬化砂層ブロック・炭化物を少量含む。
5. 黒褐色（10YR2/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。硬化砂層粒子・炭化物を微量に含む。
6. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。硬化砂層ブロックを多量に含む。
7. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。硬化砂質ブロックをやや多く含む。
8. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。硬化砂質ブロックをやや多く含む。
9. 黒色（10YR1/2）砂質土。締まりやや強い。粘性強い。炭化物を多く含む。
10. 黒褐色（10YR2/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。硬化砂層粒子・炭化物を微量に含む。
11. 黄褐色（10YR5/4）砂質土を主体とし、黒色土を含む。締まり弱く、粘性弱い。硬化砂層粒子を含体的に含む層。壁崩落土。
12. 黒色（10YR1/2）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。硬化砂層ブロックを少量、炭土・炭化物を微量に含む。
13. 暗黒褐色（10YR3/2）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。硬化砂層ブロックを多量に含む。

3区H－2号住居跡貯蔵穴　SPC
1. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり強く、粘性弱い。炭化物・小礫をやや多量に含む。
2. 灰白（10YR8/1）砂質土。締まり強く、粘性強い。白色粘土の間を含む。カマド天井崩落土。
3. 暗褐色土（10YR3/3）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。硬化砂層ブロック・炭化物を少量含む。
4. 灰白（10YR8/1）砂質土。締まり強く、粘性強い。白色粘土の縦層。壁崩・壁崩落崩粘土。

3区H－2号住居跡カマド　SPD
1. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。白色粘土ブロックを多量に含む。
2. 黒褐色（10YR3/1）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。白色粘土ブロック・焼土・炭化物をやや少量含む。
3. 暗赤褐色（10YR3/2）砂質土。焼土を主体とする。締まり弱く、粘性弱い。炭化物を少量含む。
4. 暗灰色（10YR4/1）砂質土。灰を主体とする。締まり弱く、粘性弱い。焼土を微量含む。
5. 暗灰色（10YR4/1）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。焼土・炭化物・灰を多量に含む。
P.54-1. 黒褐色（10YR3/1）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。
A₁－1層Aₙ－1層ブロックやや多量に含む。
P.54-2. 黒色（10YR2/1）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。焼土・炭化物を少量含む。
P.54-3. 黒色（10YR2/1）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。
硬化砂層ブロック・焼土・炭化物を少量含む。

Fig.35　3区　H－1・2号住居跡

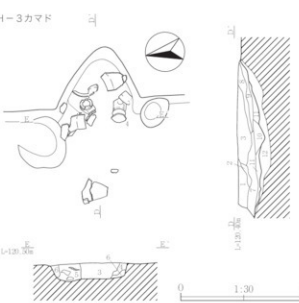
3区H－3



3区H－3号住居跡　SPA-8
1．黒褐色（10YR3/1）砂質土。締まり弱く、軟性弱い。焼土・炭化物を微量。超灰砂層ブロック・小礫をやや少量含む。
2．灰白（10YR8/1）砂質土。締まりやや弱く、軟性強い。白色粘土ブロックを主体とする。カマド崩落土。
3．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり強く、軟性やや強い。焼土・炭化物をやや少量。超灰砂層ブロックを多量に含む。床面構築土。
4．黒褐色（10YR3/1）砂質土。締まり弱く、軟性弱い。炭化物を多量に含む。床下土坑覆土。
5．黄褐色（10YR5/6）砂質土。超灰砂層土を主体とする。締まり弱く、軟性弱い。黒色土ブロックを少量含む。ＳＳ-2軽石崩落土。床下土坑覆土。
6．黄褐色（10YR5/6）砂質土。超灰砂層土を主体とする。締まり弱く、軟性弱い。黒色土ブロックを少量含む。床下土坑覆土。

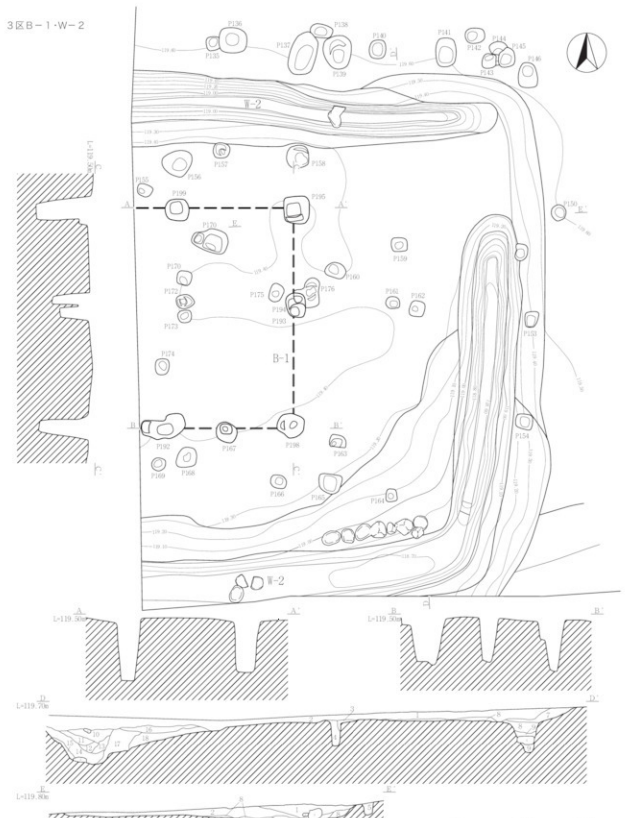
3区H－3号住居跡貯蔵穴　SPC
1．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり弱く、軟性弱い。焼土・炭化物・白色粘土微量。床面構築土ブロック・超灰砂層ブロックをやや多量に含む。
2．暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まり弱く、軟性弱い。焼土・炭化物・白色粘土微量。床面構築土ブロック・超灰砂層ブロックをやや多量に含む。
3．暗黄褐色（10YR3/2）砂質土。締まり弱く、軟性弱い。超灰砂層を主体とする。黒色土ブロックを微量に含む。壁崩落土。

3区H－3カマド



3区H－3号住居跡カマド　SPD・焼
1．黒褐色（10YR3/1）砂質土。締まり弱く、軟性弱い。焼土・炭化物を微量に。
超灰砂層ブロック・小礫をやや少量含む。
2．灰白（10YR8/1）砂質土。白色粘土を主体とする。締まりやや弱く、軟性強い。
カマド天井崩落土。
3．暗褐色土（10YR3/3）砂質土。締まりやや弱く、軟性やや弱い。
焼土・炭化物を中量含む。
4．暗褐色土（10YR3/3）砂質土。締まり弱く、軟性弱い。焼土をやや多量に。
白色粘土を少量含む。
5．明赤褐色土（2.5YR5/6）砂質土。焼土を主体とする。締まり弱く、軟性弱い。
6．暗褐色土（10YR3/3）砂質土。締まり弱く、軟性弱い。焼土ブロックをやや多含む。
7．暗褐色土（10YR3/3）砂質土。締まり弱く、軟性弱い。焼土・炭化物・灰を多量に含む。
8．明赤褐色土（2.5YR5/6）砂質土。締まり弱く、軟性弱い。焼土・炭化物を多量に含む。
9．暗褐色土（10YR3/3）砂質土。灰を主体とする。締まり弱く、軟性弱い。
焼土をやや多量に含む。
10．暗褐色土（10YR3/3）砂質土。締まり弱く、軟性弱い。焼土・炭化物・灰を多量に含む。
11．灰褐色土（10YR6/1）砂質土。締まり弱く、軟性弱い。灰層。

Fig.36　3区　H－3号住居跡



3区W－2号溝跡　SPD・E

1. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まり強く、粘性弱い。総社砂層粒子をやや多く含む。
2. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。
   1層に似るが、やや黒みが強く含有物が少ない。
3. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性やや弱い。黒褐色粘質土を含む。P162陳土。
4. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。ローム粒を微少量含む。P162陳土。
5. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。ローム粒を多く含む。P150陳土。
6. 暗褐色（10YR3/4）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。
7. 褐灰色（10YR4/1）砂質土を1体とし、黄褐色砂質ブロックを含む。締まり強く、粘性弱い。
8. にぶい黄褐色（10YR6/4）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。
   総社砂層ブロック・黒色土ブロックを含む。
9. 黒褐色（10YR3/1）砂質土。締まり強く、粘性やや強い。
10. 暗褐色（10YR3/3）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。含有物少なく、肌理の細かい層。
11. 黒色（10YR2/1）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。10層に似るが、やや黒みが強い。
12. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。
13. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。
    総社砂層粒子・小礫をやや多く含む。
14. 黒褐色（10YR3/1）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。総社砂層粒子を少量含む。
15. 黒色（10YR2/1）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。肌理の細かい層。
16. 灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。含有物少なく、肌理の細かい層。
17. にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。
    総社砂層ブロック・赤大の礫をやや多く含む。
18. にぶい黄褐色（10YR5/3）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。池山風化土か。

Fig.37　3区　B－1掘立柱建物跡、W－2号溝跡

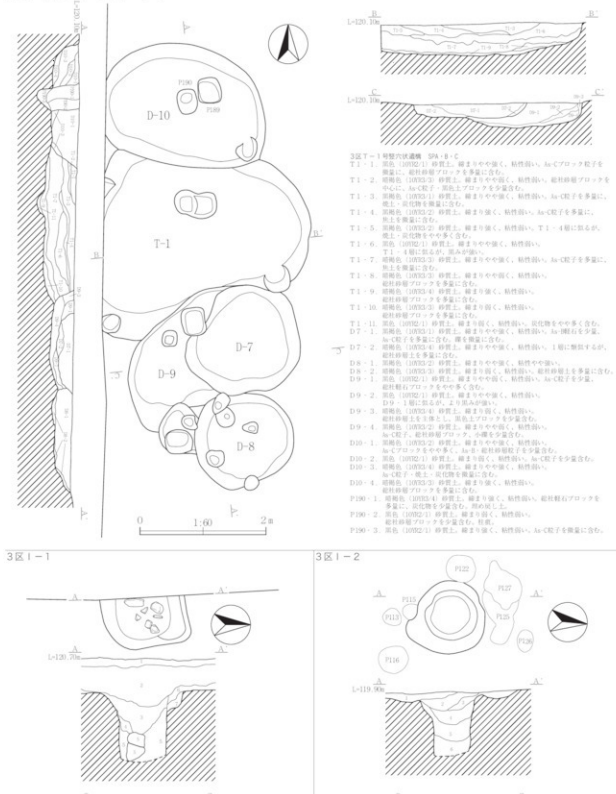
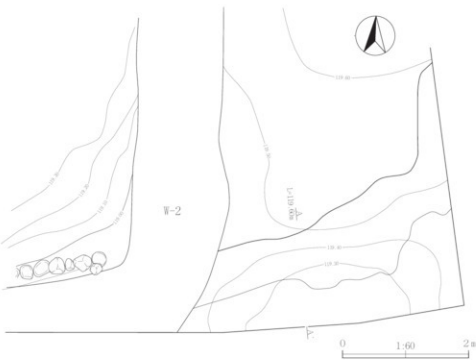
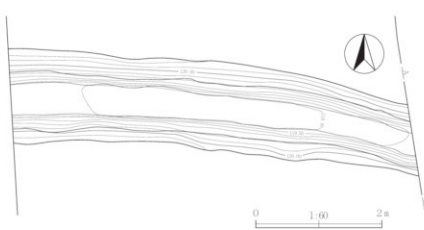


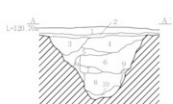
Fig.38 3区 T－1号竪穴状遺構、D－7～10号土坑、I－1・2号井戸跡

3区W－1



3区W－3

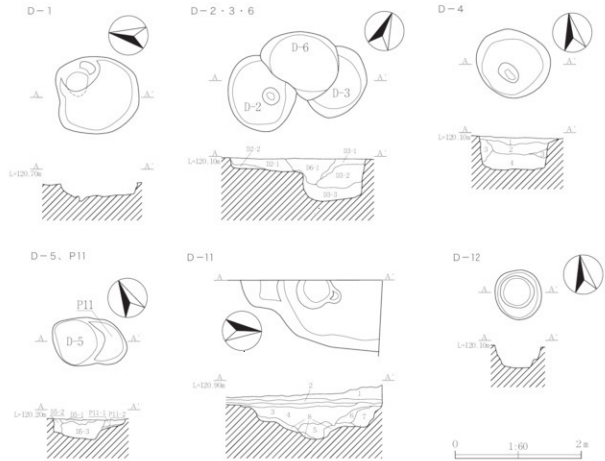




3区W－3溝跡　SP8
1．黒褐色（10YR3/1）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。
2．褐色（7.5YR4/4）砂質土。締まりやや強く、粘性弱い。炭土。
3．黒褐色（10YR3/1）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。含有物少なく、肌理の細かい層。
4．黒灰色（10YR3/1）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。炭粒砂礫ブロックを多く含む。
5．褐灰色（10YR4/1）砂質土。締まりやや強く、粘性やや強い。
6．灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い。炭粒砂礫粒子を少量含む。
7．黒褐色（10YR3/1）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。含有物少なく、肌理の細かい層。
8．黒褐色（10YR2/2）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。含有物少なく、肌理の細かい層。
9．にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。地山風化土か。
10．黒褐色（10YR3/1）砂質土を主体とし、黄褐色土を含む。締まりやや弱く、粘性弱い。

Fig.39　3区　W－1・3号溝跡

3区D－1～6・11～14号土坑



3区D－2・3・6号土坑　SPA
D 2 - 1．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性やや強い。
　　焼土ブロックを中量、絞粒砂粒ブロックを含む。
D 2 - 2．黄褐色土（10YR5/6）絞粒砂粒を主体とする。締まり強く、
　　粘性弱い、黒色土ブロックをやや少量含む、壁崩落土。
D 3 - 1．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性やや強い、
　　絞粒砂粒ブロックを中量含む。D 6 - 1層に類似する。
D 3 - 2．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性やや強い、
　　焼土・炭化物をやや多量に含む。D 3 - 1層に類似する。
D 3 - 3．黒褐色土（10YR3/1）締まり強く、粘性強い、
　　白色粘土ブロックを少量含む。
D 6 - 1．暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性やや強い、
　　焼土ブロックを中量、絞粒砂粒ブロック多量に含む。

3区D－4号土坑　SPA
1．黒褐色（10YR3/1）締まりやや弱く、粘性やや強い、絞粒砂粒粒子・
　　焼土を少量含む。
2．暗褐色（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性やや強い、絞粒砂粒ブロック
　　焼土・炭化物を少量含む。
3．暗褐色（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性やや強い、絞粒砂粒ブロックを
　　多量に含む。
4．暗褐色（10YR3/3）締まりやや弱く、粘性強い。
3区D－5号土坑　SPA
D 5 - 1．黒褐色土（10YR3/1）　締まりやや弱く、粘性やや強い、
　　絞粒砂粒ブロックを中量含む。
D 5 - 2．暗黄褐色土（10YR3/3）絞粒砂粒ブロックを主体とする。締まり
　　弱く、粘性弱い、暗褐色土を少量含む。
D 5 - 3．暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや弱く、粘性弱い、絞粒砂粒ブロックを
　　多量、焼土・炭化物をやや多量に含む。
P 11 - 1．暗褐色土（10YR3/3）　締まりやや弱く、粘性弱い、炭化物を含む。
　　絞粒砂粒粒子の黄褐色砂をやや多量に含む。
P 11 - 2．黄褐色土（10YR5/6）　絞粒砂粒ブロックを主体とする。
　　締まり弱く、粘性弱い、黒色土を少量含む。
3区D－11号土坑　SPA
1．黒褐色（10YR3/1）砂質土。締まり弱く、粘性弱い。
2．褐色（7.5YR4/4）砂質土。締まりやや強く、粘性強い、炭土。
3．黒褐色（10YR3/1）砂質土。締まり弱く、粘性弱い、含有物少ない。
4．黒褐色（10YR3/1）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い、
　　絞粒砂粒ブロックを少量含む。
5．黒褐色（10YR3/1）砂質土。締まりやや弱く、粘性弱い、4層に似るが、
　　ブロックも多量に含む。
6．黒褐色（10YR3/1）砂質土を主体とする。締まり弱く、粘性弱い、
　　絞粒砂粒粒子を多量に含む。
7．黒色（10YR2/1）砂質土。締まり弱く、粘性弱い、絞粒砂粒粒子を少量含む。
8．にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土を主体とする。締まり弱く、粘性弱い、
　　絞粒砂粒ブロックを多く含む。

Fig.40　3区　D－1～6・11～14号土坑

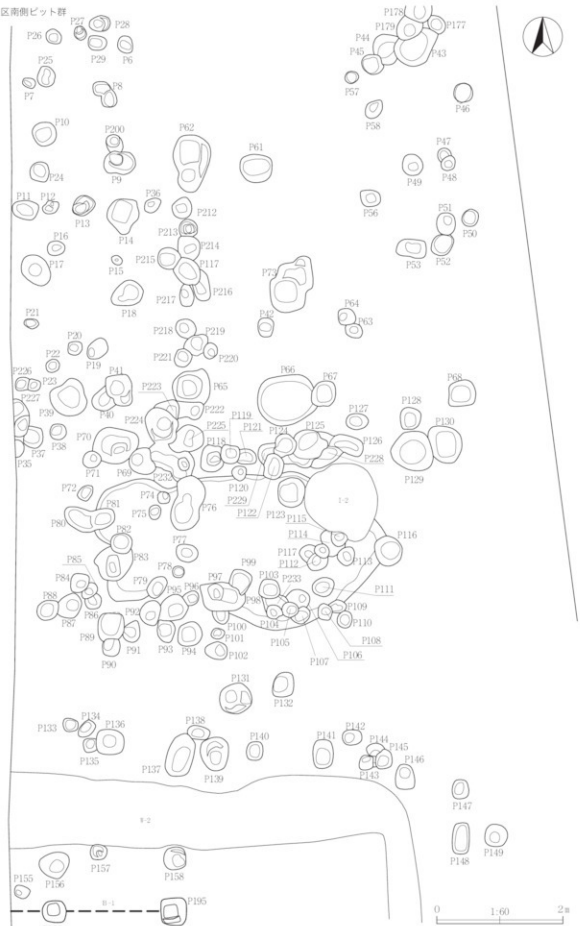


Fig.41　３区　調査区南側ピット群

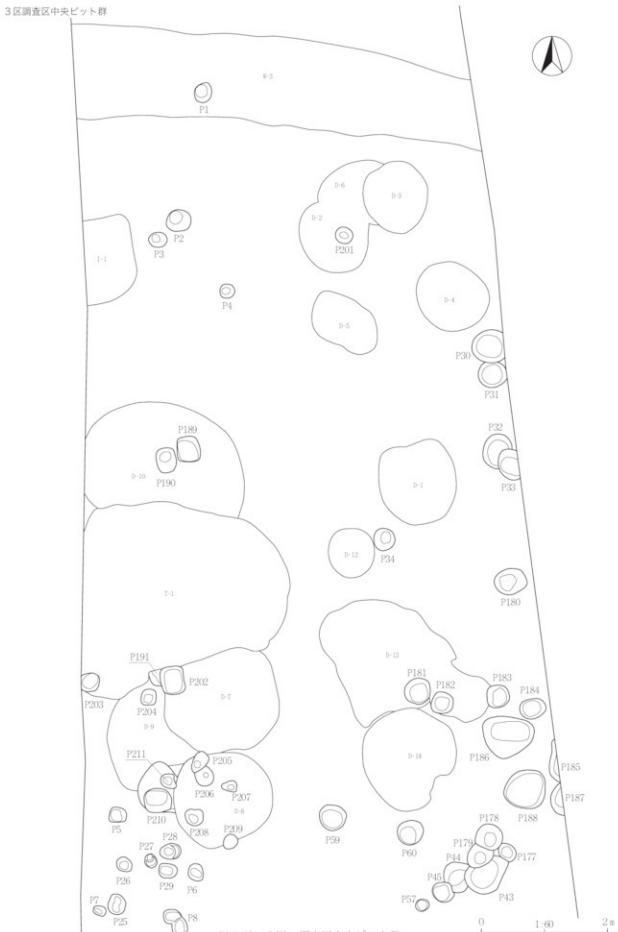


Fig.42　3区　調査区中央ピット群

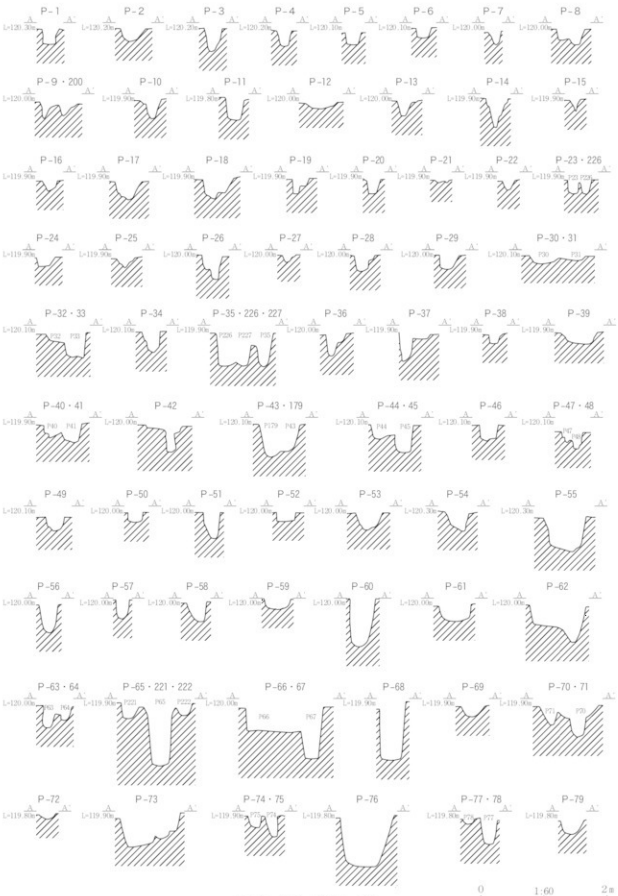


Fig.43　3区　ピット（1）

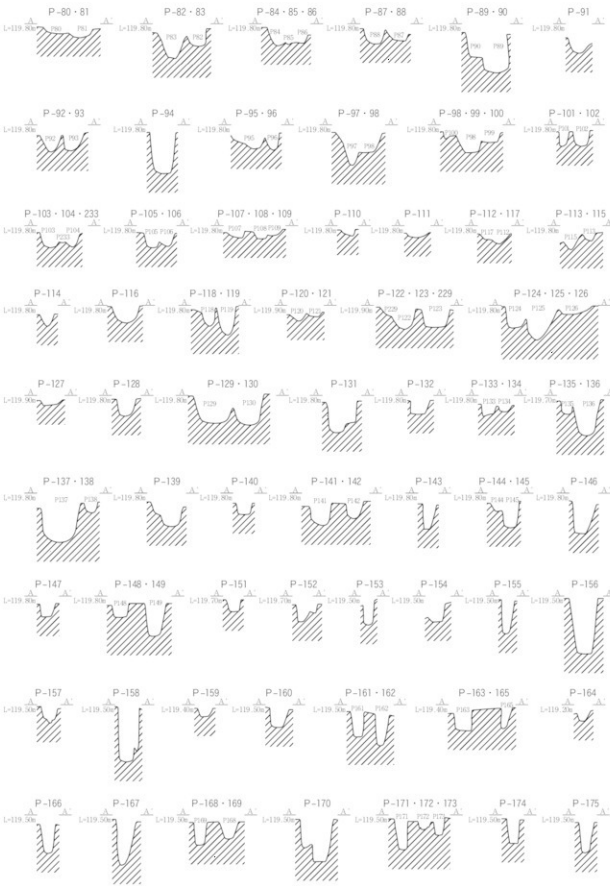


Fig.44 3区 ピット（2）

0 1:60 2m

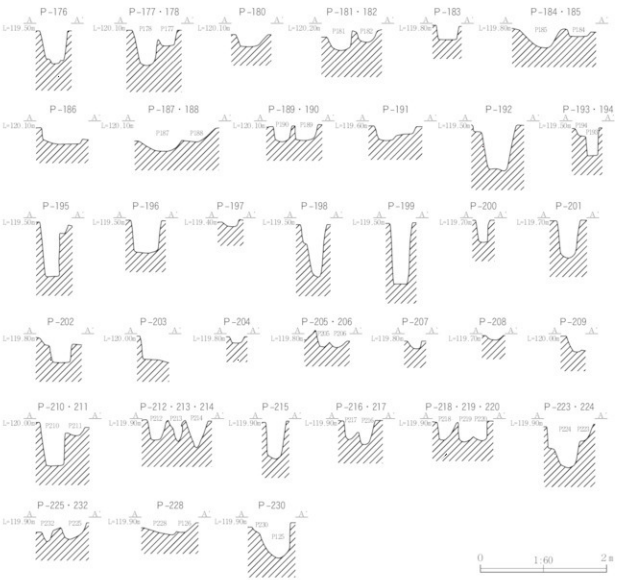


Fig.45　3区　ピット（3）

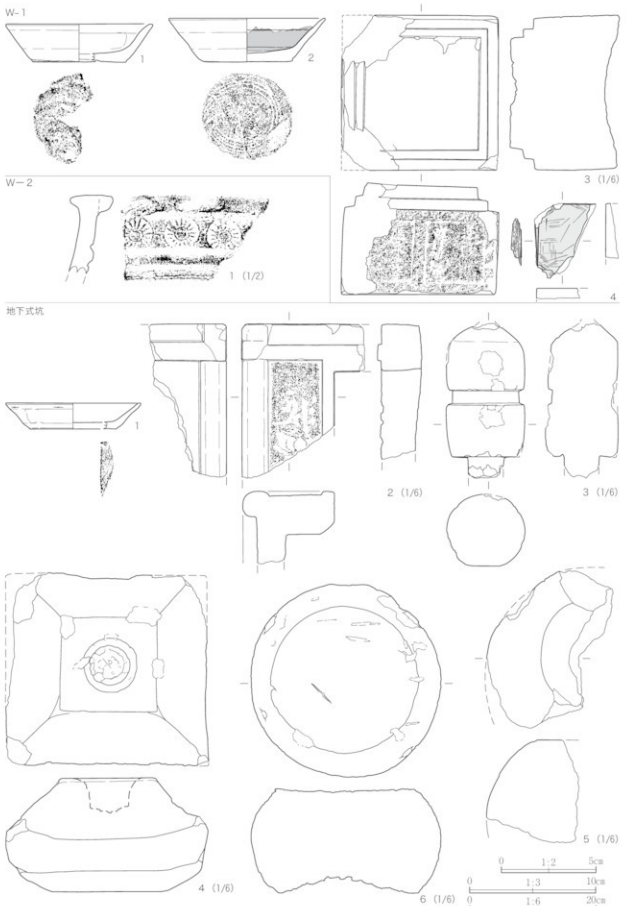


Fig.46　1区　W－1・2号溝跡、地下式坑出土遺物

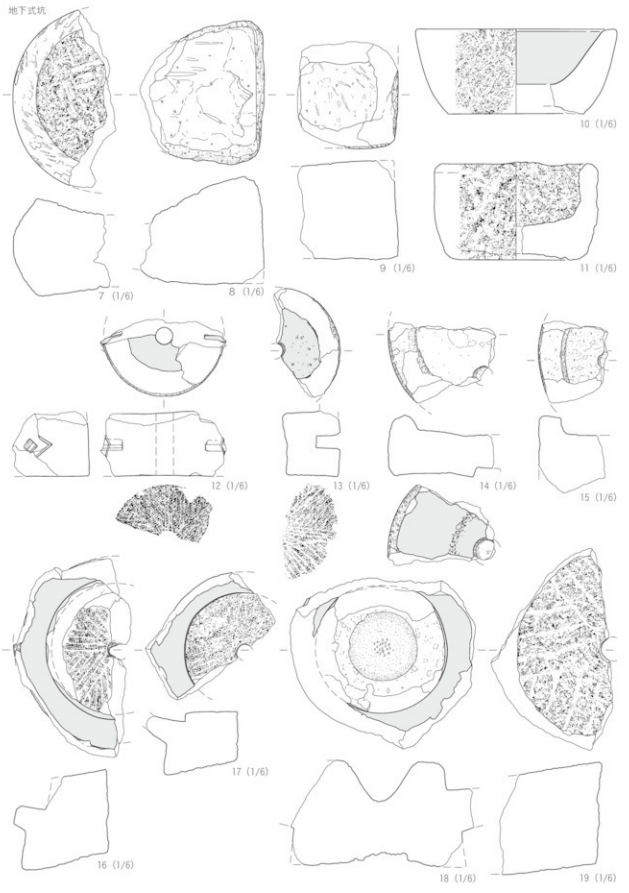


Fig.47　1区　地下式坑出土遺物

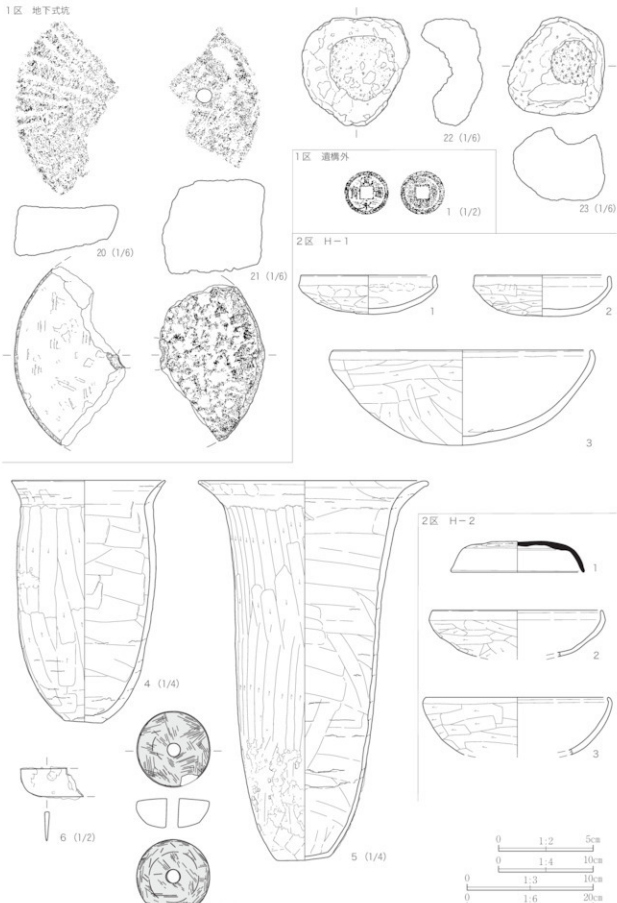


Fig.48　1区　地下式坑・遺構外、2区　H－1・2号住居跡出土遺物

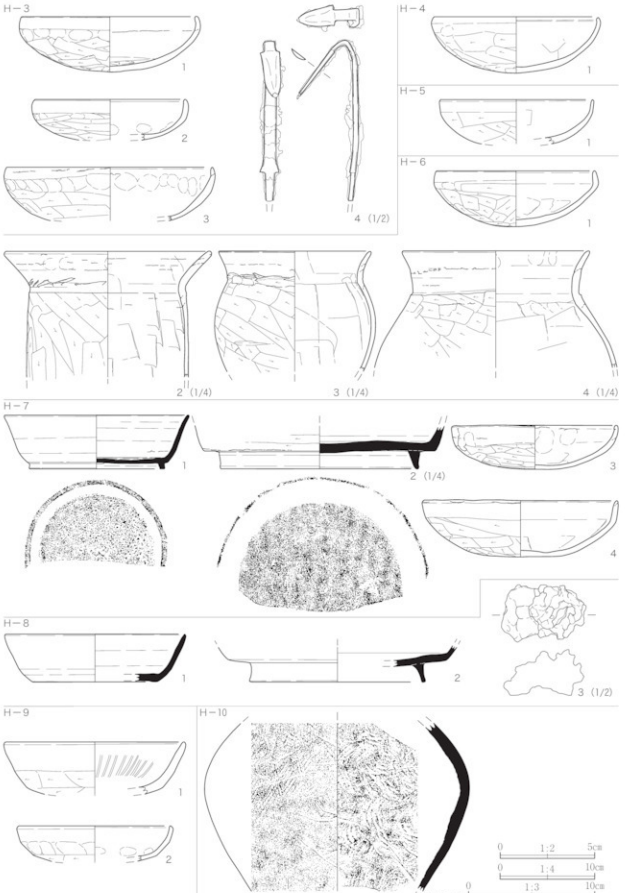


Fig.49　2区　H－3～10号住居跡出土遺物

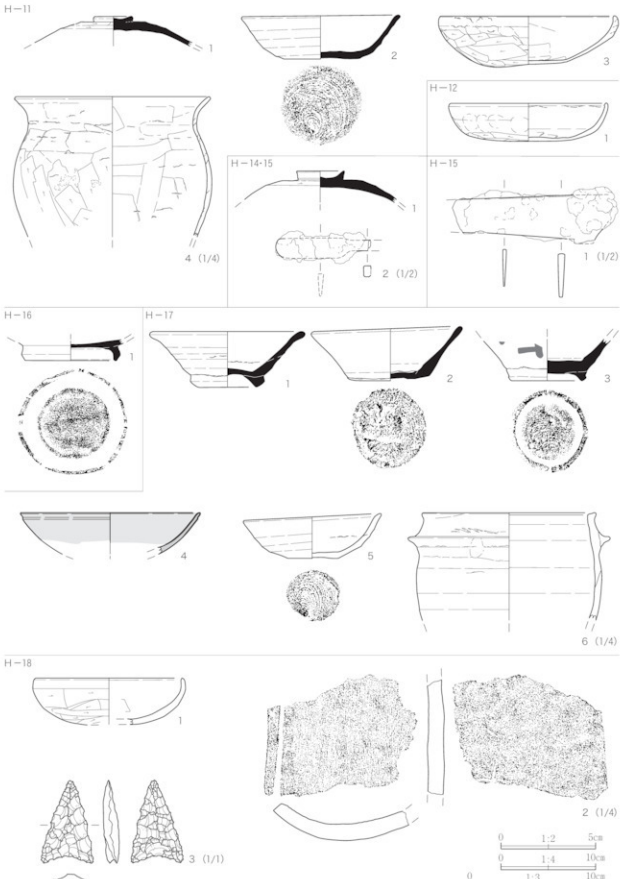


Fig.50　2区　H－11・12・14～18号住居跡出土遺物

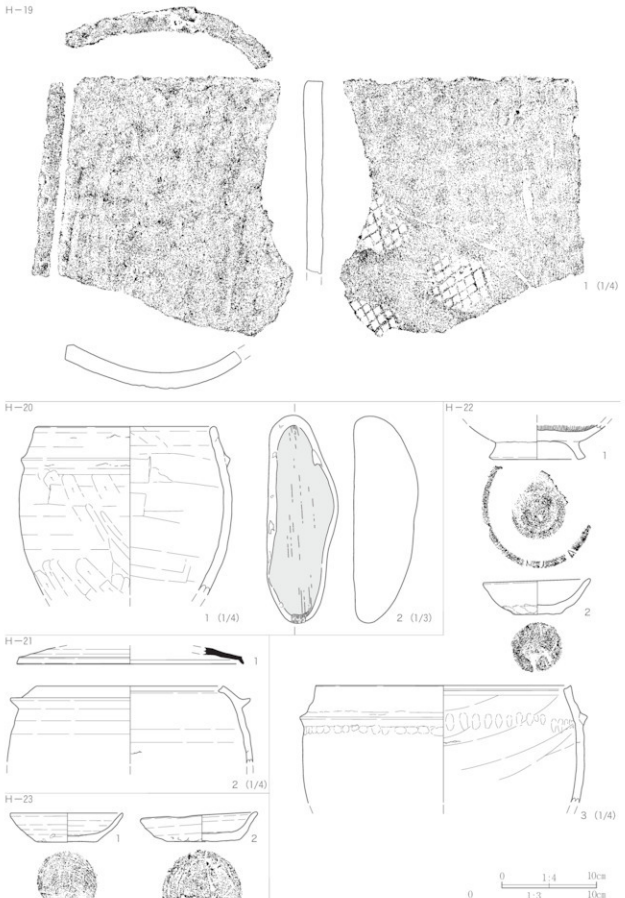


Fig.51　2区　H－19～23号住居跡出土遺物

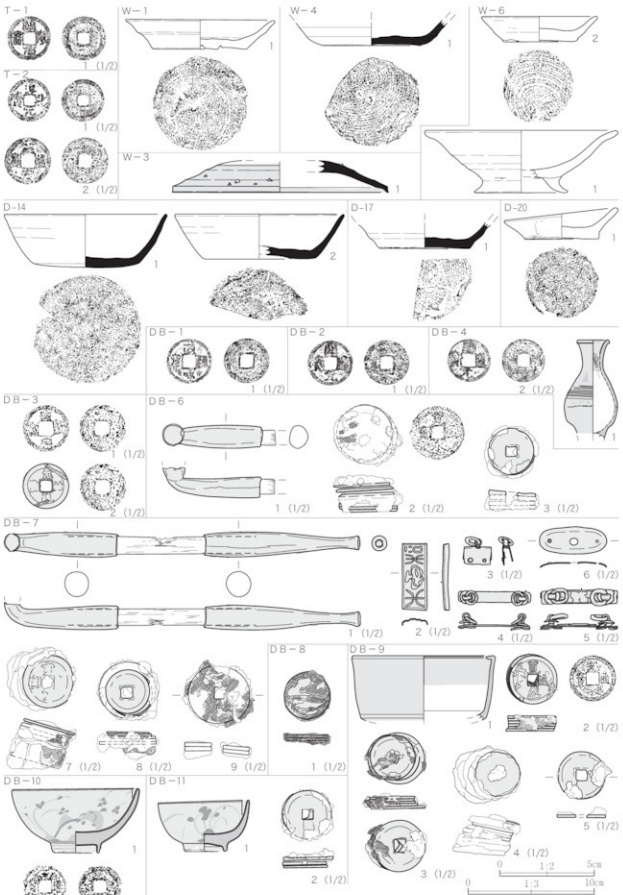


Fig.52　2区　T－1・2号竪穴状遺構、W－1～6号溝跡、D－14・17・20号土坑、DB－1～4・6～9号土壙墓出土遺物

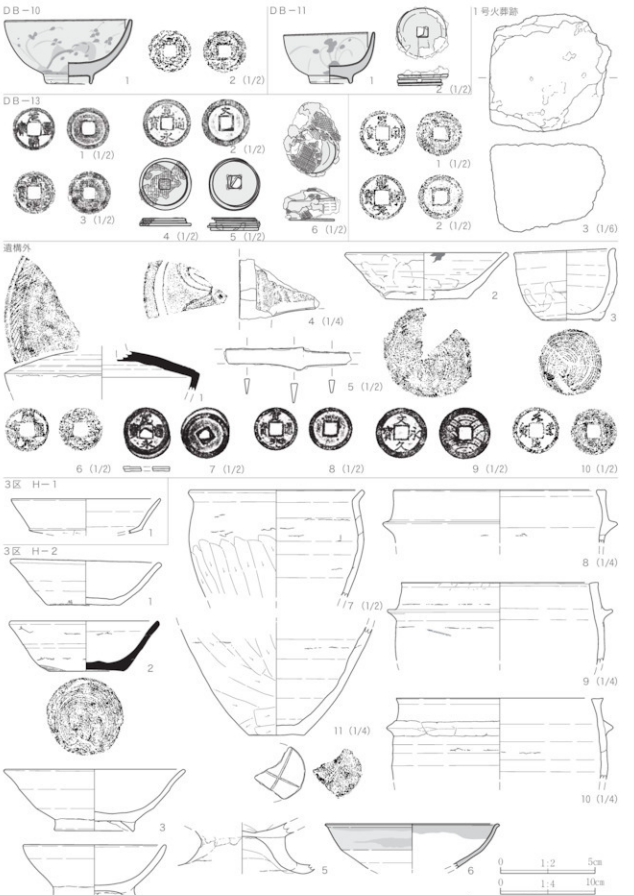


Fig.53　2区　DB－10・11・13号土壙墓、1号火葬跡、遺構外、3区　H－1・2号住居跡出土遺物

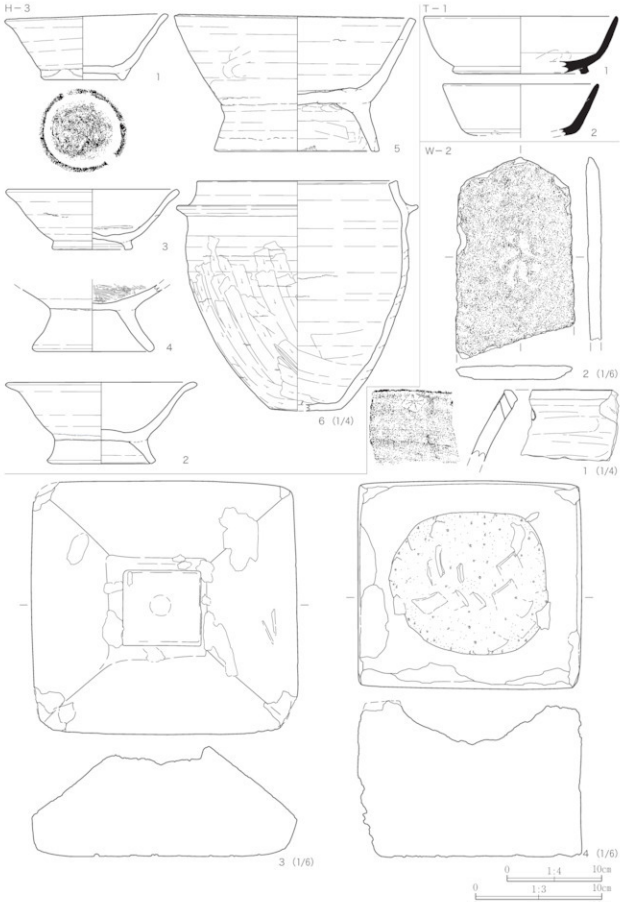


Fig.54　3区　H－3号住居跡、T－1号竪穴状遺構、W－2号溝跡出土遺物

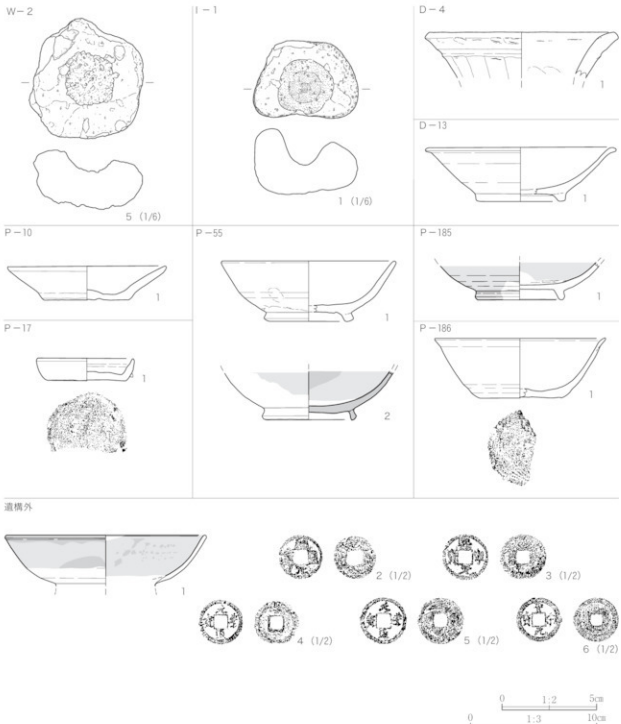
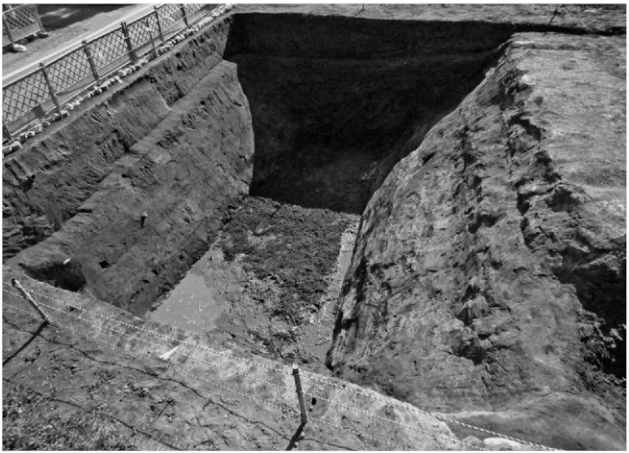


Fig.55　3区　W－2号溝跡、I－1号井戸跡、D－4・13号土坑、P－10・17・55・185・186号ピット、遺構外出土遺物

写真図版

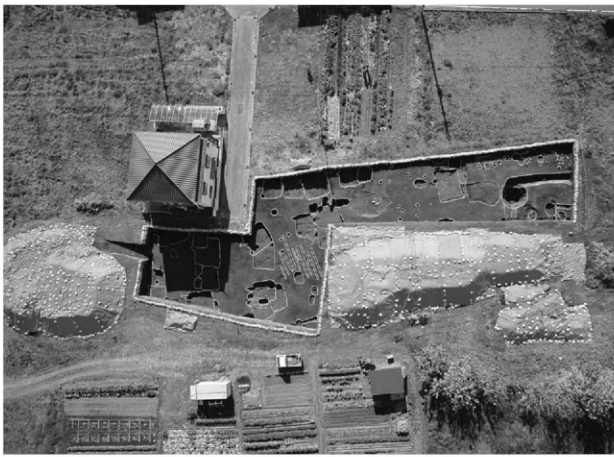
1区　W－1号溝跡全景（東から）



1区　W－2号溝跡全景（北から）

1区　地下式坑全景（南から）

1区　地下式坑遺物出土状況（南東から）



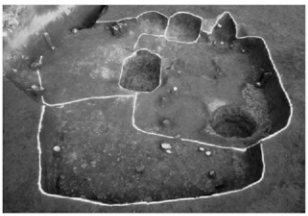
2区　調査区全景

2区　H－1号住居跡全景（北西から）

2区　H－1号住居跡竈全景（西から）

2区　H－1号住居跡竈天井石検出状況（西から）

2区　H－1号住居跡竈遺物検出状況（南から）

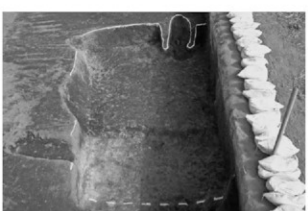


2区　H－2・17・18号住居跡全景（西から）

2区　H－3号住居跡全景（西から）

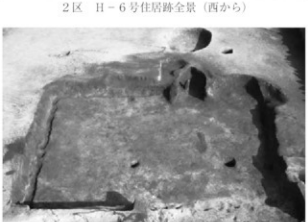
2区　H－4号住居跡全景（西から）

2区　H－5号住居跡全景（西から）

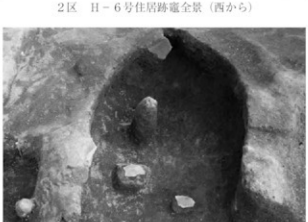


2区　H－6号住居跡全景（西から）

2区　H－6号住居跡竈全景（西から）



2区　H－7号住居跡全景（西から）



2区　H－7号住居跡竈全景（西から）

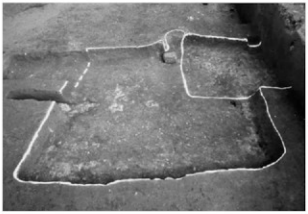
2区　H－8号住居跡全景（西から）

2区　H－8号住居跡竈全景（西から）

2区　H－9号住居跡全景（西から）

2区　H－9号住居跡竈全景（西から）

2区　H－10号住居跡全景（西から）

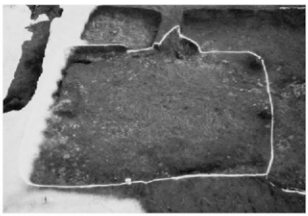


2区　H－11・21号住居跡全景（西から）

2区　H－12号住居跡全景（西から）

2区　H－13号住居跡全景（北から）

2区　H－14・15号住居跡全景（西から）



2区　H－16号住居跡全景（西から）

2区　H－19号住居跡全景（西から）

2区　H－19号住居跡竈全景（西から）

2区　H－20号住居跡全景（西から）

2区　H－22号住居跡竈全景（西から）

2区　H－22号住居跡竈全景（西から）

2区　H－22号住居跡竈遺物出土状況（西から）

2区　H－23号住居跡全景（西から）

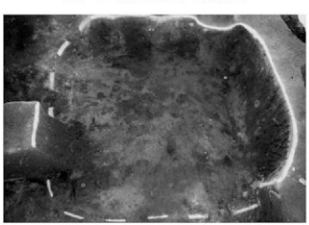
2区　H－23号住居跡竈全景（西から）

2区　T－1号竪穴状遺構全景（西から）

2区　W－1号溝跡・I－1号井戸跡全景（南東から）

2区　W－3号溝跡全景（南東から）

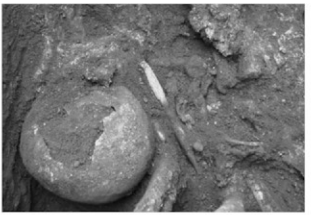
2区　W－6号溝跡全景（南から）



2区　DB－2号土壙墓全景（北から）

2区　DB－4号土壙墓全景（南から）

2区　DB－7号土壙墓全景（南から）



2区　DB－7号土壙墓遺物検出状況（南から）

2区　DB－8号土壙墓全景（北から）

2区　DB－9号土壙墓全景（南から）

2区　1号火葬跡全景（南から）

2区　2号火葬跡全景（南から）

2区　調査風景（南東から）

2区　調査風景（西から）

3区　調査区全景（北から）

3区　B－1号掘立柱建物跡全景（東から）

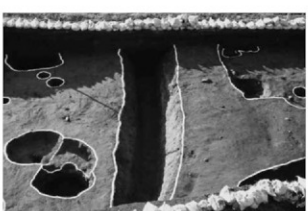
3区　H－1号住居跡全景（西から）

3区　H－2号住居跡全景（北から）

3区　H－2号住居跡全景（北から）

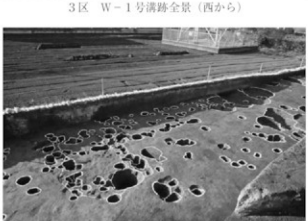
3区　H－3号住居跡遺物検出状況（北西から）

3区　T－1号竪穴状遺構（西から）



3区　W－1号溝跡全景（西から）

3区　I－1号井戸跡全景（東から）



3区　ピット群全景（南東から）

1区W－1－1

1区W－1－2

1区W－2－1

1区地下式坑－1

1区地下式坑－3

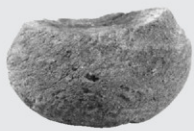
1区W－1－3

1区地下式坑－2

1区地下式坑－4

1区地下式坑－5

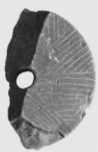
1区地下式坑－6


1区地下式坑－7

1区地下式坑－8

1区地下式坑－10

1区地下式坑－11


1区地下式坑－12

1区地下式坑－13

1区地下式坑－14

1区地下式坑－16

1区地下式坑－17

1区地下式坑－18

1区地下式坑－19

1区地下式坑－20

1区地下式坑－22

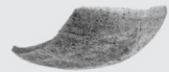
1区地下式坑－23

1区遺構外－1(1/2)

1区地下式坑－21

2区H－1－1

2区H－1－2


2区H－1－3

2区H－1－5

2区H－1－6(1/2)

2区H－1－4

2区H－1－7(1/2)

2区H－2－1

2区H－2－2

2区H－2－3

2区H－3－1

2区H－3－2

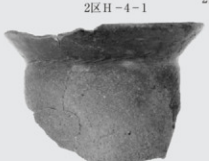
2区H－3－3

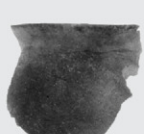
2区H－3－4(1/2)

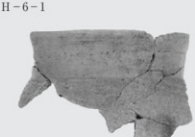
2区H－4－1

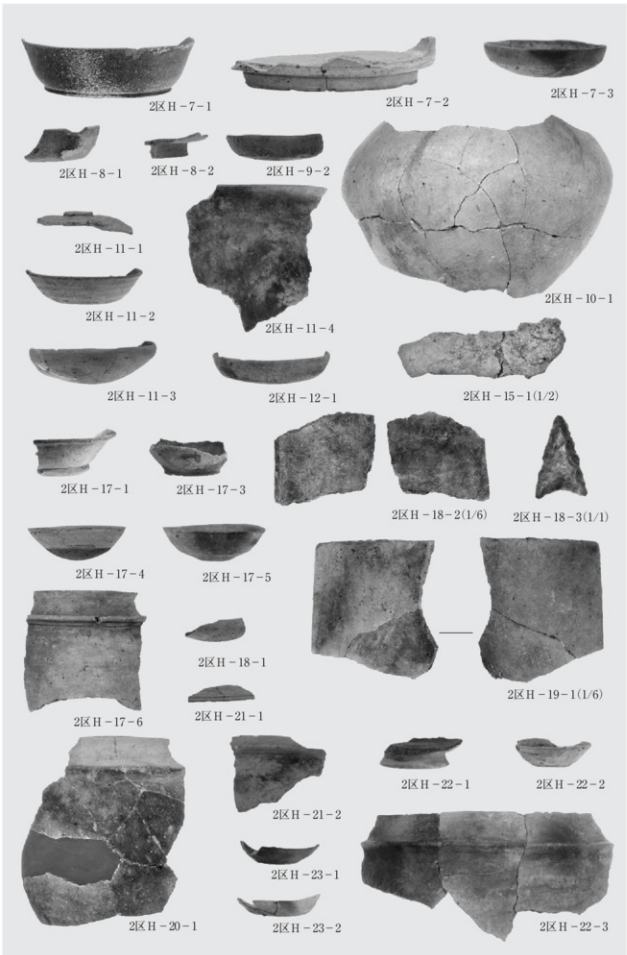
2区H－5－1

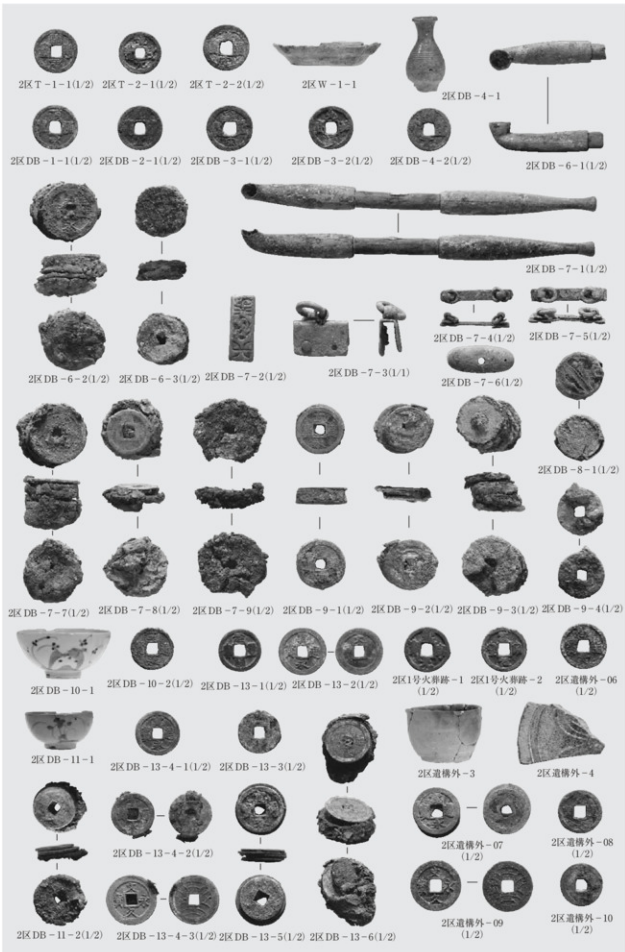
2区H－6－1

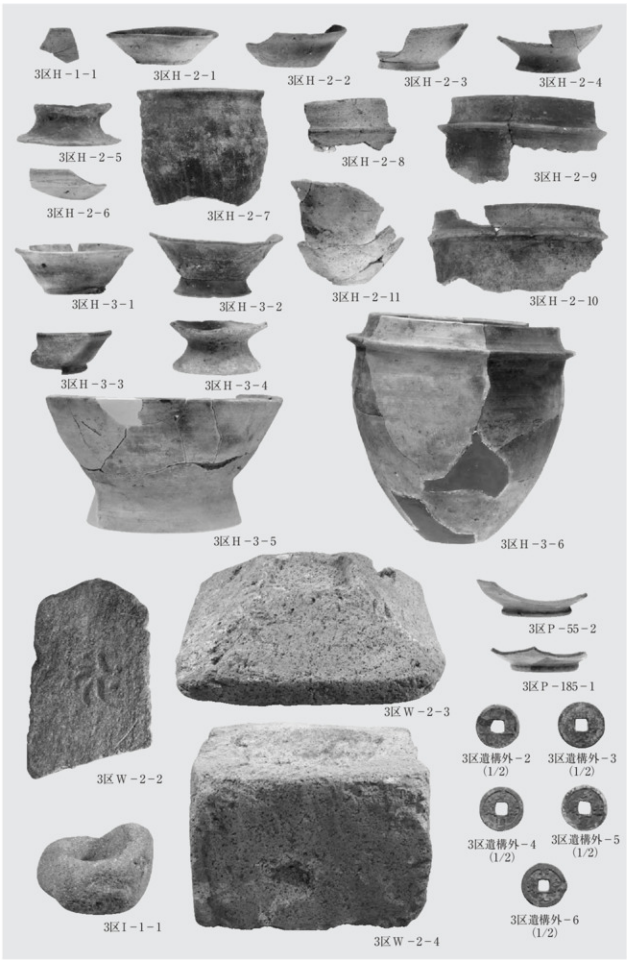

2区H－6－2


2区H－6－3


2区H－6－4


2区H－7－1
2区H－7－2
2区H－7－3
2区H－8－1
2区H－8－2
2区H－9－2
2区H－10－1
2区H－11－1
2区H－11－2
2区H－11－4
2区H－11－3
2区H－12－1
2区H－15－1(1/2)
2区H－17－1
2区H－17－3
2区H－18－2(1/6)
2区H－18－3(1/1)
2区H－17－4
2区H－17－5
2区H－19－1(1/6)
2区H－18－1
2区H－17－6
2区H－21－1
2区H－22－1
2区H－22－2
2区H－21－2
2区H－23－1
2区H－20－1
2区H－23－2
2区H－22－3


2区T－1－1(1/2)
2区T－2－1(1/2)
2区T－2－2(1/2)
2区W－1－1
2区DB－4－1
2区DB－6－1(1/2)
2区DB－1－1(1/2)
2区DB－2－1(1/2)
2区DB－3－1(1/2)
2区DB－3－2(1/2)
2区DB－4－2(1/2)
2区DB－7－1(1/2)
2区DB－6－2(1/2)
2区DB－6－3(1/2)
2区DB－7－2(1/2)
2区DB－7－3(1/1)
2区DB－7－4(1/2)
2区DB－7－5(1/2)
2区DB－7－6(1/2)
2区DB－8－1(1/2)
2区DB－7－7(1/2)
2区DB－7－8(1/2)
2区DB－7－9(1/2)
2区DB－9－1(1/2)
2区DB－9－2(1/2)
2区DB－9－3(1/2)
2区DB－9－4(1/2)
2区DB－10－1
2区DB－10－2(1/2)
2区DB－13－1(1/2)
2区DB－13－2(1/2)
2区1号火葬跡－1 (1/2)
2区1号火葬跡－2 (1/2)
2区遺構外－06 (1/2)
2区DB－11－1
2区DB－13－4－1(1/2)
2区DB－13－3(1/2)
2区遺構外－3
2区遺構外－4
2区DB－13－4－2(1/2)
2区遺構外－07 (1/2)
2区遺構外－08 (1/2)
2区DB－11－2(1/2)
2区DB－13－4－3(1/2)
2区DB－13－5(1/2)
2区DB－13－6(1/2)
2区遺構外－09 (1/2)
2区遺構外－10 (1/2)


3区H－1－1
3区H－2－1
3区H－2－2
3区H－2－3
3区H－2－4
3区H－2－5
3区H－2－6
3区H－2－7
3区H－2－8
3区H－2－9
3区H－2－11
3区H－2－10
3区H－3－1
3区H－3－2
3区H－3－3
3区H－3－4
3区H－3－5
3区H－3－6
3区P－55－2
3区P－185－1
3区W－2－3
3区W－2－2
3区遺構外－2
(1/2)
3区遺構外－3
(1/2)
3区遺構外－4
(1/2)
3区遺構外－5
(1/2)
3区遺構外－6
(1/2)
3区I－1－1
3区W－2－4

発 掘 調 査 抄 録

フ リ ガ ナ	モトソウジャオウミイセキグン（29）
書　　名	元総社蒼海遺跡群（29）
副　書　名	前橋市都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編 著 者 名	神宮　聡・山田　誠司
編 集 機 関	技研測量設計株式会社
発 行 機 関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
発行機関所在地	前橋市三俣町二丁目10-2
発 行 年 月 日	西暦2010年３月12日

フリガナ	フ リ ガ ナ	コ ー ド		位　置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所　在　地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 （29）	マエバシシソウジャマチソウジャ 前橋市総社町総社 1926番地ほか	10201	21A130-29	（1区） 36°23′22	139°2′4	20090925 ～ 20091214	1750㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業
				（2区） 36°23′35	139°1′50			
				（3区） 36°23′25	139°2′4			

所収遺跡名	種　別	主な時代	主 な 遺 構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 （29）	集落跡 その他	古墳～平安時代 中・近世	竪穴住居跡　26軒 堀・溝　12条 掘立柱建物　1軒 墓壙　14基 火葬跡　2基 地下式坑　1基 井戸・土坑・ピット　333基	灰釉陶器 須恵器 土師器 カワラケ 宝篋印塔 五輪塔 板碑 古銭	古墳時代～平安時代の集落遺跡。 蒼海城に伴うと推定される堀跡。 中・近世期の土壙墓・火葬跡。

元総社蒼海遺跡群（29）

2010年３月８日　印刷
2010年３月12日　発行

発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町２丁目10-２
TEL　027-231-9531

編集　技研測量設計株式会社
印刷　朝日印刷工業株式会社